

NEC

P C 9 8 -

NX

活用ガイド ハードウェア編

本機の機能

周辺機器を使う

システムの設定

PC98-**NX** SERIES

VersaPro

VA12J/DG・VA11J/DF
VA10J/DF・VA86J/DF
VA86J/DX・VA80H/DF
VA80H/DX

マニュアルの 主な内容

このパソコンには、次のマニュアルが用意されています。



『はじめにお読みください』

このパソコンの接続方法やWindowsのセットアップ手順について説明しています。

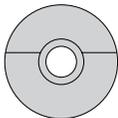
- 型番の確認
- 添付品の接続
- Windowsのセットアップ
- マニュアル紹介



『活用ガイド 再セットアップ編』

このパソコンを再セットアップする場合の方法について説明しています。

- 再セットアップの方法



『アプリケーションCD-ROM/マニュアル CD-ROM』

『活用ガイド ハードウェア編』、『活用ガイド ソフトウェア編』が収録されています。利用方法については『はじめにお読みください』をご覧ください。

『活用ガイド ハードウェア編』

このパソコンの取り扱い方法などを説明しています。

- キーボード、ハードディスク、CD-ROMドライブなどの取り扱い
- 周辺機器の接続と利用方法
- システム設定について

『活用ガイド ソフトウェア編』

アプリケーションの利用方法、追加と削除の方法について説明しています。また、さまざまなトラブルへの対応方法をQ&A形式で説明しています。

- 添付アプリケーションの概要と追加/削除
- パソコンのメンテナンスと管理
- トラブル解決Q&A



はじめに

このマニュアルは、パソコンの取り扱い方法について説明するものです。

周辺機器やオプションを接続してパソコンを拡張する場合、パソコンの設定を変更する場合などに、このマニュアルをご利用ください。

2001年11月 初版

対象機種

VA12J/DG、VA11J/DF、VA10J/DF、VA86J/DF、VA86J/DX、VA80H/DF、VA80H/DX

853-810028-213-A

このマニュアルの表記について

このマニュアルでは、パソコンを安全にお使いいただくための注意事項を次のように記載しています。



警告

注意事項を守っていただけない場合、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

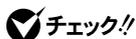
注意事項を守っていただけない場合、人が傷害を負う可能性が想定されること、または物的損害のみの発生が想定されることを示します。



感電注意

注意事項を守っていただけない場合、発生が想定される障害または事故の内容を表しています。左のマークは感電の可能性が想定されることを示しています。このほかに、毒物注意、破裂注意、高温注意についても、それぞれ記載しています。

このマニュアルで使用している記号や表記には、次のような意味があります。



チェック!!

してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性もあります。



用

語

パソコンを使うときに知っておいていただきたい用語の意味を解説しています。

利用の参考となる補足的な情報をまとめています。

参照

マニュアルの中で関連する情報が書かれている所を示しています。

このマニュアルで使用している表記の意味

CD-ROMモデル	CD-ROMドライブを内蔵しているモデルのことです。
CD-R/RWモデル	CD-R/RWドライブを内蔵しているモデルのことです。
CD-R/RW with DVD-ROMモデル	CD-R/RW with DVD-ROMドライブを内蔵しているモデルのことです。
FAXモデム内蔵モデル	FAXモデムを内蔵しているモデルのことです。
ワイヤレスLAN (無線LAN)モデル	ワイヤレスLANインターフェイスを内蔵しているモデルのことです。
LAN内蔵モデル	LANインターフェイスを内蔵しているモデルのことです。
内蔵指紋センサモデル	指紋センサを内蔵しているモデルのことです。
Bluetooth™モデル	Bluetooth™インターフェイスを内蔵しているモデルのことです。
暗証番号機能モデル	セキュリティ用の暗証番号入力機能を搭載したモデルのことです。
BIOSセットアップメニュー	本文中に記載されているBIOSセットアップメニューは、BIOSセットアップユーティリティを指します。
【 】	【 】 で囲んである文字は、キーボードのキーを指します。
「スタート」ボタン	「スタート」ボタンをクリックし、現れたポップアップメニューから「すべてのプログラム」
「すべてのプログラム」	「すべてのプログラム」を選択し、横に現れるサブメニューから「アクセサリ」
「アクセサリ」	「メモ帳」を順に選択する操作を指します。
「メモ帳」	
「デバイス マネージャ」 を開く	「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「システム」をクリックし、表示される「システムのプロパティ」ウインドウの「ハードウェア」タブ 「デバイス マネージャ」ボタンをクリックする操作を指します。

このマニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows、 Windows XP	Microsoft® Windows® XP Professional operating system 日本語版
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system 日本語版
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system 日本語版
Windows 98SE	Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system 日本語版
Windows NT 4.0	Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version 4.0 日本語版
インターネット エクスプローラ	Microsoft® Internet Explorer 6.0
Outlook	Microsoft® Outlook® Version 2002
Outlook Express	Microsoft® Outlook® Express 6.0
StandbyDisk	StandbyDisk 2000-XP Pro 日本語版

このマニュアルで使用しているイラストと画面

- ・本機のイラストや記載の画面は、モデルによって異なることがあります。
- ・本書に記載の画面は、実際の画面とは多少異なることがあります。



当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク・ロゴは参加各国の間で統一されています。

技術基準等適合認定について

このパーソナルコンピュータは、電気通信事業法第72条の2第1項規定に基づく端末機器の設計についての認証を受けています。認証番号は次のとおりです。なお、専用回線等との接続は、一般のお客様には行えませんので、必ずご購入元にご相談ください。

対象機種	認証番号
VA12J/DG VA86J/DX VA11J/DF VA80H/DF VA10J/DF VA80H/DX VA86J/DF	A01-0599JP

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としています。この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

この装置は、社団法人電子情報技術産業協会のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

瞬時電圧低下について

[バッテリーバックを取り付けていない場合]

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをおすすめします。

[バッテリーバックを取り付けている場合]

本装置にバッテリーバック実装時は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインを満足しますが、ガイドラインの基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。

レーザー安全基準について

本機には、レーザーに関する安全基準(JIS-C-6802、IEC825)クラス1適合のCD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブのいずれかが内蔵されています。

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容については万全を期して作成いたしました。万が一不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、最寄りのBIT-INN、またはNEC 121コンタクトセンターへご連絡ください。落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。ご購入元までご連絡ください。
- (4) 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、(3)項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、予めご了承ください。
- (5) 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておられません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じて、当社はいかなる責任も負いかねます。
- (6) 海外における保守・修理対応は、海外保証サービス NEC UltraCareSM International ServiceTM 対象機種に限り、当社の定める地域・サービス拠点にてハードウェアの保守サービスを行います。サービスの詳細や対象機種については、以下のホームページをご覧ください。
<http://www.ultracare.nec.co.jp/jpn/>
- (7) 本機の内蔵ハードディスクにインストールされているWindowsは本機でのみご使用ください。また、本機に添付のCD-ROM、フロッピーディスクは、本機のみでしかご利用になれません(詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください)。
- (8) ソフトウェアの全部または一部を著作権の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
- (9) ハードウェアの保守情報をセーブしています。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Outlook、およびWindowsのロゴは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Pentiumは、Intel Corporationの登録商標です。

Celeronは、Intel Corporationの商標です。

SpeedStepは、Intel Corporationの商標です。

Hayesは、米国Hayes Microcomputer Productsの登録商標です。

MNPIは、Microcom, Inc.の登録商標です。

PS/2はIBM社が所有している商標です。

pcAnywhereは、Symantec Corporationの登録商標です。

IntelおよびLANDeskは、Intel Corporationの米国およびその他の国々における登録商標です。

Intel[®] LANDesk[®] Client Manager 6 (with NEC Extensions)は、Intel[®] LANDesk[®] Client Managerのテクノロジーを使用しています。

cdmaOneは、CDGの登録商標です。

StandbyDiskTMは、(株)ネットジャパンの商標です。

DuoCorはDuoCor, Inc.の登録商標です。

BluetoothTMはその商標権者が所有しており、NECはライセンスに基づき使用しております。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

©NEC Corporation, NEC Custom Technica, Ltd 2001

日本電気株式会社、NECカスタムテクニカ株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

輸出に関する注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等はありません。(ただし、海外保証サービス NEC UltraCareSM International Service 対象機種については、海外でのハードウェア保守サービスを実施致します。)

本製品の輸出(個人による携行を含む)については、外国為替および外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせ下さい。

Notes on export

This product(including software)is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.NEC ¹ will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.NEC ¹ does not provide maintenance service nor technical support for this product outside Japan.(Only some products which are eligible for NEC UltraCareSM International Service can be provided with hardware maintenance service outside Japan.)

Export of this product(including carrying it as personal baggage)may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law.Export without necessary permit is punishable under the said law.Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

1:NEC Corporation, NEC Custom Technica, Ltd.

本機の機能	15
各部の名称	16
本体前面	16
本体背面	17
本体底面	18
表示ランプ	19
表示ランプの名称と役割	19
ワンタッチスタートボタン	22
ワンタッチスタートボタンを使う	22
ワンタッチスタートボタンの設定を変更する	23
キーボード	25
キーの名称	25
キーの使い方	26
キーボードの設定をする	28
NXパッド	29
NXパッドの使い方	29
スクロールスライドスイッチを使う	30
NXパッドドライバをインストールする	31
NXパッドの設定をする	33
ハードディスク	34
ハードディスク使用上の注意	34
領域の確保とフォーマット	34
セカンドハードディスクを使う	37
ハードディスクのメンテナンス	37
フロッピーディスクドライブ	38
各部の名称と役割	38
使用できるフロッピーディスクの種類	38
使用上の注意	39
CD-ROMドライブ・CD-R/RWドライブ	
・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ	40
各部の名称と役割	40
使用できるディスク	40
使用上の注意	41
液晶ディスプレイ	42
画面表示を調整する	42
表示できる解像度と表示色	43
解像度と表示色を変更する	44
バーチャルスクリーン	45

デュアルディスプレイ機能	46
バッテリー	48
バッテリーで本機を使う場合の注意	48
充電のしかた	49
バッテリー残量の確認	50
バッテリーリフレッシュ	51
バッテリーパックの交換	53
バッテリー容量を増やす	56
省電力機能	57
省電力機能とは	57
省電力機能使用上の注意	58
スタンバイ状態(サスペンド)にする	59
休止状態(ハイバネーション)にする	60
スタンバイ状態または休止状態から復帰(レジューム)する	60
省電力機能の設定をする	61
電源の自動操作	64
セキュリティ機能	65
本機のセキュリティ機能	65
パスワード	65
ハードディスクのパスワード	68
指紋認証機能	72
暗証番号ボタン	72
その他のセキュリティ機能を使う	74
赤外線通信機能	75
赤外線通信を行う前に	75
機器の配置について	76
赤外線通信をする	77
サウンド機能	79
ボリュームコントロールを表示させる	79
表示項目を切り替える	79
モデム	81
電話回線との接続	81
ダイヤル設定のしかた	82
通信機能使用上の注意	84
インターネットへの通信環境を切り替える	86
携帯電話 / PHS接続機能	87
携帯電話またはPHSとの接続	87
接続先を設定する	88
ダイヤル設定のしかた	88
携帯電話 / PHS接続機能使用上の注意	88

いろいろなデータ通信を行う	89
LAN(ローカルエリアネットワーク)	91
LANへの接続	91
運用上の注意	92
本機の運用管理	93
ワイヤレスLAN(無線LAN)	98
ワイヤレスLAN(無線LAN)機能を使う	98
Bluetooth™機能	99
Bluetooth™機能を使う	99
周辺機器を使う	101
接続できる周辺機器	102
本体に接続できる周辺機器一覧	102
周辺機器の利用	104
周辺機器利用上の注意	104
周辺機器の取り外しと再接続	107
プリンタ	109
プリンタの接続	109
プリンタの設定	110
マウス	111
別売のマウスの設定方法	111
NXパッドを使用する設定に戻す	113
他社製のマウスドライバを使用する場合の注意	114
外部ディスプレイ	115
CRTディスプレイの接続	115
プロジェクタの接続	116
テレビの接続	117
外部ディスプレイの設定	118
PCカード	119
使用上の注意	119
PCカードのセットのしかたと取り出し方	120
PCカードの設定	121
メモリ	122
メモリ容量について	122
メモリの取り付け方と取り外し方	122
IEEE1394コネクタ	128
IEEE1394とは	128

IEEE1394対応機器を接続する	128
VersaBay IV	131
VersaBay IVで使用できる機器	131
VersaBay IVの機器を交換するための準備	131
VersaBay IVの機器を交換する	132
MultiBay	134
MultiBayで使用できる機器	134
MultiBayの機器を交換するための準備	134
MultiBayの機器を交換する	134
USBコネクタ	136
USBとは	136
USBコネクタに接続する	136
その他の機器	139
本機で使用できるその他の機器	139
シリアルコネクタ	140
パラレルコネクタ	140
マウス/テンキーボード用コネクタ	140

PART

3

システムの設定 141

BIOSセットアップメニュー	142
BIOSセットアップメニューを使ってできること	142
BIOSセットアップメニューを日本語表示にするには	142
BIOSセットアップメニューを使う	143
BIOSセットアップメニューを終了する	144
購入時の値に戻す	145
設定項目一覧	146
起動の設定	152

PART

4

付録 153

本機のお手入れ	154
お手入れをはじめる前に	154
お手入れをする	155
機能一覧	156
仕様一覧	156
内蔵FAXモデム機能仕様	168
携帯電話/PHS接続機能	170
内蔵LAN機能仕様	171

割り込みレベルとDMAチャンネル	172
割り込みレベルとDMAチャンネルについて	172
索引	175

P A R T

1

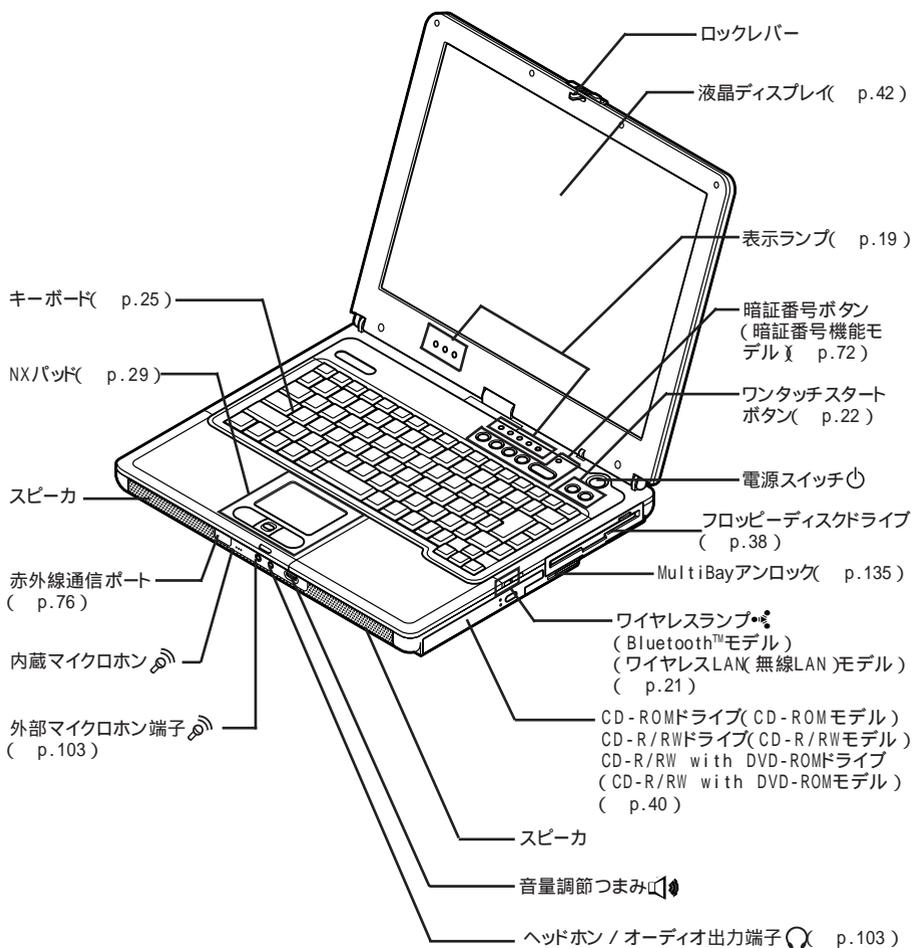
本機の機能

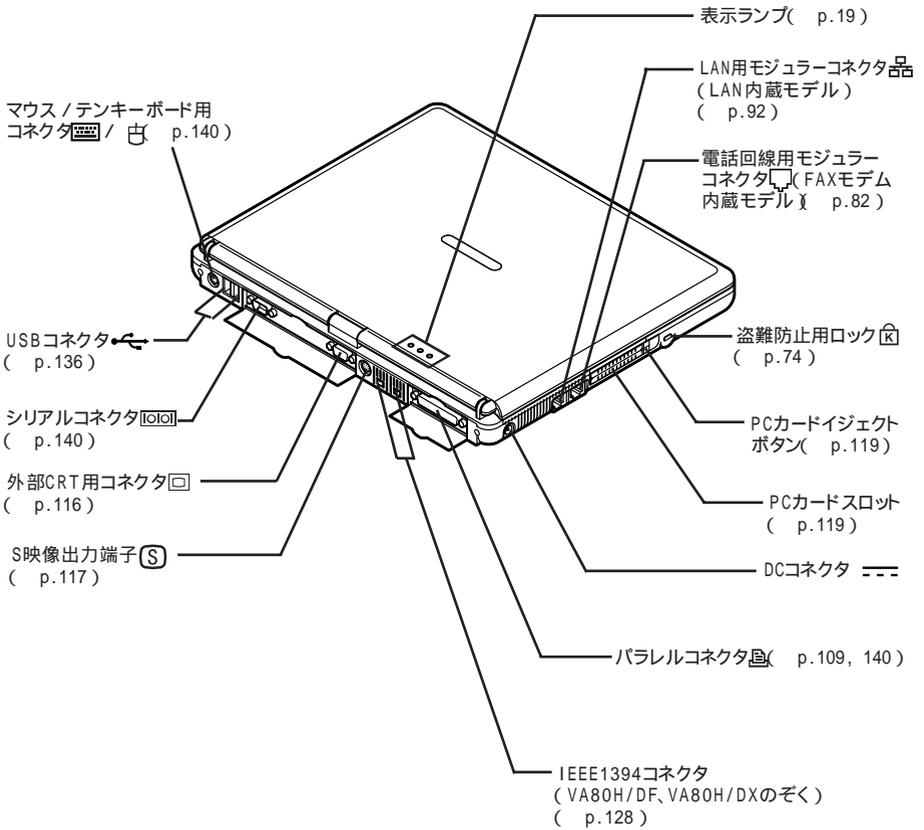
本機の各部の名称といろいろな機能について説明しています。

各部の名称

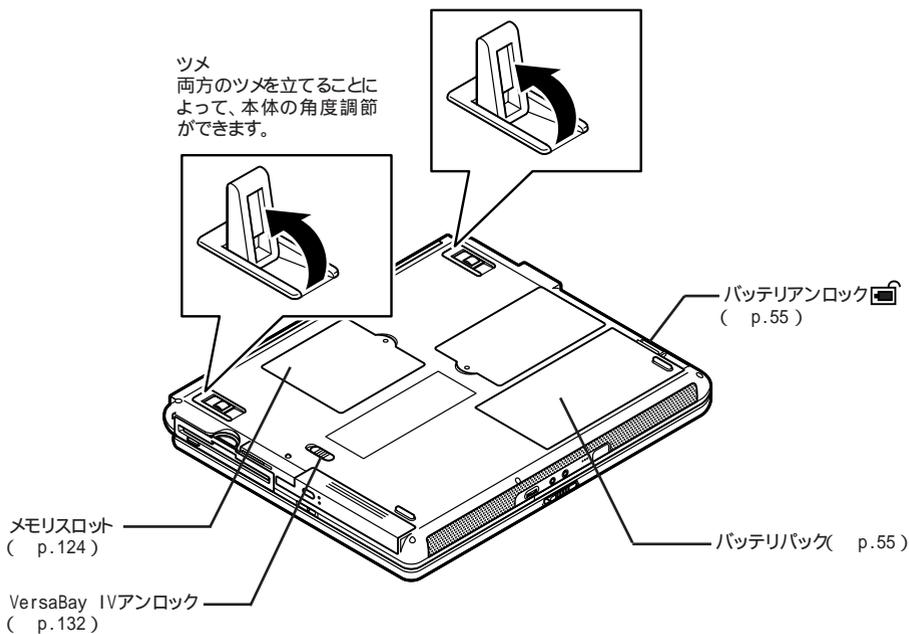
本機の各部の名称と配置について説明しています。それぞれの機能や取り扱い方については、参照ページをご覧ください。

本体前面





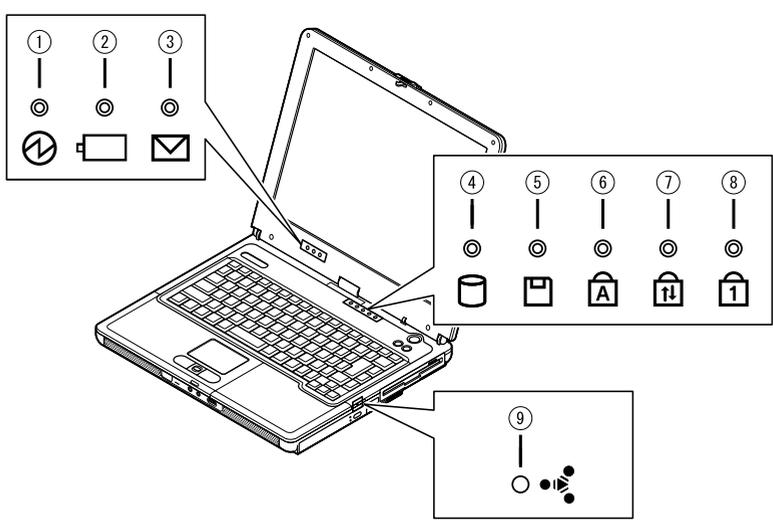
本体底面



本体底面の形状は、お使いの機種によってイラストと多少異なる場合があります。

表示ランプ

表示ランプの名称と役割



電源ランプ(①)

ランプ		状態
緑	点灯	電源が入っている
	点滅	スタンバイ状態(サスペンド)
黄色	点灯	バッテリー容量が少ない
	点滅	スタンバイ状態(サスペンド)でバッテリー容量が少ない
オレンジ	点灯	バッテリー容量が残りわずか
	点滅	スタンバイ状態(サスペンド)でバッテリー容量が残りわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

バッテリー充電ランプ()

ランプ		状態
オレンジ	点灯	バッテリー充電中
	点滅	バッテリーのエラー ¹
緑 ²	点灯	セカンドバッテリー充電中
	点滅	セカンドバッテリーのエラー ¹
消灯		ACアダプタが接続されていない、または充電完了

1: バッテリーを取り付けなおしてもエラーが出る場合は、バッテリーリフレッシュを行ってください (p. 51)

2: セカンドバッテリー接続時のみ。

メール着信ランプ()

ランプ	状態
緑点灯	メール着信あり
消灯	メール着信なし

アクセスランプ()

ランプ	状態
緑点灯	ハードディスクやCD-ROMなどのディスクにアクセス中
消灯	ハードディスクやCD-ROMなどのディスクにアクセスしていない

フロッピーディスクアクセスランプ()

ランプ	状態
緑点灯	アクセス中
消灯	アクセスしていない

キャップスロックキーランプ()

ランプ	状態
緑点灯	【Caps Lock】がロックされている 英字を入力すると大文字になります。
消灯	【Caps Lock】がロックされていない 英字を入力すると小文字になります。

スクロールロックキーランプ()

ランプ	状態
緑点灯	【Scr Lock】がロックされている
消灯	【Scr Lock】がロックされていない

ニューメリックロックキーランプ()

ランプ	状態
緑点灯	【Num Lock】がロックされている キーを押すとキー前面の文字が入力されます。
消灯	【Num Lock】がロックされていない キーを押すとキー上面の文字が入力されます。

ワイヤレスランプ()

(Bluetooth™モデル、ワイヤレスLAN(無線LAN)モデルのみ)

ランプ	状態
緑点灯	Bluetooth™機能、ワイヤレスLAN(無線LAN)機能が使用可能
消灯	Bluetooth™機能、ワイヤレスLAN(無線LAN)機能が使用不可

ワンタッチスタートボタン

ワンタッチスタートボタンを使うと、ボタンを押すだけで、あらかじめ設定したアプリケーションを起動することができます。

ワンタッチスタートボタンを使う

【 】ボタン、【 】ボタン

【 】ボタン、【 】ボタンを押すと、本機の電源のオン / オフにかかわらず、すぐにアプリケーションを起動するように設定できます。

インターネットの接続環境がある場合は、「インターネットエクスプローラ」や「Outlook Express」が起動します。

起動するアプリケーションを変更したい場合は、「ワンタッチスタートボタンの設定」で行います。

参照 ▶ ワンタッチスタートボタン 「各部の名称」(p.16)



チェック!!

- ・セーフモードなどWindowsのキーボードドライバが動作しない状態では、ワンタッチスタートボタンの機能は使えません。
- ・スタンバイ状態または休止状態からワンタッチスタートボタンを押して復帰したときに、設定したアプリケーションが起動しない場合があります。このような場合は以下のいずれかの手順を行ってください。
 - 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」をクリックし、「詳細設定」タブにある「スタンバイから回復するときにパスワードの入力を求める」の をクリックして にする。
 - 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「ユーザーアカウント」 「ユーザーのログオンやログオフの方法を変更する」にある「ユーザーの簡易切り替えを使用する」の をクリックして にする。

ワンタッチスタートボタンの設定を変更する

「ワンタッチスタートボタンの設定」では、どのアプリケーションをワンタッチスタートボタンで起動させるかを設定できます。

ワンタッチスタートボタンでは、アプリケーションを「同時」または「順次」に起動することもできます。「同時」は、ひとつのボタンに複数のアプリケーションを割り当てて一度に起動する方法です。「順次」は、はじめに登録したアプリケーションを終了すると次のアプリケーションが順次起動する方法です。

「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する

- 1 「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「ワンタッチスタートボタンの設定」 「ワンタッチスタートボタンの設定」をクリックする
「ワンタッチスタートボタンの設定」ウィンドウが表示されます。

画面右下の通知領域にあるをダブルクリックして起動することもできます。

参照 ▶ ワンタッチスタートボタンの設定 「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」

「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」は、「スタート ボタン」 「すべてのプログラム」 「ワンタッチスタートボタンの設定」 「ワンタッチスタートボタンの設定 ヘルプ」をクリックすると表示できます。

アプリケーションを割り当てる

ここでは、例として【】ボタンに「メモ帳」を割り当てる方法を説明します。

- ✓チェック!!** ショートカット(拡張子が.lnkのファイル)で、プロパティの「ショートカット」タブの「リンク先」に何も表示されていないファイルは、ワンタッチスタートボタンに登録してもショートカットが実行されません。
登録後、正常に実行されない場合は、そのショートカットを右クリックし、プロパティの内容を確認してください。

- 1 「ワンタッチスタートボタンの設定」を起動する

- 2 「ボタン設定」タブをクリックし、「ボタン1」の下のをクリックする
「プログラム登録」ウィンドウが表示されます。

- 3 「スタートメニュー」タブをクリックし、「プログラム」フォルダをダブルクリックする
- 4 「アクセサリ」フォルダをダブルクリックし、「メモ帳.lnk」を「プログラム1」ボックスにドラッグ&ドロップする
- 5 「OK」ボタンをクリックする
- 6 「OK」ボタンをクリックする
「ユーザデータの更新」ウィンドウが表示されます。
- 7 「はい」ボタンをクリックする

ワンタッチスタートボタンの有効 / 無効を切り替える

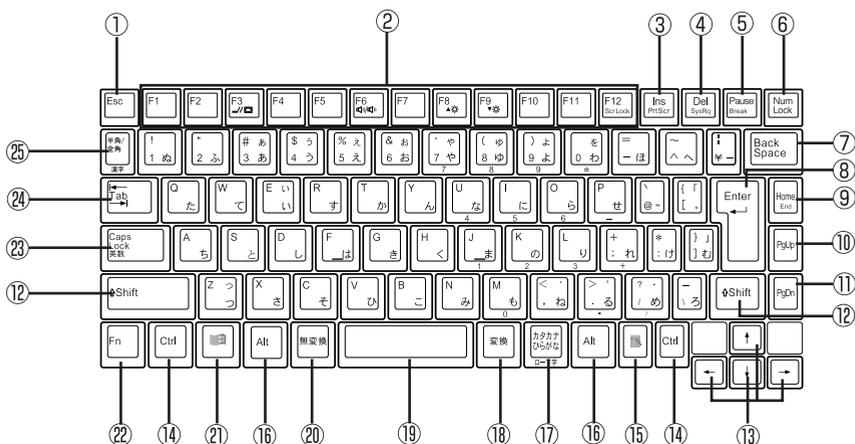
次の操作でワンタッチスタートボタンの有効 / 無効を切り替えることができます。

- 1 「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「ワンタッチスタートボタンの設定」 「ワンタッチスタートボタンを無効にする」または「ワンタッチスタートボタンを有効にする」をクリックする
ワンタッチスタートボタンが無効の状態の場合は「ワンタッチスタートボタンを有効にする」が表示され、有効の状態の場合は「ワンタッチスタートボタンを無効にする」が表示されています。
- 2 ワンタッチスタートボタンを有効または無効にするメッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする
- 3 再起動のメッセージが表示されたら「はい」ボタンをクリックする
Windowsが再起動します。
再起動後、ワンタッチスタートボタンの有効 / 無効が切り替わります。

キーボード

キーボードの基本的な使い方を説明します。

キーの名称



- ① 【Esc】: エスケープキー
- ② 【F1】～【F12】: ファンクションキー
- ③ 【Ins】: インサートキー
- ④ 【Del】: デリートキー
- ⑤ 【Pause】: ポーズキー
- ⑥ 【Num Lock】: ニューメリックロックキー
- ⑦ 【Back Space】: バックスペースキー
- ⑧ 【Enter】: エンターキー(リターンキー)
- ⑨ 【Home】: ホームキー
- ⑩ 【PgUp】: ページアップキー
- ⑪ 【PgDn】: ページダウンキー
- ⑫ 【Shift】: シフトキー
- ⑬ 【 ⌘ ⌘ ⌘ 】: カーソル移動キー
- ⑭ 【Ctrl】: コントロールキー
- ⑮ 【 〇 】: アプリケーションキー
- ⑯ 【Alt】: オルトキー
- ⑰ 【カタカナ ひらがな】: かなキー
- ⑱ 【変換】: 変換キー
- ⑲ スペースキー
- ⑳ 【無変換】: 無変換キー
- ㉑ 【 田 】: Windowsキー
- ㉒ 【Fn】: エフエヌキー
- ㉓ 【Caps Lock】: キャップスロックキー
- ㉔ 【Tab】: タブキー
- ㉕ 【半角/全角】: 半角/全角キー

キーの使い方

特殊なキーの使い方

キー操作	説明
【Num Lock】	一度押すとニューメリックロックキーランプが点灯し、キー前面に黄で表示されている数字や記号を入力できるようになります。もう一度押すとニューメリックロックキーランプが消灯し、キー上面の文字が入力できるようになります。
【Shift】+【Caps Lock】	一度押すとキャップスロックキーランプが点灯し、アルファベットを入力すると大文字が入力されます。もう一度押すとキャップスロックキーランプが消灯し、アルファベットを入力すると小文字が入力されます。
【半角 / 全角】	一度押すと日本語入力システムがオンになり、日本語が入力できるようになります。もう一度押すと日本語入力システムがオフになり、日本語が入力できなくなります。
【Alt】+【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっている場合、一度押すとかな入力モードになり、キー上面のかな文字で日本語を入力できるようになります。もう一度押すとローマ字入力モードになり、キー上面のアルファベットの組み合わせで日本語を入力できるようになります。
【Caps Lock】	日本語入力システムがオンになっている場合、一度押すと英数字が入力されるようになります。
【カタカナ ひらがな】	日本語入力システムがオンになっていて英数字が入力されるモードになっている場合、一度押すとひらがなやカタカナを入力できるようになります。
【Fn】	他のキーと組み合わせて機能を実行します(p.27)

ホットキー機能【Fn】の使い方

【Fn】と他のキーを組み合わせて、本機の設定をキー操作で簡単に調整することができます。これをホットキー機能といいます。

組み合わせが可能なキーとその機能を表すアイコンは、【Fn】と同じ色（黄）でキー上面に印字されているものもあります。

キー操作	機 能	説 明
【Fn】+【F2】 ¹	Bluetooth™機能またはワイヤレスLAN（無線LAN）機能のオン/オフ(●/○)	Bluetooth™機能、ワイヤレスLAN（無線LAN）機能を使用する/使用しないを切り替えます。
【Fn】+【F3】	ディスプレイの切り替え ( / )	別売のCRTディスプレイが接続されている場合、キーを押すごとに「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」「テレビ」 ² 「液晶ディスプレイ」「CRT」の順に切り替わります。
【Fn】+【F5】	画面の伸縮	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する/しないを切り替えます。
【Fn】+【F6】	ピープ音量調節 ( / )	ピープ音の音量をオン/オフに設定します。
【Fn】+【F8】	輝度を上げる ()	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します(8段階)。
【Fn】+【F9】	輝度を下げる ()	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します(8段階)。
【Fn】+【F12】	スクロールロック	【Scr Lock】の役割
【Fn】+【Ins】	プリントスクリーン	【Prt Scr】の役割
【Fn】+【Del】	システムリクエスト	【Sys Rq】の役割
【Fn】+ 	右Windows	右  の役割
【Fn】+【Pause】	Break	【Break】の役割
【Fn】+【Home】	End	【End】の役割

1: Bluetooth™モデル、ワイヤレスLAN（無線LAN）モデルのみ

2: テレビが接続されている場合のみ切り替わります。

【Fn】+【F3】～【F12】で設定した内容は、電源を切ったり再起動したりすると解除されます(【Fn】+【F8】、【F9】を除く)。

キーボードの設定をする

- 1 「スタート」ボタン、「コントロールパネル」、「プリンタとその他のハードウェア」、「キーボード」をクリックする
「キーボードのプロパティ」ウインドウが表示されます。

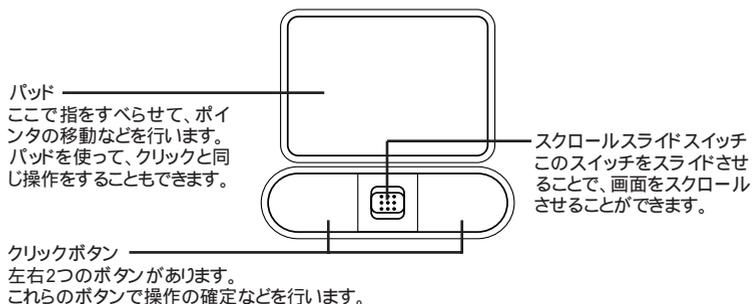
「キーボードのプロパティ」ウインドウでは、画面左上の各タブを選択すると、キーボードの設定を行うことができます。

それぞれの設定について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。

NXパッド

本機には、ポインティングデバイスとしてNXパッドが内蔵されています。NXパッドは、コントロールパネルを使ってより使いやすいように設定できます。

NXパッドの使い方



・ クリックボタン

画面上のボタンやアイコンにポインタをあわせて左のクリックボタンを押すことを「クリック」、すばやく2回続けて押すことを「ダブルクリック」といいます。右のクリックボタンを1回押すことを「右クリック」といいます。

・ パッド

パッド上で指を動かすと、指の動きにあわせて画面上のポインタカーソルが動きます。

パッドを指先で軽くたたくと、クリックボタンを押した場合と同じ操作になります。また、2回連続してパッドをたたくと、ダブルクリックと同じ操作になります。パッドを軽くたたいて、クリックと同じ操作をすることを「タップ」といいます。

ドラッグする場合は、アイコンやフォルダの上にポインタをあわせ、左クリックボタンを押したまま、パッドの上で指を動かします。

クリックボタンを使わずに、アイコンやフォルダにポインタをのせた状態で、パッドを軽くたたき、そのまま指を動かしてドラッグすることもできます。

・ スクロールスライドスイッチ

画面に表示されていない部分をスクロールして表示させたり、画面を拡大したり縮小することができます。

NXパッドの便利な使い方

タップやパッドのみでのドラッグなどのほかにも、次のような便利な使い方ができます。

- ・パッド上で指をすべらすことで画面をスクロールさせる(パッド上にスクロール領域を設定します)
- ・キーボードからの入力時に、間違えてタップしたりポインタが動くことがないようにNXパッドを無効にしておく

これらの機能を利用するためには、NXパッドドライバをインストールする必要があります。インストール手順については、「NXパッドドライバをインストールする」(p.31)をご覧ください。

スクロールスライドスイッチを使う

スクロールスライドスイッチを使うと、画面を上下左右にスクロールさせたり、画面を拡大縮小させることができます。

- ❗ **チェック!!** ・スクロールスライドスイッチの機能に対応していないアプリケーションではスクロールスライドスイッチを使用できません。
- ・アプリケーションによっては、ポインタの位置によって動作が異なる場合があります。

画面を上下方向にスクロールさせる

1 アプリケーションの上下スクロールバーがある画面をクリックする

2 スクロールスライドスイッチをパッド側、または手前側にスライドさせる

パッド側にスライドさせると画面が上にスクロールし、手前側にスライドさせると画面が下にスクロールします。

スクロールスライドスイッチをスライドさせたままにすると、連続して画面をスクロールさせることができます。

- ❗ **チェック!!** スクロールスライドスイッチを押した状態でスライドさせようとしてもスクロールしないことがあります。スクロールさせる場合は、スクロールスライドスイッチを押さずに軽く指をおいてスライドさせてください。

画面を上下、左右方向にスクロールさせる

- 1 スクロールさせたいウィンドウにポインタを移動する
- 2 スクロールスライドスイッチを押す
画面がスクロールできる方向に応じて、ポインタの形がやに変わります。

 **チェック!!** スクロールスライドスイッチを押す場合は、スイッチをスライドさせないように注意してください。スライドさせた場合、通常の上下方向のスクロール機能が働きます。

- 3 ポインタの形が変わったら、パッドを使ってスクロールさせる
パッド上で指をすべらせた方向にスクロールします。
パッドによるスクロールを終了したい場合は、もう一度、スクロールスライドスイッチを押してください。ポインタの形が元に戻ります。

ズーム機能を使う

- 1 拡大、縮小したい画面にポインタを動かす
- 2 キーボードの【Ctrl】を押したまま、スクロールスライドスイッチをパッド側、または手前側にスライドさせる
パッド側にスライドさせると画面の表示が拡大され、手前側にスライドさせると縮小します。

NXパッドドライバをインストールする

 **チェック!!** ・使用中のアプリケーションがある場合は、すべて終了しておいてください。
・NXパッドドライバをインストールする場合は、管理者権限を持つユーザーアカウントで本機にログオンしてください。

- 1 「デバイス マネージャ」を開く
- 2 「マウスとそのほかのポインティング デバイス」の左のをクリックする

- 3 現在使用しているマウスをダブルクリックする
- 4 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする
「ハードウェアの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。
- 5 「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」の○をクリックして●にし、「次へ」ボタンをクリックする
- 6 「検索しないで、インストールするドライバを選択する」の○をクリックして●にし、「次へ」ボタンをクリックする
- 7 「ディスク使用」ボタンをクリックする
- 8 「C: ¥WINXP ¥NXPAD」と入力し、「OK」ボタンをクリックする
- 9 「モデル」欄から「NX PAD」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする
「NX PAD」が複数表示されている場合は、一番上の「NX PAD」を選択してください。

 **チェック!!** 「デバイスのインストールの確認」ウィンドウが表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

必要なファイルがコピーされます。
この操作以降は、マウスポインタが動かない場合があります。その場合は、キーボードで操作してください。
コピーが完了すると、「ハードウェアの更新ウィザードの完了」と表示されます。

- 10 「完了」ボタンをクリックする
- 11 「閉じる」ボタンをクリックする
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。
- 12 「はい」ボタンをクリックする
Windowsが再起動します。

 **チェック!!** 再起動後、ポインタが動かない場合は【Ctrl】を押しながら【Esc】を押して「スタート」メニューを表示させ、Windowsを起動しなおしてください。
項目の変更はカーソル移動キー、項目の選択は【Enter】で行うことができます。

NXパッドの設定をする

WindowsでNXパッドをより使いやすく設定することができます。

- 1 「スタート」ボタン、「コントロールパネル」「プリンタとその他のハードウェア」「マウス」をクリックする
「マウスのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

「マウスのプロパティ」ウィンドウでは、画面左上の各タブを選択すると、NXパッドの設定を行うことができます。

それぞれの設定について詳しくは、Windowsのヘルプをご覧ください。



ハードディスク

ハードディスクとは、Windowsやアプリケーションなどのソフトウェアや、作成したデータを磁気的に記録して、読み出すための装置です。

ハードディスク使用上の注意

ハードディスクは、非常に精密に作られています。特に、データの読み書き中（アクセスランプの点灯中）には、少しの衝撃が故障の原因となる場合がありますので注意してください。

ハードディスクが故障すると、大切なデータが一瞬にして使えなくなってしまうことがあります。特に、自分で作成した大切なデータなどは、再セットアップしても元どおりにはできません。大切なデータは、フロッピーディスクやCD-R、CD-RWなどの、ハードディスク以外の媒体に定期的にバックアップ（コピー）をとっておくことをおすすめします。

領域の確保とフォーマット

ハードディスクの領域を削除した場合などには、ハードディスクの領域の確保とフォーマットが必要です。

ここでは、ハードディスクの拡張パーティションの作成と論理ドライブの作成について説明します。プライマリパーティションの作成方法などについては、「ディスクの管理」のヘルプをご覧ください。

領域の確保とフォーマット

- 1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「管理ツール」をクリックする
「管理ツール」ウィンドウが表示されます。
- 2 「コンピュータの管理」アイコンをダブルクリックする
「コンピュータの管理」ウィンドウが表示されます。
- 3 画面左側にあるコンソール ツリーの中の「ディスクの管理」をクリックする
表示された画面で、ハードディスクの容量や領域、ファイルシステムを確認してください。

4 画面右下に表示されている「未割り当て」を選んで右クリックする

ハードディスクに未割り当ての部分がない場合は表示されません。すでに使用しているドライブのパーティションの削除などについては、「コンピュータの管理」のヘルプをご覧ください。

5 表示されたメニューから、「新しいパーティション」をクリックする 「新しいパーティション ウィザード」ウィンドウが表示されます。

6 「次へ」ボタンをクリックする

7 「拡張パーティション」の○をクリックして●にし、「次へ」ボタンをクリックする

拡張パーティションとして使用できる最小サイズと最大サイズが表示されます。

8 作成する拡張パーティションのサイズを入力して「次へ」ボタンをクリックする

指定されたサイズのパーティションが作成されます。

9 「完了」ボタンをクリックする

ハードディスクの未割り当て領域がなくなるまで手順4~9をくりかえし、すべての領域を割り当ててください。割り当てられた領域は、「ディスクの管理」ウィンドウでは「空き領域」と表示されます。続いてフォーマットを行います。

10 画面右下に表示されている「空き領域」を選んで右クリックする

 **チェック!!** すでに使用しているドライブをフォーマットすると、そのドライブに保存していたデータがすべて消えてしまいます。フォーマットする際は、十分注意してください。

11 表示されたメニューから、「新しい論理ドライブ」をクリックする 「新しいパーティション ウィザード」ウィンドウが表示されます。

12 「次へ」ボタンをクリックする

13 「次へ」ボタンをクリックする 論理ドライブとして使用できる最小サイズと最大サイズが表示されます。

14 作成する論理ドライブのサイズを入力し、「次へ」ボタンをクリックする

15 表示されたドライブ文字の割り当てを確認して「次へ」ボタンをクリックする

「パーティションのフォーマット」が表示されます。

16 フォーマットの設定を確認して「次へ」ボタンをクリックする
必要であれば、フォーマットの設定を変更してください。

17 「完了」ボタンをクリックする

フォーマットがはじまります。フォーマット完了後、複数のドライブをフォーマットしたい場合は、手順10～17をくりかえしてください。



チェック!!

・新たにパーティションの作成を行った後、「コンピュータの管理」ウィンドウを閉じると「ワトソン博士」のエラーメッセージが表示される場合がありますが、新たなパーティションは使用できます。

・「パーティションの作成ウィザード」の項目を入力し、「完了」ボタンをクリックすると、新しいパーティションの作成後、「ボリュームは開かれているか、または使用中です。要求を完了できません。」というようなメッセージが表示される場合があります。この場合は、以下の手順でパーティションの初期化を行ってください。

新たに作成したパーティションを右クリックし、「フォーマット」をクリックする項目を設定し、「OK」ボタンをクリックする
「OK」ボタンをクリックする

セカンドハードディスクを使う

セカンドハードディスクが添付されているモデルを購入された場合や、別売のセカンドハードディスク(PC - VP - WU13)を購入した場合は、本機のVersaBay IVにセカンドハードディスクを取り付けて、ハードディスクの容量を増やすことができます。セカンドハードディスクを取り付ける場合は、購入時にVersaBay IVに取り付けられている機器と交換する必要があります。機器の交換のしかたについては、PART2の「VersaBay IV」(p.131)をご覧ください。

セカンドハードディスクの領域の確保とフォーマット

購入時には、セカンドハードディスクはフォーマットされていません。セカンドハードディスクを使用する場合は、領域の確保とフォーマットを行う必要があります。「領域の確保とフォーマット」(p.34)の手順で領域の確保とフォーマットを行ってください。

ハードディスクのメンテナンス

本機には、ハードディスクの障害を検出したり、アクセス速度を保つためのメンテナンスソフトが組み込まれています。

ハードディスクに障害や断片化があった場合、可能な範囲で修復することができます。

参照 ハードディスクのメンテナンス 『活用ガイド ソフトウェア編』の「パソコンのメンテナンスと管理」

StandbyDiskを利用する

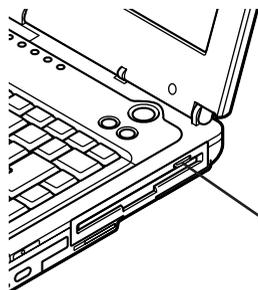
StandbyDiskに対応したセカンドハードディスクをお使いの場合は、StandbyDiskを利用することができます。StandbyDiskは2台のハードディスクのうち、一方のハードディスクをバックアップ元とし、もう一方のハードディスクを待機ディスクとして使用することで、稼働中のハードディスクに障害が起きた場合に、待機ディスクからシステムを起動しシステムを復旧することができるアプリケーションです。

StandbyDiskについて詳しくは、『活用ガイド ソフトウェア編』の「パソコンのメンテナンスと管理」をご覧ください。

フロッピーディスクドライブ

本機には3.5インチフロッピーディスクドライブがMultiBayに内蔵されています。セカンドバッテリーパックが添付のモデルを購入された場合や、別売のセカンドバッテリーパックを購入された場合は、フロッピーディスクドライブを取り外してセカンドバッテリーパックを取り付けることができます(p.134)。

各部の名称と役割



フロッピーディスクイジェクトボタン
セットしたフロッピーディスクを取り出す
ためのボタンです。

使用できるフロッピーディスクの種類

本機のフロッピーディスクドライブでは、1.44Mバイトまたは720Kバイトでフォーマットされたフロッピーディスクを使用することができます。フロッピーディスクのフォーマットについては、Windowsのヘルプをご覧ください。

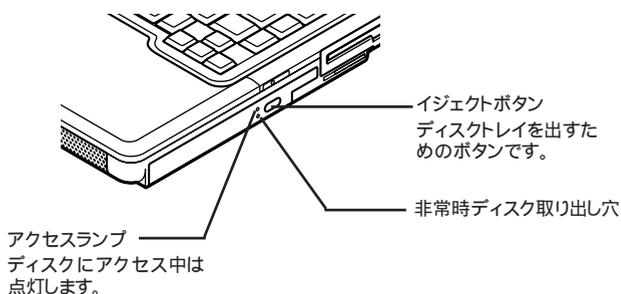
使用上の注意

- ・本機では、PC-9800シリーズのパソコンでフォーマットされたフロッピーディスクを使ってシステムを起動することはできません。
- ・「ディスクのコピー」のコピー先のフロッピーディスクは、コピー元のフロッピーディスクと同じ容量でフォーマットされたものを使用してください（これはコマンド プロンプトのDISKCOPYコマンドでも同様です）。
- ・フォーマットしていないフロッピーディスクをマイコンピュータなどで選択すると、フロッピーディスクドライブのアクセスランプが点灯し続けたり、フォーマットしようとするフォーマット開始までの時間が長くなる場合があります。これは、フロッピーディスクの種類を判別しているためなので、処理が開始されるまでしばらくお待ちください。
- ・フロッピーディスクを書き込み、または読み取り中は、フロッピーディスクアクセスランプ()が点灯します。アクセスランプ点灯中は、絶対にフロッピーディスクを取り出さないでください。ドライブの故障やデータの不具合の原因となります。
- ・1.44Mバイト以外の容量でフロッピーディスクをフォーマットすることはできません。

CD-ROMドライブ・CD-R/RWドライブ・ CD-R/RW with DVD-ROMドライブ

本機にはCD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブのいずれかがVersaBay IVに内蔵されています。セカンドハードディスクが添付のモデルを購入された場合や、別売のVersaBay IV用の機器を購入された場合は、あらかじめ取り付けられている機器を取り外してセカンドハードディスクや別売の機器を取り付けることができます（ p.131 ）。

各部の名称と役割



イジェクトボタンやアクセスランプ、非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、モデルによってイラストと多少異なることがあります。

使用できるディスク

	再生		読み込み		書き込み	書き換え
	音楽CD、ビデオCD、フォトCD	DVD VIDEO ディスク	CD-ROM、CD-R、CD-RW	DVD-ROM	CD-R、CD-RW	CD-RW
CD-ROMドライブ		×		×	×	×
CD-R/RWドライブ		×		×		
CD-R/RW with DVD-ROMドライブ						

○:使用可能

×:使用不可

- チェック!!** DVD VIDEOディスクは、リージョンコード(国別地域番号。日本は2です)によって管理されているため、リージョンコードが2もしくはフリーに設定されているディスクのみ再生することができます。海外で購入したDVD VIDEOディスクについては、特にこの点に注意してください。

使用上の注意

ここではCD-ROMドライブを例に説明しています。CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブをお使いの場合は、「CD-ROMドライブ」をお使いのドライブに読み替えてください。

- ・CD-ROMドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
- ・アクセスランプ点灯中は、ディスクを絶対に取り出さないでください。本機の故障の原因となります。
- ・ラベルが貼ってあるなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、本機の操作中に手に振動を感じることがあります。これは故障の原因となるため、ディスクの盤面にはラベルやテープなどを貼らないでください。
- ・CD-ROMドライブにディスクをセットすると、「Windowsが実行する動作を選んでください。」と表示される場合があります(表示される内容は、使用するメディアによって異なります)。このように表示された場合は、実行したい操作を選んでから「OK」ボタンをクリックしてください。どの操作を選べばよいかわからない場合は、ウインドウの右上の  をクリックしてください。

非常時のディスクの取り出し方

ソフトウェアの暴走など不慮の原因で、CD-ROMドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこなくなった場合は、非常時ディスク取り出し穴に太さ1.3 mm程の針金を押し込むと、トレイを手動で引き出すことができます。針金は太めのペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。

- チェック!!** CD-ROMドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない、といった非常時以外は、非常時ディスク取り出し穴を使って取り出さないようにしてください。

液晶ディスプレイ

本機の液晶ディスプレイの表示を調整する方法や、表示できる解像度と表示色について説明しています。

画面表示を調整する

表示を調整する

本機では、キーボードを使って輝度や画面の伸縮の調整を行います。輝度は8段階で調整することができます。

機能	キー操作	説明
画面の伸縮	【Fn】+【F5】	低解像度時に、ディスプレイの画面を拡大表示する/しないを切り替えます。
輝度を上げる ▲☀	【Fn】+【F8】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が増加します。
輝度を下げる ▼☀	【Fn】+【F9】	キーを押すごとに、液晶ディスプレイの輝度が低下します。

:購入時には拡大表示に設定されています。

表示できる解像度と表示色

本機の液晶ディスプレイは、標準で次の解像度と表示色を表示できます。

- チェック!!** 設定により、マニュアルに記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度で使用してください。

VA12J/DGの場合

解像度 (ドット)	表示色	本機の液晶 ディスプレイ のみに表示	別売のCRT ディスプレイ のみに表示	本機の液晶 ディスプレイ と別売のCRT ディスプレイ の同時表示 ¹	TVのみ
800 × 600	65,536色				
	1,677万色 ²				
1,024 × 768	65,536色				
	1,677万色 ²				
1,280 × 1,024	65,536色				
	1,677万色 ²				
1,400 × 1,050	65,536色 ³		×	×	
	1,677万色 ²		×	×	
1,600 × 1,200	65,536色				
	1,677万色 ²				

: 【Fn】を押しながら【F5】を押して拡大 / 縮小切り替え可能(縮小画面の場合、画面のまわりが黒く表示される)

: フルスクリーン表示可能

: パーチャルスクリーンで表示可能

× : 表示不可

1 : 別売のCRTディスプレイ未接続時は本機の液晶ディスプレイのみに表示される

2 : 本機の液晶ディスプレイでは、グラフィックアクセラレータのディザリング機能により実現

3 : 購入時の設定

320 × 200ドット、320 × 240ドット解像度対応のアプリケーションなどは、本機では画面のまわりが黒く表示されます。

VA12J/DG以外のモデルの場合

解像度 (ドット)	表示色	本機の液晶 ディスプレイ のみに表示	別売のCRT ディスプレイ のみに表示	本機の液晶 ディスプレイ と別売のCRT ディスプレイ の同時表示 ¹	TVのみ
800 × 600	65,536色				
	1,677万色 ²				
1,024 × 768	65,536色 ³				
	1,677万色 ²				
1,280 × 1,024	65,536色				
	1,677万色 ²				
1,600 × 1,200	65,536色				
	1,677万色 ²				

:【Fn】を押しながら【F5】を押して拡大 / 縮小切り替え可能(縮小画面の場合、画面のまわりが黒く表示される)

: フルスクリーン表示可能

: バーチャルスクリーンで表示可能

1: 別売のCRTディスプレイ未接続時は本機の液晶ディスプレイのみに表示される

2: 本機の液晶ディスプレイでは、グラフィックアクセラレータのデザイン機能により実現

3: 購入時の設定

320 × 200ドット、320 × 240ドット解像度対応のアプリケーションなどは、本機では画面のまわりが黒く表示されます。

解像度と表示色を変更する

ディスプレイの解像度と表示色はコントロールパネルで設定します。

- 1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「デスクトップの表示とテーマ」 「画面」をクリックする
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 2 「設定」タブをクリックする
- 3 解像度または表示色を変更する

解像度の変更をする場合

「画面の解像度」欄で、つまみを「大」の方向へドラッグすると高解像度に、「小」の方向へドラッグすると低解像度になります。

- ✓チェック!!** 設定により、マニュアルに記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度で使用してください。

表示色の変更をする場合

「画面の色」欄で  をクリックし、選択一覧から変更します。この選択一覧には、使用している液晶ディスプレイとディスプレイアダプタが対応しているカラーパレットが一覧表示されます。

■ 「中(16ビット)」は65,536色、「最高(32ビット)」は1,677万色になります。

- 4** 設定が終了したら、「OK」ボタンをクリックする
このあとは、画面の指示にしたがって操作してください。

バーチャルスクリーン

バーチャルスクリーンとは、実際に表示可能な解像度よりも大きい解像度を使用できるようにするための仮想画面のことです。バーチャルスクリーンでは、仮想画面全体のサイズが実際のディスプレイの画面より大きくなるので、ディスプレイには常に仮想画面の一部が表示されている状態となります。画面をスクロールすると、ディスプレイの画面上で見えていない部分を表示することができます。

バーチャルスクリーンでは、「スタート」ボタンがディスプレイの画面上から外れ、表示されないことがあります。ディスプレイの画面上の見えていない部分を見るには、ポインタをディスプレイの画面の端に移動させます。ポインタの移動した方向に画面がスクロールし、見えなかった部分が表示されます。

バーチャルスクリーンモードの設定方法

本機の液晶ディスプレイに表示する場合は、VA12J/DGでは1,600×1,200、それ以外のモデルでは1,280×1,024、1,600×1,200の解像度がバーチャルスクリーンによる表示になります。

- ✓チェック!!** 外部CRTディスプレイ接続時、これらの解像度が選択できない場合がありますが、下記の手順を行うことで選択可能になります。

- 1** 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「デスクトップの表示とテーマ」 「画面」をクリックする
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 2 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」ボタンをクリックする
- 3 「モニタ」タブをクリックする
- 4 「このモニタでは表示できないモードを隠す」のをクリックして
にする

デュアルディスプレイ機能

デュアルディスプレイとは、CRTディスプレイなどの外部ディスプレイを接続時に、本体の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使ってひとつの画面として表示できる機能です。液晶ディスプレイと外部ディスプレイを続き画面として利用できるの、表示できる範囲が広がります。

デュアルディスプレイ機能は、同じ画面を2つのディスプレイに表示する機能とは異なります。

チェック!! 画面の解像度によっては、デュアルディスプレイ表示にならない場合があります。

参照▶ 別売のCRTディスプレイなどを接続するには「外部ディスプレイ」(p.115)

デュアルディスプレイ機能を使う準備をする

画面を表示するディスプレイのオン / オフ、プライマリ / セカンダリを次の手順にしたがって設定します。

- 1 別売のディスプレイを接続し、電源を入れる(p.116)
- 2 本機の電源を入れる
- 3 「スタート」ボタン「コントロールパネル」「デスクトップの表示とテーマ」「画面」をクリックする
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「設定」タブをクリックし、「詳細設定」ボタンをクリックする
- 5 「ATI画面」タブをクリックする
「モニタ」「パネル」「テレビ」の接続状態が表示されます。

- 6** 「モニタ」の左上のボタンをクリックする
接続したモニタへの表示がオンになります。

チェック!! 表示をすべてオフにすることはできません。どれかひとつはオンの状態になっています。

- 7** 「モニタ」パネル」の下のボタンをクリックする
「プライマリ」ディスプレイ、「セカンダリ」ディスプレイが指定されます。

チェック!! すべてをセカンダリに設定することはできません。

接続が認識され、ディスプレイの表示がオンに設定されると、解像度とリフレッシュレート(水平同期周波数)が表示されます。

- 8** 「OK」ボタンをクリックする

- 9** 「OK」ボタンをクリックする

デュアルディスプレイ機能を使う

- 1** 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「デスクトップの表示とテーマ」 「画面」をクリックする
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 2** 「設定」タブをクリックする

- 3** 「2」と表示されたディスプレイのイラストを右クリックする

- 4** 表示されたメニューから「接続」をクリックする

- 5** 「適用」ボタンをクリックする

- 6** 「OK」ボタンをクリックする
これでデュアルディスプレイ機能を使うことができます。

デュアルディスプレイ機能を解除する場合は、同様の手順を行って解除してください。

バッテリー

本機は、ACアダプタを使用せずに、添付または別売のバッテリーパックだけで駆動することができます。

バッテリーで本機を使う場合の注意

- ✔ **チェック!!** ・バッテリーが十分に充電されている場合は、特に必要でないかぎり、バッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因となります。
- ・充電を行う際にはできるだけフル充電するようにしてください。バッテリー残量が少ない場合などに少量の充放電を何度も繰り返して本機を使用すると、バッテリー残量に誤差が生じることがあります。
- ・ハードディスクやフロッピーディスクなどへの読み書き中にバッテリー残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、ハードディスクやフロッピーディスクなどのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。

バッテリーパックを長持ちさせるには

次のような点に気を付けると、バッテリーパックを長持ちさせることができます。

- ・バッテリーの残量をできるだけなくしてから充電する
- ・充電はフル充電(バッテリー充電ランプが消灯)になるまで中断しない
- ・定期的にバッテリーリフレッシュを実行する(p.51)
- ・本機を1カ月以上使わない場合は、バッテリーパックを取り外して、涼しいところに保管する

バッテリーの上手な使い方

- ・バッテリーだけで本機を長時間使用する場合は、本機の省電力機能を使用してください。

参照▶ 省電力機能について このPARTの「省電力機能」(p.57)

- ・バッテリーは、自然放電しています。本機を長期間使用しない場合でも、2~3カ月に一度は充電することをおすすめします。

バッテリー駆動中にバッテリー残量が少なくなった場合は

バッテリー残量が少なくなると、電源ランプ(④)が黄色に点灯します。この場合は、状況に応じて次の操作を行ってください。

ACコンセントから電源を供給できる場合

ACアダプタを接続してACコンセントから電源を供給してください。ACコンセントから電源を供給すると、バッテリー充電ランプ(□)が点灯し、バッテリーの充電がはじまります。また、バッテリーを充電しながら本機を使用することもできます。

ACコンセントが使えない場合

使用中のソフトウェアを終了して、本機の電源を切ってください。

上記の操作を行わずにそのままにしておく、「スタート」ボタン「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」で設定してある状態になります。

バッテリーが少なくなった場合の動作の設定をする

バッテリー残量が少なくなったりバッテリー残量がなくなった場合に、本機をどのような動作や状態にするかを設定することができます。設定は「スタート」ボタン「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をクリックすると表示される画面の「アラーム」タブで行うことができます。設定を行う場合は、管理者権限を持つユーザーアカウントでログオンしてください。

充電のしかた



- **チェック!!** ・バッテリーの充電中は、バッテリーパックを本機から取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。
- ・購入直後や長時間放置したバッテリーでは、バッテリー駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリー残量が正しく表示されないことなどがあります。必ずフル充電してから使用してください。

バッテリーの充電のしかた

本機にバッテリーパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリーの充電が始まります。電源を入れて本機を使用している場合も充電されます。

充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18～28℃での充電をおすすめします。

参照 ▶ バッテリーの充電時間について PART4の「機能一覧」(p.156)

充電状態を表示ランプで確認する

バッテリーの充電状態を、バッテリー充電ランプ()で確認することができます (p.20)

参照 ▶ バッテリーの充電ランプについて PART1の「表示ランプ」(p.19)

バッテリー残量の確認

バッテリー残量は、画面右下の通知領域の  や、コントロールパネルで確認することができます。

チェック!! フル充電されている状態では、バッテリー残量表示に多少の誤差が生じる場合があります。

画面右下の通知領域で確認する

1 画面右下の通知領域にある  の上にマウスポインタを合わせる
バッテリー残量が表示されます。

画面右下の通知領域で詳細な情報を確認する

1 画面右下の通知領域の  をダブルクリックする
バッテリー残量やバッテリーに関する詳しい情報が表示されます。

電源オプションのプロパティで詳細な情報を確認する

1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」 をクリックする
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「電源メーター」タブをクリックする

バッテリーリフレッシュ

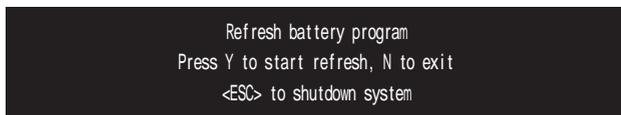
バッテリーリフレッシュは、一時的に低下したバッテリーの性能を回復させる場合に行います。次のような場合には、バッテリーリフレッシュを実行してください。

- ・ バッテリーでの駆動時間が短くなった
バッテリーを完全に使い切らない状態で充電を繰り返していると、バッテリーの充電可能容量が目減りして、駆動時間が短くなる場合があります。これを「バッテリーのメモリ効果」と呼びます。
- ・ 購入直後や長期間、バッテリーを使用しなかったため、バッテリーの性能が一時的に低下した
- ・ バッテリーの残量表示に誤差が生じている
バッテリーの充電が完了し、バッテリー充電ランプ()が消えてしばらくしても、バッテリーの残量表示が95%以上にならない場合は、バッテリーの残量表示に誤差が生じていると考えられます。

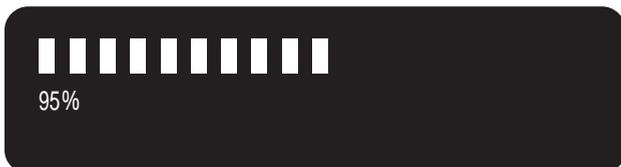
バッテリーリフレッシュの実行

- 1** 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2** バッテリーパックを取り付けていない場合は、バッテリーパックを本体に取り付ける
- 3** パソコンにACアダプタを接続していない場合は、ACアダプタを接続し、電源コードをACコンセントに接続する
- 4** バッテリー充電ランプが点滅している場合は、一度バッテリーパックを本体から外して、再度取り付ける
- 5** バッテリーをフル充電(バッテリー充電ランプが消灯した状態)まで充電する
- 6** BIOSセットアップメニューを起動する(p.142)
- 7** 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本体から取り外す
- 8** 「終了(Exit)」メニューの「バッテリーリフレッシュ(Battery Refresh)」を選択し、【Enter】を押す

- 9 「実行しますか?(Refresh your battery now?)」と表示されたら、
「はい(Yes)」を選択し【Enter】を押す
次のような画面が表示されます。



- 10 【Y】を押す
次のような画面が表示され、バッテリーリフレッシュが始まります。



✓**チェック!!** ・バッテリーリフレッシュ中は、液晶ディスプレイを開いたままにしてください。

- ・バッテリーリフレッシュの所要時間の目安は、ニッケル水素バッテリーで約100分、リチウムイオンバッテリーで約150分、セカンドバッテリーパックで約130分です。バッテリーリフレッシュの所要時間は、使用環境により異なる場合があります。

バッテリーリフレッシュが完了し、バッテリー内の電力がなくなると自動的に本機の電源が切れますので、本機の電源が切れるまでお待ちください。

バッテリーリフレッシュを中断する

バッテリーリフレッシュを中断する場合は、次の手順で行ってください。

- 1 【Ctrl】+【Alt】+【Del】を押す
本機が再起動します。

電源スイッチを4秒以上押し続けてもバッテリーリフレッシュを中断することができます。この場合、本機の電源が切れます。

バッテリーパックの交換

交換の目安

フル充電(バッテリーを充電してバッテリー充電ランプが消灯した状態)にしても使用できる時間が短くなったら、バッテリーフレッシュ(p.51)を行ってください。

それでも使用できる時間が回復しない場合は、新しいバッテリーパックを購入して交換してください。

本機に取り付けられる交換用バッテリーパックは次の2種類です。

- ・ PC-VP-WP21 バッテリーパック(ニッケル水素)
- ・ PC-VP-WP22 バッテリーパック(リチウムイオン)

リチウムイオンバッテリーパックを取り付けると、ニッケル水素バッテリーパックを取り付けた場合よりも、バッテリー駆動時間が160%程度長くなります。

バッテリースロットのバッテリーパックと併用できるセカンドバッテリーパックに次のものがあります。

- ・ PC-VP-WP33 セカンドバッテリーパック(リチウムイオン)
- セカンドバッテリーパックは、本機のMultiBayに取り付けます(p.134)。



チェック!!

- ・ 特に必要でない限り、バッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因になります。
- ・ バッテリーパックは消耗品です。放充電をくりかえすと、充電能力が低下します。

バッテリーパックの交換のしかた

⚠警告



感電注意

雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。



破裂注意



毒物注意

使用を終えたバッテリーパックを分解したり、火気に投じることは危険です。絶対にしないでください。破裂したり、液漏れしたりすることがあります。

⚠注意



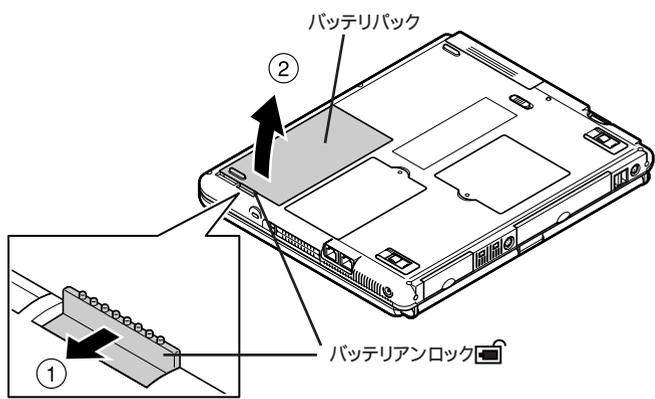
感電注意

濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

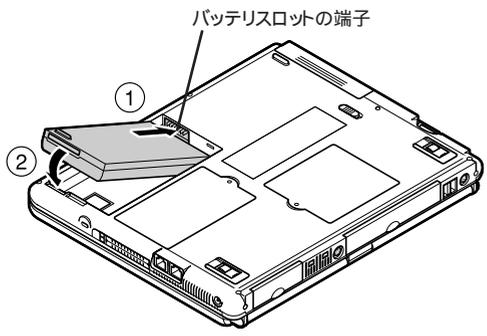
- ✔チェック!!** ・バッテリースロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因となります。
- ・電源が入っている場合やスタンバイ状態(サスペンド)中にバッテリーパックを交換すると、作業中のデータが失われます。電源ランプ(Ⓞ)が点滅している場合は、一度スタンバイ状態(サスペンド)から復帰し、作業中のデータを保存してからWindowsを終了し、本機の電源を切ってください。

- 1** 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2** 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3** 液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す

4 バッテリーアンロック  を矢印の方向にスライドさせたまま、バッテリーパックを取り外す



5 新しいバッテリーパックを取り付ける
バッテリーパックの端子をバッテリースロットの端子の位置に合わせ、カチッと音がするまでしっかり取り付けてください。



バッテリー容量を増やす

セカンドバッテリーパックが添付のモデルを購入された場合や、別売のセカンドバッテリーパック(PC-VP-WP33)を購入された場合は、本機のMultiBayにセカンドバッテリーパックを取り付けて、バッテリー容量を増やすことができます。

セカンドバッテリーパック

セカンドバッテリーパックは本体のMultiBayに取り付けるバッテリーパックです。MultiBayにあらかじめ取り付けられているフロッピーディスクドライブを取り外してセカンドバッテリーパックを取り付けます。

セカンドバッテリーパックは、バッテリースロットに取り付けたバッテリーパックと併用できるので、バッテリー容量を増やしたい場合に便利です。

参照▶ セカンドバッテリーパックの取り付け方 PART2の「MultiBay」(p.134)

省電力機能

省電力機能とは

省電力機能とは、CPUやハードディスク、ディスプレイといった、パソコンの主要な部分への電力供給を停止することで、本体の消費電力を抑える機能です。また、作業を一時的に中断したい場合や、中断した作業をすぐに再開したい場合にも便利な機能です。

本機の省電力機能

本機の省電力機能には、「スタンバイ状態(サスペンド)」「休止状態(ハイバネーション)」があります。「スタンバイ状態」と「休止状態」を合わせて「スリープ状態」と呼ぶこともあります。

省電力機能の設定は、「スタート」ボタン「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」で行います。

スタンバイ状態(サスペンド)

作業中のデータを一時的にメモリに保存し、消費電力を抑える機能です。スタンバイ状態のことを「サスペンド」と呼ぶこともあります。データはメモリに保存されているため、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。

参照▶ スタンバイ状態にする「スタンバイ状態(サスペンド)にする」(p.59)

休止状態(ハイバネーション)

作業中のデータをハードディスクに保存し、電源を切る機能です。休止状態のことを「ハイバネーション」と呼ぶこともあります。普通に電源を切るのとは異なり、次に電源を入れるときに、Windowsを起動する操作をせずに、すぐに元の状態に戻すことができます。元の状態に戻すことを「復帰(レジューム)」と呼びます。

データを保持するための電力を消費しないので、長時間作業を中断する場合などに便利です。

参照▶ 休止状態にする「休止状態(ハイバネーション)にする」(p.60)

スタンバイ状態または休止状態を利用できないとき

次のような場合には、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。本機が正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがあります。

- ・プリンタへ出力中
- ・赤外線通信をしている(赤外線通信アプリケーションなどを実行中)
- ・通信用アプリケーションを実行中
- ・電話回線を使って通信中
- ・音声または動画を再生中
- ・ハードディスク、CD-ROM、フロッピーディスクなどにアクセス中
- ・「システムのプロパティ」ウィンドウを表示中
- ・Windowsの起動 / 終了処理中
- ・スタンバイ状態または休止状態に対応していないアプリケーションを使用中
- ・スタンバイ状態または休止状態に対応していないPCカード、USB対応機器、IEEE1394対応機器を使用中

スタンバイ状態または休止状態を使用する場合の注意

スタンバイ状態または休止状態にする場合は、次のことに注意してください。

- ・「スタート」ボタン「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をクリックして各設定を変更する場合は、管理者権限を持つユーザーアカウントでログオンしてください。
- ・スタンバイ状態では、ネットワーク機能がいったん停止します。ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態になったときにデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、システム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態を使用してください。
- ・バッテリーのみで使用する場合は、あらかじめバッテリーの残量を確認しておいてください。また、バッテリー残量が少なくなってきた場合の本機の動作について設定しておくこともできます(p.49)
- ・スタンバイ状態または休止状態への移行中は、各種ディスクやPCカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- ・スタンバイ状態または休止状態中に、PCカードを入れ替えるなどの機器構成の変更をすると、スタンバイ状態から正しく復帰できなくなることがあります。

- ・ SCSI PCカードを使用している場合、SCSI PCカードと接続されている機器の組み合わせによっては、スタンバイ状態または休止状態から正しく復帰できない場合があります。このような場合は、スタンバイ状態または休止状態にしないでください。
- ・ フロッピーディスクやCD-ROMをセットしたままスタンバイ状態または休止状態から復帰すると、正しく復帰できずにフロッピーディスクやCD-ROMから起動してしまうことがあります。スタンバイ状態または休止状態にする場合は、フロッピーディスクやCD-ROMを取り出してからスタンバイ状態または休止状態にしてください。また、フロッピーディスクを使用している場合は、必要なファイルを保存してからフロッピーディスクを取り出してください。

スタンバイ状態または休止状態から復帰する場合の注意

スタンバイ状態または休止状態から復帰する場合は、次のことに注意してください。

- ・ スタンバイ状態または休止状態にしてからすぐに復帰する場合は、本機に負担がかからないよう、スタンバイ状態または休止状態になった後、約5秒以上たってから操作してください。
- ・ スタンバイ状態または休止状態中にPCカードの入れ替えや周辺機器の取り付け / 取り外しなどの機器構成の変更をすると、正常に復帰できなくなることがあります。
- ・ タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作でのスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本機はスタンバイ状態から復帰していても液晶ディスプレイに何も表示されない状態になります。この場合はNXパッドを操作するかキーボードのキーを押すことによって液晶ディスプレイに表示できます。
- ・ スタンバイ状態または休止状態から復帰後、デバイスの警告メッセージが表示される場合があります。その場合は「OK」ボタンをクリックしてください。警告が発生したデバイスは、そのまま使用できます。

スタンバイ状態(サスペンド)にする

購入時の状態では、次のいずれかの方法でスタンバイ状態にすることができます。スタンバイ状態になると、電源ランプ(④)が緑色に点滅します。

「スタート」ボタン 「終了オプション」 「スタンバイ」ボタンをクリックしてスタンバイ状態にする

キーボードやNXパッドからの入力がなくなってから一定時間経過後、自動的にスタンバイ状態にする

液晶ディスプレイを閉じる

ほかにも、設定を行うことにより、次の方法でスタンバイ状態にできます。

電源スイッチを押す

電源スイッチを押してスタンバイ状態にするには設定が必要です。「省電力機能の設定をする」の「液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定」(p.61)の手順で設定を行ってください。

休止状態(ハイバネーション)にする

購入時の状態では、次の方法で休止状態にすることができます。
休止状態になると、電源ランプ(④)が消灯し、本機の電源が切れます。

「スタート」ボタン 「終了オプション」を使って休止状態にする

1 「スタート」ボタン 「終了オプション」をクリックする

2 【Shift】を押しながら「休止状態」ボタンをクリックする

【Shift】を押すと「スタンバイ」ボタンが「休止状態」ボタンに切り替わります。

「休止中...」の表示とともに、作業状況を示す棒グラフが表示されます。

ほかにも、設定を行うことにより次の方法で休止状態にすることもできます。

液晶ディスプレイを閉じる

電源スイッチを押す

液晶ディスプレイを閉じたり、電源スイッチを使って休止状態にするには、「液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定」(p.61)の手順で設定を行ってください。

スタンバイ状態または休止状態から復帰(レジューム)する

スタンバイ状態や休止状態から元の状態に戻すことを「復帰」または「レジューム」といいます。

スタンバイ状態からの復帰

電源スイッチを押すとスタンバイ状態から復帰し、ログオン画面が表示されます。「ユーザー名」をクリックしてログオンしてください。複数のユーザーでこのパソコンを使用している場合は、ログオンしたい「ユーザー名」をクリックしてください。スタンバイ状態から復帰します。

液晶ディスプレイを閉じてスタンバイ状態にした場合、液晶ディスプレイを開けることによって復帰させることができます。また、タスクスケジューラを使って時刻を指定して復帰させることもできます。タスクスケジューラについて詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

休止状態からの復帰

電源スイッチを押すとパソコンの電源が入り、「Windows を再開しています...」と表示された後、ログオン画面が表示されます。「ユーザー名」をクリックしてログオンしてください。複数のユーザーでこのパソコンを使用している場合は、ログオンしたい「ユーザー名」をクリックしてください。休止状態から復帰します。

省電力機能の設定をする

省電力機能の設定は、「スタート」ボタン「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」で行います。

✓チェック!! BIOSセットアップメニューでも省電力機能の設定項目がありますが、BIOSセットアップメニューでの設定は無効になります。

「電源オプション」では、省電力機能を実行するときの操作方法や実行するまでの時間を変更したり、ACアダプタ駆動時にも省電力機能が働くように設定できます。また、あらかじめ設定されている電源設定モードから選択することもできます。

液晶ディスプレイや電源スイッチで行う省電力機能の設定

液晶ディスプレイを閉じたり、電源スイッチを操作したときに、スタンバイ状態または休止状態にする場合は、次の設定を行ってください。

1 「スタート」ボタン「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「電源オプション」をクリックする
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 次の操作を行う

- ・ 休止状態を利用するための設定を行う場合
「休止状態」タブをクリックして、手順3に進んでください。
- ・ スタンバイ状態を利用するための設定を行う場合
手順4に進んでください。

3 「休止状態を有効にする」がになっていることを確認する

4 「詳細設定」タブをクリックする

5 「電源ボタン」欄で、設定したい動作と機能を選ぶ

- ・電源スイッチを押して行う場合
「コンピュータの電源ボタンを押したとき」で「スタンバイ」または「休止状態」を選択する
- ・液晶ディスプレイを閉じて行う場合
「ポータブル コンピュータを閉じたとき」で「スタンバイ」または「休止状態」を選択する

6 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

電源設定のモードを選択する

1 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」をクリックする
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「電源設定」タブをクリックする

3 「電源設定」欄でモードを選択する

4 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

画面の下段の「**の電源設定」の「**」には、上段の「電源設定」欄で選んだモード名が表示され、それぞれの項目欄には、モードの設定時間が表示されます。また、「電源設定」欄で新しいモードを作成することもできます。

時間を個別に設定する

- 1 「電源設定のモードを選択する」(p.62)の手順1～2を行う
- 2 画面の下段でそれぞれの時間を設定する

項目	説明
モニタの電源を切る	入力が行われなまま指定した時間が経過すると、モニタの電源を切ります。
ハード ディスクの電源を切る	指定した時間、ハードディスクへのアクセスがないと、ハードディスクの電源を切ります。
システム スタンバイ	指定した時間何の入力もなく、ハードディスクへのアクセスがないと、パソコンがスタンバイ状態になり、消費電力を抑えます。
システム休止状態	指定した時間何の入力もなく、またハードディスクへのアクセスがないと、パソコンが休止状態になり、電源が切れます。

- 3 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

新しいモードを作成する

パソコンの利用状態に合わせて、モードを新たに登録することができます。

- 1 「電源設定のモードを選択する」(p.62)の手順1～2を行う
- 2 画面の下段でそれぞれの時間を設定する
- 3 「名前を付けて保存」ボタンをクリックする
- 4 任意の保存名を入力し、「OK」ボタンをクリックする
これで、新しいモードが登録されました。
- 5 「適用」ボタンをクリックして、「OK」ボタンをクリックする

作成したモードは「電源設定」欄で選択できるようになります。

電源の自動操作

タイマ、LAN、回線からのアクセスによって自動的に電源の操作を行うことができます。

-  **チェック!!** タイマ、LAN、FAXモデムの自動操作によるスタンバイ状態からの復帰を行った場合、本体はスタンバイ状態から復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合、ポインティングデバイスを動かすかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが表示されます。

タイマ機能

設定した時間を経過しても、ポインティングデバイスやキーボードからの入力などが無い場合に、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スタンバイ状態や休止状態にする機能です。

「省電力機能の設定をする」の「電源設定のモードを選択する（ p.62）や、「時間を個別に設定する（ p.63）の手順で時間を設定してください。

リモートパワーオン機能（内蔵LAN機能による電源操作）

LAN経由で、離れたところにあるリモートパワーオンに対応したパソコンの電源を操作する機能です。

-  **参照** リモートパワーオン機能について 「LAN（ローカルエリアネットワーク）」の「本機の運用管理（ p.93）

リング機能（FAXモデムによる電源の自動操作）

FAXモデム内蔵モデルでは、FAXや電話を受信した場合にスタンバイ状態から復帰することができます。ただし、この機能で本機の電源を入れることはできません。

セキュリティ機能

本機には、本機の不正使用やデータなどの盗難を予防するためのセキュリティ機能が搭載されています。

本機のセキュリティ機能

本機のセキュリティ機能には、次のようなものがあります。

- ・ パスワード
- ・ ハードディスクのパスワード
- ・ 指紋認証機能(内蔵指紋センサモデルのみ)
- ・ 暗証番号ボタン(暗証番号機能モデルのみ)

✓チェック!! セキュリティ機能を使用している場合でも、「絶対に安全」ということはありません。重要なデータなどの管理、取り扱いには十分注意してください。

パスワード

パスワードを設定することで、本機の使用者を制限するとともに、本機の不正使用を防止することができます。本機のパスワードはBIOSセットアップメニューで設定します。パスワードを設定することにより、次のような機能を制限することができます。

- ・ 本機の起動
- ・ BIOSセットアップメニューの起動と設定変更

✓チェック!! ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所などに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除しておいてください。

パスワードの種類

本機で設定可能なパスワードには、「スーパーバイザパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

スーパーバイザパスワード

スーパーバイザパスワードは、おもに本機の管理者用のパスワードで、管理者以外の不正な使用や設定の変更を防止したり、本機の使用者を制限するために設定します。

パスワードを設定しておく、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードの入力画面が表示され、パスワードを入力しないかぎりBIOSセットアップメニューを起動できなくなります。また、スーパーバイザパスワード入力のタイミングを、起動時に設定しておくこともできます。

ユーザパスワード

ユーザパスワードは、スーパーバイザパスワードが設定されていないと設定できないパスワードです。おもに本機の使用者のためのパスワードで、スーパーバイザパスワードで本機を管理している管理者が、本機の使用者の使用できる機能を制限するためのものです。

パスワードを使った管理

たとえば、管理者がスーパーバイザパスワードとユーザパスワードの両方を設定し、通常の利用者にはユーザパスワードのみを通知するようにします。このように設定しておく、管理者以外はBIOSセットアップメニューの設定を変更できなくなります。また、どちらのパスワードも通知されていない人は、本機を起動することもできません。

パスワードを設定 / 変更する

スーパーバイザパスワード、またはユーザパスワードの設定 / 変更は、BIOSセットアップメニューで行います。パスワードを設定後にBIOSセットアップメニューを起動する場合は、設定したスーパーバイザパスワードを入力しなければ、BIOSセットアップメニューの一部の設定を起動できなくなります。

- 1 BIOSセットアップメニューを起動する (p.142)
- 2 「セキュリティ(Security)」メニューを選択する
- 3 「スーパーバイザパスワード設定(Set Supervisor Password)」または「ユーザパスワード設定(Set User Password)」を選択して【Enter】を押す
パスワード設定の画面が表示されます。

- ✔ **チェック!!** スーパーバイザパスワードを設定していないと、ユーザパスワードを設定することはできません。

4 パスワードを入力して【Enter】を押す

- ✔ **チェック!!** ニューメリックロックキーランプ()が消灯していることを確認し、パスワードの文字列を8文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA～Z(大文字/小文字の区別はありません)と半角数字の0～9だけです。

5 手順4で入力したパスワードを、もう一度入力して【Enter】を押す

6 「セットアップ通知(Setup Notice)」画面が表示されるので、いずれかのキーを押す

7 設定を保存して、BIOSセットアップメニューを終了する

- ✔ **チェック!!** 設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。

パスワードを入力するタイミング

パスワードを設定しておく、BIOSセットアップメニュー起動時にパスワードを入力するように要求されます。BIOSセットアップメニュー起動時以外にも、本機の起動時に設定することもできます。

本機の起動時

本機の起動時にパスワードを入力するように設定するには、次の手順を行います。

1 BIOSセットアップメニューを起動する(p.142)

2 「セキュリティ(Security)」メニューの「起動時のパスワード(Password on boot)」を選択する

3 「使用する(Enabled)」を選択する

4 設定内容を保存して、BIOSセットアップメニューを終了する

パスワードを入力する

パスワードを設定している場合の電源の入れかた

BIOSセットアップメニューの「セキュリティ (Security)」メニューの「起動時のパスワード (Password on boot)」が「使用する (Enabled)」に設定されている場合は、次の手順で電源を入れます。

- 1 本機の電源を入れる
次のようなパスワードを入力する画面が表示されます。

パスワードを入力して下さい。 [_]

- 2 設定されているパスワードを入力して【Enter】を押す

正しいパスワードが入力されると、Windowsが起動します。

 **チェック!!** 誤ったパスワードを入力すると、警告が表示されます。パスワードの入力に3回失敗すると、パスワードが入力できなくなります。このような場合は、電源スイッチを4秒以上押して電源を切ったあと、もう一度手順1からやりなおしてください。

パスワードを忘れてしまったときは

設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要です。

 **参照**▶ 解除処置について 『活用ガイド ソフトウェア編』の「トラブル解決Q&A」

ハードディスクのパスワード

ハードディスクのパスワードとは

ハードディスクにパスワードを設定することで、本機以外のパソコンでのハードディスクの不正使用を防止することができます。

パワーオンパスワードを併用することにより、ハードディスク内のデータへの不正アクセスを防ぐことが可能です。

ハードディスクのパスワードは、BIOSセットアップメニューで設定します。

- チェック!!** ・ハードディスクのパスワードを忘れてしまった場合、NECフィールドイングの各支店、営業所などに持ち込んでもロックは解除できません。お客様ご自身で作成されたデータは二度と使用できなくなり、またハードディスクを有償で交換することになります。ハードディスクのパスワードは忘れないよう、十分注意してください。
- ・ハードディスクのパスワードは、他のセキュリティ機能と併用してください。ハードディスクのパスワードだけでは、十分に本機の不正使用を防止することができません。

パスワードの種類

本機で設定可能なハードディスクのパスワードには、「マスタパスワード」と「ユーザパスワード」があります。

マスタパスワード

マスタパスワードはロック解除専用のパスワードです。ハードディスクのパスワードを最初に設定するときに入力します。

ユーザパスワード

ユーザパスワードは、ハードディスク認証を行うために設定します。ユーザパスワードを設定することで、本機以外でのハードディスクの不正使用を防止できます。

- チェック!!** マスタパスワードを設定しないとユーザパスワードを設定することはできません。

パスワードを設定 / 変更する

マスタパスワードの設定、ユーザパスワードの設定 / 変更は、BIOSセットアップメニューで行います。

- チェック!!** マスタパスワードは、忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまうと、パスワードの変更およびハードディスクのロックの解除ができなくなります。

1 BIOSセットアップメニューを起動する(p.142)
BIOSセットアップメニューのメイン画面が表示されます。

2 「セキュリティ(Security)」メニューを選ぶ

3 「HDDパスワードの設定(Assign HDD Password)」を選んで、 【Enter】を押す

- ・ はじめて設定する場合
マスタパスワード画面が表示されるので手順5へ進んでください。
- ・ マスタパスワードがすでに設定済みで、ユーザパスワードが設定されていない場合
新しいユーザパスワードの入力画面が表示されるので手順7へ進んでください。
- ・ 上記以外の場合
パスワード入力画面が表示されるので手順4へ進んでください。

4 マスタパスワードまたはユーザパスワードを入力し【Enter】を押す

- ・ ユーザパスワードを入力した場合
新しいユーザパスワード入力画面が表示されるので手順7へ進んでください。
- ・ マスタパスワードを入力した場合
新しいマスタパスワード入力画面が表示されるので手順5へ進んでください。

5 新しいマスタパスワードを入力し【Enter】を押す

 **チェック!!** ニューメリックロックキーランプ()が消灯していることを確認し、パスワードの文字列を8文字以内で設定してください。使用できる文字は、半角英字のA~Z(大文字/小文字の区別はありません)と半角数字の0~9だけです。

6 手順5で入力したマスタパスワードをもう一度入力し【Enter】を押す ユーザパスワード入力画面が表示されます。

7 新しいユーザパスワードを入力し【Enter】を押す

8 手順7で入力したユーザパスワードをもう一度入力し【Enter】を押す

9 「セットアップ通知(Setup Notice)」の画面が表示されるので、いずれかのキーを押す

10 設定を保存して、BIOSセットアップメニューを終了する

パスワードを設定しただけではセキュリティは有効になりません。セキュリティを有効にするためには、次の「ハードディスクのパスワードによるセキュリティを有効にする」をご覧ください。

-  **チェック!!** 設定したユーザパスワードは忘れないようにしてください。ユーザパスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードを忘れないように控えておくことをおすすめします。

ハードディスクのパスワードによるセキュリティを有効にする

マスタパスワードとユーザパスワードを設定してもハードディスクのセキュリティは有効になりません。ハードディスクのセキュリティを有効にするには、BIOSセットアップメニューの「セキュリティ(Security)」メニューで「内蔵HDDパスワードの設定(Internal HDD Password)」または「NXノートベイHDDの設定(Versabay HDD Password)」を「使用する(Enabled)」に設定してください。

-  **チェック!!**
- ハードディスクのセキュリティを有効にしても、設定したマスタパスワードやユーザパスワードを本機の起動時に入力する必要はありません。
 - 本機でセキュリティを有効にしたハードディスクは、他機では使用できません。他機で使用する場合は「内蔵HDDパスワードの設定(Internal HDD Password)」または「NXノートベイHDDの設定(Versabay HDD Password)」を「使用しない(Disabled)」に設定してください。

ハードディスクのロックを無効にする

本機の起動時にハードディスクがロックされたという内容のメッセージが表示された場合は、次の手順でハードディスクのロックを無効にしてください。

- 1 BIOSセットアップメニューを起動する(p.142)
BIOSセットアップメニューのメイン画面が表示されます。
- 2 「セキュリティ(Security)」メニューを選ぶ
- 3 「HDDパスワードの設定(Assign HDD Password)」を選んで、
【Enter】を押す
ロック解除の画面が表示されます。
- 4 マスタパスワードを入力する

5 【Enter】を押す

以上でハードディスクのロックが無効になります。手順5の後にパスワード設定画面が表示されます。パスワードの設定 / 変更の手順にしたがって設定を行うか、【Esc】を押してキャンセルしてください。

指紋認証機能

ここでは、内蔵指紋センサモデルの指紋認証機能について説明しています。指紋認証機能とはパスワードの入力かわりに、内蔵指紋センサを使って指紋による認証を行うシステムです。

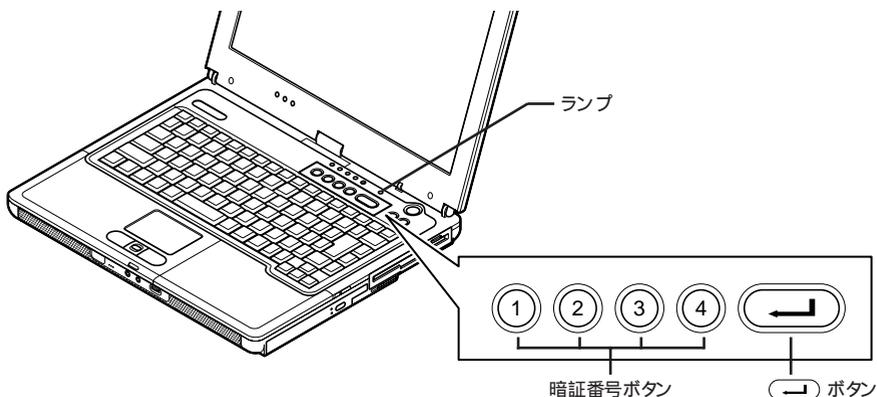
本機では付属のユーティリティで、指紋認証によるBIOSLOCK機能や、Windowsへのログオン、スクリーンセーバのロック解除、各種アプリケーションのパスワード代替などを設定することができます。

参照 指紋認証機能の詳細について 『内蔵指紋センサ ユーザーズ・ガイド』

暗証番号ボタン

この機能は、暗証番号機能モデルのみの機能です。

暗証番号ボタンとは、本体の暗証番号ボタンを押すことによってパスワード認証を行うもので、セキュリティを強化する機能の一つです。暗証番号ボタンを使ってパスワードを設定しておく、正しいパスワードを入力しないかぎり本機を起動できなくなります。およそ800,000通り以上のパスワードが考えられますので、より強力なセキュリティを実現できます。



パスワードを設定する

暗証番号ボタンのパスワード設定や変更は、暗証番号設定ユーティリティで行います。

- ✓チェック!!** 暗証番号ボタンの機能や暗証番号設定ユーティリティの使い方については、「暗証番号設定ユーティリティ インストールディスク」をご覧ください。

セキュリティモード

暗証番号ボタンのパスワードを設定したあとは、電源スイッチを押すと、本機がセキュリティモードに移行してランプが点灯ようになります。セキュリティモードになると、登録したパスワードを入力しないかぎり本機を起動することはできなくなります。

- ✓チェック!!** 暗証番号ボタンのパスワードを設定してあると、電源スイッチを使ってスタンバイ状態から復帰する場合にもセキュリティモードになりますので、設定したパスワードを入力してセキュリティモードを解除してください。

パスワードを忘れてしまった場合は

設定したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードは忘れないように控えておくことをおすすめします。パスワードを忘れてしまった場合には解除処置が必要です。

参照▶ 解除処置について 『活用ガイド ソフトウェア編』の「トラブル解決Q&A」

セキュリティモードを解除する

1 電源スイッチを押す

 ボタン上部のランプが点灯します。

2 登録したパスワードを暗証番号ボタンを使って押し、最後にキー

ボード右上にある  ボタンを押す

正しいパスワードが入力されると  ボタン上部のランプが消灯し、Windowsが起動します。

- ✓チェック!!** ・  ボタンは、キーボード右上にある暗証番号ボタンの隣にあるボタンのことです。キーボードの【Enter】とは異なります。

- ・間違ったパスワードを入力するとピーブ音がなります。間違ったパスワードを3回入力すると、ピーブ音が鳴り続けます。

- ・パスワードは(←) ボタン上部のランプが点灯してから1分以内に入力してください。1分を過ぎるとパスワードを受け付けなくなります。パスワードを受け付けなくなったら、もう一度電源スイッチを押してください。

その他のセキュリティ機能を使う

ハードディスク起動セクタへのウイルス感染防止

ハードディスクの起動セクタを書き込み禁止に設定できます。起動セクタ部分が削除されたり、書き換えられたりすると、正常にパソコンを起動することができなくなってしまいます。書き込み禁止に設定すると、起動セクタをコンピュータウイルスなどから保護できます。

ハードディスク起動セクタの設定は、BIOSセットアップメニューで行います。

参照 ハードディスクの起動セクタを保護する PART3の「設定項目一覧」の「セキュリティ」メニューの設定 (p. 149)

盗難防止用ロック

本体の盗難防止用ロックに別売の「セキュリティケーブル(PK-SC/CA01)」を取り付けると、本体の盗難を防止できます。

参照 盗難防止用ロック このPARTの「各部の名称」(p. 17)

赤外線通信機能

赤外線通信とは、パソコンとパソコンの間をケーブルで接続せずに赤外線
でデータの交換を行う通信方法です。本機では、IrDA規格に準拠した、通
信速度4Mbpsまでの赤外線通信ができます。

赤外線通信を行う前に

本機は購入時の状態では赤外線通信機能を利用できる状態になっていま
せん。本機で赤外線通信機能を利用するには準備が必要です。以下の手順
にしたがって設定を行ってください。

-  **チェック!!** ・内蔵指紋センサモデルでは、BIOSセットアップメニューの「セキュリティ
(Security)」メニューで「セキュリティモード(Security Mode)」の設定を、「パ
スワード(Password)」にしてから、以下の手順を行ってください。
- ・内蔵指紋センサモデルでは、以下の設定を行うと、指紋認証の機能は自動的
に利用できなくなります。赤外線通信機能と指紋認証機能を同時に利用する
ことはできません。

- 1** BIOSセットアップメニューを起動する(p.142)
- 2** 「詳細(Advanced)」メニューで「周辺機器設定(I/O Device
Configuration)」の「赤外線ポート(Infrared port)」を選択する
- 3** 「自動(Auto)」を選択する
「赤外線ポート(Infrared port)」を「自動(Auto)」に設定すると、「モー
ド(Mode)」が表示されます。「モード(Mode)」の設定値が「FIR」に
なっていることを確認してください。
- 4** 【F10】を押す
「セットアップ確認」ウィンドウが表示されます。
- 5** 「はい」ボタンをクリックする
Windowsが再起動し、赤外線通信をするための準備が完了します。

機器の配置について

機器を配置する

赤外線通信を行うときは、本機の赤外線通信ポートと通信相手機器の赤外線通信ポートが向き合うように配置します。

赤外線通信を行う機器は次の範囲内に配置してください。

- ・ 互いの機器の赤外線通信ポートが真正面に向き合うようにする
- ・ 互いの機器の赤外線通信ポートの距離を約1m以内にする

機器を配置するときの注意

- ・ 赤外線通信ポートを汚したり、傷つけたりしない
- ・ 通信相手機器と本機との間に赤外光を遮るような物を置かない
- ・ 互いの機器どうしを接触させない
- ・ 通信相手の赤外線が本機の赤外線通信ポートまで届かない場合や通信相手機器の通信可能距離が本機より短い(本機の場合は約1m以内)場合は、通信相手の機器が本機の通信可能範囲にあっても通信できないことがあります。このような場合は、お互いの赤外線通信ポートを真正面で向き合わせて、できる限り近くに置いてください。このとき、お互いの装置が接触しないようにしてください。

このような場合は通信可能距離が短くなってしまうことがあります

- ・ 直射日光や蛍光灯の直下
- ・ 機器どうしが正しく向き合っていない
- ・ 他の赤外線通信機器やノイズを発生する機器の近くにある
- ・ 本機の赤外線通信ポートの指向性(約15度程度)の範囲を越えている

このような場合はうまく通信できないことがあります

- ・ 異なる機器と接続した場合(相手の機器の性能に依存するため)
- ・ 通信相手機器がIrDA規格に準拠していない場合

異なる機器との通信には、両装置間の通信に対応したソフトが必要です。

赤外線通信をする

赤外線通信を行うには、ワイヤレスリンクを使用します。

ワイヤレスリンク

「ワイヤレスリンク」とは、赤外線通信が可能な2台のパソコン間でファイルの転送を行う機能です。

ワイヤレスリンクを使ったファイルの転送には次の方法があります。

「ワイヤレスリンク」ウィンドウを使う

- 1 画面右下の通知領域にあるか、またはデスクトップに表示される「ファイルを別のコンピュータに送信」アイコンをダブルクリックする
「ワイヤレスリンク」ウィンドウが表示されます。

- 2 送信するファイルを選択し、「送信」ボタンをクリックする

「送る」コマンドを使う

- 1 デスクトップやエクスプローラ、マイコンピュータなどで、送信するファイルを表示させる
- 2 送信するファイルを右クリックする
- 3 表示されたメニューから「送る」「近くのコンピュータ」をクリックする

ドラッグ&ドロップを使う

- 1 デスクトップやエクスプローラ、マイコンピュータなどで送信するファイルを表示させる
- 2 送信するファイルをデスクトップの「ファイルを別のコンピュータに送信」アイコンへドラッグ&ドロップする

 **チェック!!** 画面右下の通知領域やデスクトップにアイコンが表示されていない場合は、赤外線通信を行う相手の機器が通信範囲内に正しく配置されているか確認してください。

ワイヤレスリンクの使い方について詳しくは、「スタート」ボタン「ヘルプとサポート」をクリックすると表示されるWindowsのヘルプをご覧ください。

サウンド機能

ボリュームコントロールを使うと、内蔵音源の再生音量や録音時の入力レベルを調節することができます。

ボリュームコントロールを表示させる

- 1 「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「アクセサリ」 「エンターテイメント」 「ボリューム コントロール」をクリックする
「ボリュームコントロール」ウィンドウが表示されます。

表示項目を切り替える

ボリュームコントロールに表示させる項目を切り替えることができます。

- 1 メニューバーの「オプション」 「プロパティ」をクリックする
「プロパティ」ウィンドウが開きます。
- 2 「音量の調整」欄から「再生」 「録音」のどちらかを選択する
表示項目が切り替わります。
「音量の調整」欄で選択できる項目は、モデルによって異なります。

設定項目一覧

表示できる項目と各項目の説明は次のようになります。
項目はモデルによって多少異なる場合があります。

項目	音量調整の種類		説明
	再生	録音	
ボリューム コントロール			スピーカから出力されるすべての音量を調整します。
WAVE			WAVEなどのPCM音源の音量を調整します。
SW シンセサイザ			MIDIの音量を調整します。
CD プレーヤー			CD-ROMドライブ、CD-R/RWドライブ、CD-R/RW with DVD-ROMドライブで再生した音楽CDを再生、または録音するときの音量を調整します。
マイク			マイクロホン端子から入力される音声をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。
ライン入力			オーディオ入力端子に接続した機器から入力される音をスピーカから出力するとき、または録音するときの音量を調整します。
WAVE出力MIX			スピーカから出力されるすべての音を録音するときの音量を調整します。

モデム

ここでは、FAXモデム内蔵モデルについての説明をしています。内蔵のモデムを介して電話回線に接続すると、インターネットや電子メールなどのやり取りができます。

電話回線との接続

接続可能な電話回線のコンセントについて

本機に接続可能な電話回線は2線式のみです。電話回線に接続する前に、使用する電話回線の種類を確認してください。

本機には、モジュラージャックと接続するためのモジュラーケーブルが添付されています。電話回線のコンセントがモジュラージャック式以外の場合は、変換アダプタを使用するかNTTにモジュラージャックの取り付けを相談してください。

-  **チェック!!** 内蔵のFAXモデムは、一般加入電話回線に適合するように設計されています。一般加入電話回線以外と接続すると、うまく動作しないことや、内蔵FAXモデムやパソコン本体などを破損するおそれがあります。

電話回線を接続する

⚠警告



感電注意

雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

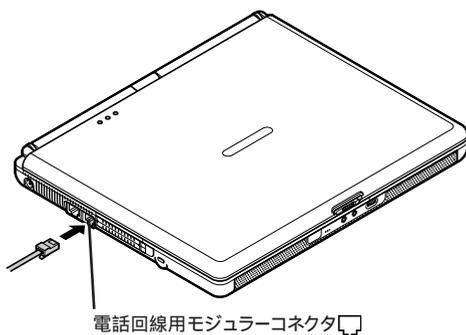
⚠注意



感電注意

モジュラージャックの端子に触れないでください。電話回線と接続しているモジュラージャックを抜いたときに電話がかかってくると、電話回線上に電圧がかかるため、端子に触れると感電することがあります。

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 電話機のモジュラーケーブルをモジュラージャックなどから取り外す
- 3 本体背面のカバーを開き、付属のモジュラーケーブルの一方を本機の電話回線用モジュラーコネクタに接続する



- 4 モジュラーケーブルのもう一方を壁などのモジュラージャックに接続する

1つの電話回線のモジュラージャックを本機以外の機器(電話機など)と共用で使用する場合は、使用するごとにケーブルの接続や取り外しが必要になります。

ダイヤル設定のしかた

電話とモデムのオプションの設定

- 1 「スタート」ボタン「コントロールパネル」「プリンタとその他のハードウェア」「電話とモデムのオプション」をクリックする
「電話とモデムのオプション」ウィンドウが表示されます。
はじめてダイヤル設定を行うときは、「所在地情報」ウィンドウが表示されます。このような場合は、次の「所在地情報」ウィンドウが表示された場合」で設定を行ってください。

「所在地情報」ウィンドウが表示された場合

「市外局番」欄に0を除いた市外局番を入力し、「OK」ボタンをクリックすると、「電話とモデムのオプション」ウィンドウが表示されます。必要な項目を確認して、設定してください。

携帯電話など必ず市外局番からダイヤルする必要がある環境で使用する場合は、市外局番の欄を「000」に設定してください。

2 「ダイヤル情報」タブで、設定したい所在地名を選んでから「編集」ボタンをクリックする



新規にダイヤル設定を行いたい場合は、「新規」ボタンをクリックし、表示された「新しい所在地」ウィンドウで設定を行ってください。

3 「所在地の編集」ウィンドウで設定を行う



使用する場所の0を除いた市外局番を入力する。携帯電話など、市外局番からダイヤルする必要がある場合は「000」を入力する。

外線発信番号が必要な回線の場合は入力する。

プッシュ回線を使用するときは「トーン」、ダイヤル回線を使用するときは「パルス」に設定してください。回線の種類が不明の場合は、NTTにお問い合わせください。

4 設定が終わったら、「OK」ボタンをクリックする

会社など、外線発信番号「0」を使用する電話回線をご利用の場合は、続けて以下の手順5～10を行ってください。

5 「モデム」タブをクリックし、使用しているモデムを選択してから「プロパティ」ボタンをクリックする
プロパティの画面が表示されます。

6 「モデム」タブをクリックし、「発信音を待ってからダイヤルする」のをクリックしてにする

7 「詳細設定」タブをクリックし、「国または地域の選択」欄でをクリックして「日本」を選択する

8 「OK」ボタンをクリックする

9 「OK」ボタンをクリックする

10 「プリンタとその他のハードウェア」ウィンドウのをクリックする

ダイヤルアップの接続の設定

1 「スタート」ボタン 「接続」で、接続先を右クリックする
メニューが表示されます。

2 「プロパティ」をクリックする
プロパティの画面が表示されます。

3 「ダイヤル情報を使う」のをクリックしてにする

通信機能使用上の注意

- ・内蔵FAXモデムは一般加入電話回線のみに対応しています。
一般加入電話回線以外に接続すると、本体の故障、発熱の原因になることがありますのでご注意ください。

- ・構内交換機(PBX)の種類によっては内蔵FAXモデムが使用できない場合があります。
- ・加入電話回線がトーン式かパルス式かわからない場合は、NTTに確認してください。
- ・回線の状態によっては、接続しにくかったり、通信時に雑音が入ることがあります。
- ・キャッチホンサービスを受けている場合、モデムで通信中に電話がかかってくると、モデムによる通信が切れる場合があります。
- ・ダイヤルアップネットワーク接続の場合、インターネットエクスプローラを終了しても回線が接続されたままになっている場合があります。

回線を切断する必要がある場合は、画面右下の通知領域のを右クリックし、表示されたメニューから「切断」をクリックしてください。

- ・コードレスホンや親子電話などの加入電話回線以外の回線をお使いの場合は、正常なデータの送受信ができなくなる場合があります。
- ・回線の状態によっては、希望の通信速度で通信できない場合があります。
- ・電話局の交換機の種類によっては、14400bpsでのファクシミリ通信ができないことがあります。この場合には、通信速度を9600bpsにしてください。
- ・データ通信を行う場合、フロー制御はRTS/CTSに設定してください。それ以外に設定すると、データ抜けが生じる可能性があります。
- ・通常の電話回線を使用する場合、送信レベルは購入時の設定から変更する必要はありません。ただし、回線状態が悪く、うまく接続できない場合には、送信レベルの調整が必要なことがあります。送信レベルの調整は、工事担当者以外が行うことは法律で禁じられていますので、当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。
- ・本機に内蔵されているモデムは、海外では使用できません。
- ・海外と直接接続した場合、伝送路の特性のため正常に通信できない可能性があります。
- ・ITU-T V.90の最大受信速度56,000bpsは、理論値であり、加入電話回線での通信速度とは異なります。
- ・ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。詳しくは、下記のREADMEファイルをご覧ください。

C:\¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

- ・回線を使って通信中はスタンバイ状態または休止状態にしないでください。
- ・分岐アダプタを使って本機と電話機などの両方を電話回線に接続している場合、本機で回線を使用中は、電話機などの受話器を外さないでください。本機の通信が妨害され、切断されることがあります。
- ・接続する電話機などの種類によっては、動作しない機種があります。
- ・接続する電話機などの種類によっては、内蔵FAXモデムが正常に通信できない場合があります。内蔵FAXモデムが正常に通信できない場合は、以下のいずれかの方法で、正常に通信できるようになります。
 - 接続する電話機などにアース接続用の端子がある場合は、アース線をつなぐ
 - 内蔵FAXモデムで通信を行う場合は、電話機などを取り外す
- ・内蔵FAXモデムで通信を行う場合は、使用していないアプリケーションを終了してください。

インターネットへの通信環境を切り替える

インターネット設定切替ツールを使うと、複数のダイヤルアップ接続を使い分けたり、ダイヤルアップ接続からLAN接続へ切り替えたりと、利用シーンに応じて通信環境を切り替えることができます。

パソコンを携帯して、外出先でインターネットを利用する場合などに便利な機能です。

インターネット設定切替ツールについて詳しくは、インターネット設定切替ツールのヘルプをご覧ください。



チェック!!

- ・インターネット設定切替ツールは、購入時にはインストールされていません。インターネット設定切替ツールを使用する場合は、添付の「アプリケーションCD-ROM/マニュアルCD-ROM」を使ってインストールします。インストール方法は、『活用ガイド ソフトウェア編』の「添付アプリケーションの概要と追加/削除」をご覧ください。
- ・インターネット設定切替ツールを使うには、ダイヤルアップネットワークの情報が必要です。ダイヤルアップネットワークが設定されていない場合は、インターネット設定切替ツールは起動できません。
- ・LANを使った接続を行うには、あらかじめネットワークの設定をしておく必要があります。
- ・インターネット設定切替ツールは、Outlookには対応していません。

携帯電話 / PHS接続機能

携帯電話またはPHSを接続することで、屋外でも手軽にインターネットや電子メールを利用できます。

携帯電話またはPHSとの接続

本機に携帯電話やPHSを接続して、屋外でもインターネットや電子メールを利用することができます。

携帯電話やPHSを接続するためのUSBケーブルが添付されてるモデルをお使いの場合は、添付のケーブルを使って接続してください。

携帯電話やPHSと接続するためのUSBケーブルが添付されていないモデルをお使いの場合、本機と携帯電話やPHSを接続するためには、別売のケーブルが必要になります。以下の中からいずれかのケーブルを購入してください。

- ・ 携帯電話 (DoPa/PDC) 接続ケーブル (PC-VP-WK05)
- ・ cdmaOne 接続ケーブル (PC-VP-WK06)
- ・ PHS (NTTドコモ/アステル) 接続ケーブル (PC-VP-WK07)
- ・ PHS (DDIポケット) 接続ケーブル (PC-VP-WK08)

お使いの携帯電話やPHSによって必要なケーブルが異なりますので、ケーブルを購入する際には、お使いの携帯電話やPHSに合ったケーブルを確認してください。

接続できる携帯電話またはPHSについては、NECのホームページ「121ware.com(ワンツワンウェア ドット コム)」をご覧ください。
<http://121ware.com/>

携帯電話またはPHSを接続する

- 1 接続ケーブルのラベルが貼ってあるほうのプラグを、携帯電話またはPHS本体に接続する
プラグの向きに注意し、カチッと音がして止まるまで軽く押し込んでください。
- 2 本機のUSBコネクタ()に、接続ケーブルのプラグを接続する
2つあるUSBコネクタのうち、どちらのUSBコネクタに接続してもかまいません。プラグの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。

参照▶ USBコネクタに接続する PART2の「USBコネクタ」(p.136)

接続先を設定する

プロバイダなどへの接続先を、携帯電話またはPHSを使用した接続設定にする場合は「スタートボタン」「コントロールパネル」「ネットワークとインターネット接続」「ネットワーク接続」でダイヤルアップしているアイコンをダブルクリックし、「プロパティ」ボタンをクリックします。「全般」タブの「接続方法」欄で「SunComm MultiMobile3 USB」を選択してください。

- チェック!!** お使いの携帯電話またはPHSによっては、電話機側に設定が必要な場合や専用のアクセスポイントへの接続が必要な場合があります。詳しくは、携帯電話またはPHSのマニュアルをご覧ください。また専用のアクセスポイントについては、インターネットのサービスプロバイダにお問い合わせください。

ダイヤル設定のしかた

ダイヤルの設定を確認または変更したい場合は、このPARTの「モデム」の「ダイヤル設定のしかた」(p.82)をご覧ください。

携帯電話 / PHS接続機能使用上の注意

ハイパーターミナルなどを使って通信する場合、ATコマンドが必要です。詳しくは、下記のREADMEファイルをご覧ください。

C: ¥Windows¥SCmodem¥Atc¥Html ¥Atc000.HTM

いろいろなデータ通信を行う

本機の携帯電話 / PHS接続機能では、通常のデータ通信のほかに、次のようなデータ通信を行うことができます。

- ・ cdmaOneによるデータ通信
- ・ NTTドコモのDoPaサービスによるデータ通信
- ・ NTTドコモのドッチーモによるPIAFS32Kデータ通信
- ・ NTTドコモのドッチーモによるPIAFS64Kデータ通信
- ・ NTTドコモの64K対応PHSによるデータ通信
- ・ DD Iポケットの32K対応電話機によるPIAFS32Kデータ通信
- ・ DD IポケットのH"(エッジ)によるPIAFS64Kデータ通信

これらのデータ通信をご利用になる場合には、それぞれのデータ通信に対応した接続ケーブルと、ダイヤルアップの接続の設定が必要になることがあります。

-  **チェック!!** これらのデータ通信をご利用になるときは、アクセスポイントがご利用のデータ通信に対応していることを確認してください。対応していないデータ通信方式で接続すると、接続できなかったり、正常に通信できないことがあります。

		必要な接続ケーブル	ダイヤルアップの接続の設定
cdmaOne ¹		cdmaOne接続ケーブル (PC-VP-WK06)	必要ありません。
NTTドコモ	DoPaサービス (パケット通信サービス)	携帯電話 (DoPa/PDC) 接続ケーブル (PC-VP-WK05)	電話番号の最後に「##02」を追加する必要があります。 ²
	PHS (64K対応機種)	携帯電話 (NTTドコモ/アステル) 接続ケーブル (PC-VP-WK-07)	電話番号の最後に「##4」を追加する必要があります。
	ドッチーモ (PIAFS64K機種) ³	携帯電話 (DoPa/PDC) 接続ケーブル (PC-VP-WK05)	電話番号の最後に「##4」を追加する必要があります。
	ドッチーモ (PIAFS32K機種) ³	携帯電話 (DoPa/PDC) 接続ケーブル (PC-VP-WK05)	電話番号の最後に「##3」を追加する必要があります。 ⁴
DDIポケット	PIAFS32K 対応電話機	PHS(DDIポケット) 接続ケーブル (PC-VP-WK08)	電話番号の最後に「##3」を追加する必要があります。 ⁴
	H [®] (エッジ)	PHS(DDIポケット) 接続ケーブル (PC-VP-WK08)	電話番号の最後に「##4」を追加する必要があります。 ⁵

1: データ通信を行うには、データ通信モードを「Async」に設定する必要があります。Packet通信モードをご利用になる場合は、データ通信モードを「Packet」に変更してください。データ通信モードの切り替えについては、cdmaOneの取り扱い説明書をご覧ください。

2: DoPaサービスを利用せずに9600bpsデータ通信を行う場合、この設定は必要ありません。

3: ドッチーモでPIAFS通信を行う場合には、ドッチーモの待ち受けモードを「PHS専用」に切りかえる必要があります。

4: NTTドコモ、アステル、DDIポケットのPHSをお使いの場合は、この設定は必要ありません。

5: 一部の地域では64Kbpsでのデータ通信ができないことがありますが、32Kbpsで接続されます。また、次のような場合にも、64Kbpsでなく、32Kbpsで接続されることがあります。

- ・ 電話番号の最後に「##4」を追加しなかった場合
- ・ 回線が混雑している場合

LAN(ローカルエリアネットワーク)

ここでは、LAN内蔵モデルについての説明をしています。

LANへの接続

本機の内蔵LANボードは、100BASE-TXまたは10BASE-Tネットワークシステムに接続することができます。

100BASE-TXは、従来のEthernet(10BASE-T)の環境で転送速度100Mbpsを実現したネットワークです。従来のネットワーク構成を変更せずに既存のハブやリンクケーブルを変更するだけで、高速化がはかれます。本機は、どちらの環境にも接続することができます。

LANの設置

はじめて100BASE-TXネットワークを設置するためには、配線工事などの技術が必要ですので、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。また、本機に接続するケーブル類やハブなどは、弊社製品を使用してください。他社製品を使用し、システムに異常が発生した場合の責任は負いかねますので、ご了承ください。

接続方法

既存のネットワークに、端末として本機を接続する場合について説明します。

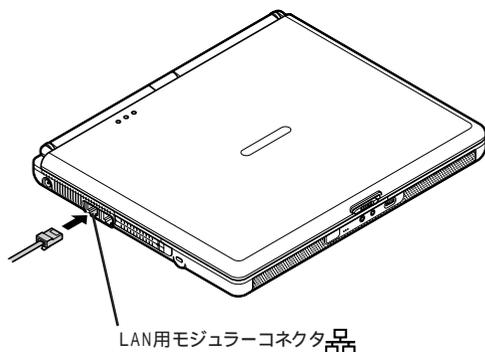
ネットワークへの接続には、リンクケーブルが必要です。

本機に内蔵されているLANインターフェイスは、100Mbpsで動作する100BASE-TX基準を満たしています。100BASE-TX(100Mbps)で使用するには、必ずカテゴリ5のリンクケーブルを使用してください。10BASE-T(10Mbps)で使用するには、カテゴリ3または5のリンクケーブルを使用してください。



チェック!! 本機を稼働中のネットワークに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示にしたがって、ネットワークの設定やリンクケーブルの接続を行ってください。

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 リンクケーブルの一端を、本機のLAN用モジュラーコネクタ(品)に、奥までしっかり差し込む



- 3 リンクケーブルのもう一方を、ネットワーク(100BASE-TXハブなど)に接続する
ネットワーク側の接続や設定については、接続するネットワーク側の機器のマニュアルをご覧ください。

運用上の注意

LANに接続して本機を使用する場合は、次の点に注意してください。

- ・システム運用中は、ハブからリンクケーブルを外さないでください。ネットワークが切断されます。ネットワーク接続中にリンクケーブルが外れた場合は、すぐに接続することで復旧し、使用できる場合もありますが、使用できない場合は、Windowsを再起動してください。
- ・LAN回線を接続してネットワーク通信をする場合は、本機にACアダプタを接続して使用するようになしてください。バッテリーパックのみで使用すると、使用時間が短くなります。
- ・スタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)では、ネットワーク機能がいったん停止します。ネットワークを使用するアプリケーションによっては、スタンバイ状態または休止状態になったときにデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合は、システム管理者に確認のうえ、スタンバイ状態または休止状態を使用してください。

- ・100BASE-TX/10BASE-Tシステムの保守については、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

ユニバーサル管理アドレス

ユニバーサル管理アドレスは、IEEE(米国電気電子技術者協会)で管理されているアドレスで、主に他のネットワークに接続する場合などに使用します。ユニバーサル管理アドレスは、コマンドプロンプトで次のどちらかのコマンドを入力することで確認できます。

```
NET CONFIG WORKSTATION 【Enter】
```

(「アクティブなネットワーク(ワークステーション)」という項目の()内に表示されます。)

```
ipconfig/all【Enter】
```

(「physical address」として表示されます。)

本機の運用管理

本機は、システム管理者が効率よく本機をマネジメントするための運用管理、セキュリティ、資源管理および遠隔操作や保守を行うための機能が 있습니다。システム管理者が効率よくパソコンをマネジメントするために、次のような手段や機能を利用することが効率的であるといわれています。

- ・一般のユーザが、Windowsのシステムに影響のあるファイルを変更や削除したり、アプリケーションをインストールできないようにする。
- ・機密データの漏洩、改ざん防止、コンピュータウイルスの侵入を防ぐため、外部からデータを取り込むフロッピーディスクドライブを使用できないようにする(ロックする)。
- ・アプリケーションのバージョンアップのために、必要なパソコンのハードウェア構成情報(メモリ容量、ハードディスクの空き容量など)ソフトウェア構成情報を管理する。
- ・ハードウェアに異常が発生したことを一般ユーザやシステム管理者に通知する。
- ・システム管理者のパソコンから管理するパソコンの電源、システムを遠隔操作できる。

このような手段や機能を利用するために、次のようなマネジメント(運用管理)機能を備えています。

クライアントモニタリング

「Intel® LANDesk® Client Manager 6 (with NEC Extensions)」により、離れたところにあるマシンから本機の状態を知ることができます。また、システム管理者が別売のPCMANAGERなどを利用して一括でクライアントPCの障害情報を監視できます。

参照 『活用ガイド ソフトウェア編』の「添付アプリケーションの概要と追加/削除」の「Intel® LANDesk® Client Manager 6 (with NEC Extensions)」

・ 資源管理

本機のメモリ容量、ハードディスク容量などのハードウェア構成およびインストールされているアプリケーションについての情報を知ることができます。また、離れたところにあるマシンから、本機の情報を知ることができます。

・ 状態監視

障害監視機能が異常を検出すると、本機の状態監視アイコンやポップアップメニューにより異常を通知し、バックアップツールの連携操作などができます。また、離れたところにあるマシンから、本機の状態を知ることができます。

ネットワークブート

管理者パソコンと接続し、次の操作を行うことができます。

チェック!! この機能を使用するには、別途PXEに準拠した運用管理ソフトが必要です。

- ・ OS インストール
- ・ BIOSフラッシュ(BIOS ROMの書き換え)
- ・ BIOS設定変更

上記の作業を行う際に、ネットワークからの起動が必要になった場合は、BIOSセットアップメニューを起動し、「起動(Boot)」メニューの「Networkブート(Network Boot)」を「使用する(Enabled)」に設定してください。本機起動時に「NEC」ロゴが表示されているときに【F12】を押すとネットワークブートが可能になります。

チェック!! 【F12】を押し続けても、ネットワークブートができないことがあります。この場合は、いったん電源を入れなおし、「NEC」のロゴが表示されたらすぐ、1秒おきに【F12】を数回押すことを何度か繰り返してください。

リモートパワーオン機能(Remote Power On機能)の設定

本機におけるLANによるリモートパワーオン機能は次のとおりです。

- ・電源の切れている状態から電源を入れる(パワーオン)
- ・スタンバイ状態(サスペンド)からの復帰
- ・休止状態(ハイバネーション)からの復帰

本体およびLANボードがリモートパワーオンに対応しているパソコンでリモートパワーオン機能を使うように設定している場合は、本体の電源が切れているときも、LANボードの一部は通電されています。管理者パソコンはIntel® LANDesk® Client Manager (with NEC Extensions) などのリモートパワーオンのコマンド指示により、パワーオンを指示する特殊なパケットを離れたところにあるパソコンに送信します。そのパケットを離れたところにあるパソコン(本機)の専用コントローラが受信すると、専用コントローラはパワーオン動作を開始します。これにより離れたところにある管理者パソコンから、LAN接続された本機の電源を入れることができます。リモートパワーオン機能を利用するためには、次のソフトウェア、設定、または「121ware.com」からモジュールのダウンロードが必要になります。

- 管理者パソコン:
別売の「DMIT00L Ver8.ㄨ(pcAnywhere™ 9.2 EX コンプリート版付)」など
- 本機:
BIOSの設定(リモート電源制御)



チェック!!

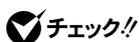
「DMIT00L Ver8.ㄨ(pcAnywhere™ 9.2 EX コンプリート版付)」を使用する場合、次のモジュールが必要になります。

次のアドレスから「レスキュー」「ダウンロード」「カテゴリ検索」の順にクリックし、「カテゴリ」に「運用管理関連」を指定して、ダウンロードしてください。

<http://121ware.com/>

- 管理者パソコンがWindows XPの場合
「DMIT00L Ver8.x」に含まれているIntel® LANDesk® Client Manager 6 (with NEC Extensions) Windows® XP対応アップデートモジュール (11月公開予定)
- 管理者パソコンがWindows Me / Windows 98SE / Windows 2000 / Windows NT4.0の場合
「DMIT00L Ver8.ㄨ(コンプリート版付)用アップデートモジュール」

電源が切れている状態や、スタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション) からリモートパワーオン機能を利用するためには、次の設定を行ってください。

**チェック!!**

リモートパワーオン機能の設定を行った場合は、購入時の設定で使う場合にくらべて、本機のバッテリーの消費量が大きくなります。バッテリー駆動時間を優先して本機を使いたい場合は、リモートパワーオン機能の設定は行わずに購入時の設定で使用してください。

電源の切れている状態からリモートパワーオン機能を利用するための設定

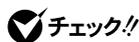
1 BIOSセットアップメニューを起動する (p.142)

2 「省電力管理(Power)」メニューの「リモート電源制御(Remote Power On)」を「使用しない(Disabled)」以外に設定する

項目	機能
AC時のみ	LANによるパワーオン機能、スタンバイ状態(サスペンド) / 休止状態(ハイバネーション)からの復帰機能がAC電源で使用している場合のみに働くモードです。リモートコントロール中、バッテリー切れにより操作不能におちいる心配がありません。
AC / 電池駆動	LANによるパワーオン機能、スタンバイ状態(サスペンド) / 休止状態(ハイバネーション)からの復帰機能が、バッテリー駆動でも働くモードです。
使用しない	リモートパワーオン機能は使用できなくなります。

: Windowsでの設定によっては、スタンバイ状態(サスペンド) / 休止状態(ハイバネーション)からの復帰機能が働きます(AC駆動時のみ)。

スタンバイ状態または休止状態からリモートパワーオン機能を利用するための設定

**チェック!!**

以下の設定を行う場合は、管理者権限を持つユーザーアカウントで本機にログオンしてください。

1 「デバイス マネージャ」を開く

2 「ネットワークアダプタ」の左の⊕をクリックする

3 表示されたLANアダプタをダブルクリックする

4 「電源の管理」タブをクリックする

5 以下の設定を行う

- 「電力の節約のために、コンピュータでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」がになっていることを確認します。
- 「このデバイスで、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」のをクリックしてにします。

電源回復イベントには、MagicPacket検出に加えて、電源回復フレーム検出(たとえば、APPLIKエスト、NetBIOS名検索、コンピュータに直接送られてきたIPフレームなどの検出)があります。MagicPacket以外の電源回復イベントでスタンバイ状態から復帰させたい場合は以下の設定を行ってください。

- 「管理ステーションでのみ、コンピュータのスタンバイ状態を解除できるようにする」のをクリックしてにします。

✓チェック!! 前回のシステム終了が正常に行われなかった場合、リモートパワーオン機能を使用して電源を入れることはできません。一度電源スイッチを押して本機を起動し、もう一度正しい方法で電源を切ってください。



ワイヤレスLAN(無線LAN)

ここでは、ワイヤレスLAN(無線LAN)モデルについての説明をしています。

ワイヤレスLAN(無線LAN)機能を使う

ワイヤレスLAN(無線LAN)機能を使うと、次のようなことができます。

- ・他のパソコンとのファイルやプリンタの共有
- ・無線LANネットワークの構築

ワイヤレスLAN(無線LAN)について詳しくは、添付の『ワイヤレスLAN(無線LAN)について』をご覧ください。



Bluetooth™機能

ここでは、Bluetooth™についての説明をしています。

Bluetooth™機能を使う

Bluetooth™機能を使うと、次のようなことができます。

- ・他のBluetooth™対応パソコンとのファイルの共有
- ・Bluetooth™対応の周辺機器の利用

Bluetooth™機能について詳しくは、添付の『Bluetooth™について』をご覧ください。

P A R T

2

周辺機器を使う

別売の周辺機器の接続方法や注意事項などを説明しています。

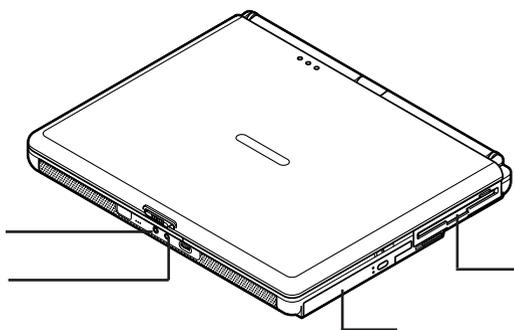
接続できる周辺機器

本機には、次のような別売の周辺機器を接続できます。

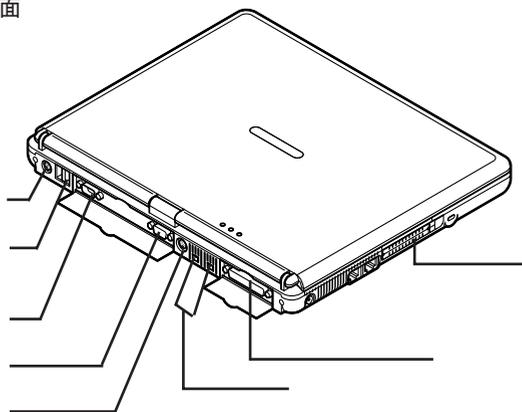
本体に接続できる周辺機器一覧

本機のそれぞれのコネクタや端子に接続できる周辺機器について説明します。

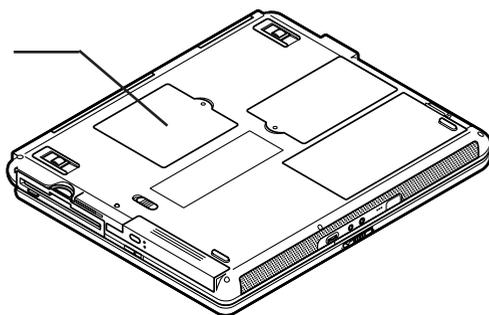
本体前面 / 右側面



本体背面



本体底面



名称	接続できる周辺機器
外部マイクロホン端子	マイクロホン
ヘッドホン / オーディオ出力端子	ヘッドホン、オーディオ機器など
VersaBay IV	セカンドハードディスクなど
MultiBay	セカンドバッテリーパック
マウス / テンキーボード用コネクタ	マウス、テンキーボードなど
USB コネクタ	USB 機器 USB マウス、USB テンキーボード、携帯電話、PHS 端末など
シリアルコネクタ	ターミナルアダプタ
外部CRT用コネクタ	CRTディスプレイ
S映像出力端子	テレビ
IEEE1394コネクタ (VA80H/DF、VA80H/DXを除く)	デジタルビデオカメラ
パラレルコネクタ	プリンタ
PCカードスロット	PCカード、SCSI インターフェイスカードなど (SCSI インターフェイスカードを使うと、MOドライブやハードディスクを接続できます)
メモリスロット	増設RAMボード

周辺機器の利用

プリンタや外部ディスプレイなど、本機に接続して使用する機器全般を、周辺機器といいます。本機には、さまざまな周辺機器を接続するためのコネクタやポートが用意されています。

周辺機器利用上の注意

⚠警告



感電注意

雷が鳴りだしたら、本機や電源コードに触れないでください。また、機器の接続や取り外しを行わないでください。落雷による感電のおそれがあります。

⚠注意



感電注意

周辺機器の取り付け / 取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、本機と周辺機器の電源コードを抜いてください。電源コードがACコンセントに接続されたまま、周辺機器の取り付け / 取り外しをすると、感電の原因となります。

濡れた手で電源コードを抜き差ししないでください。感電の原因となります。

周辺機器の取り付け / 取り外し時の注意

- ・本機がスタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)の場合は、周辺機器を取り付けたり取り外したりしないでください。本機がスタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)の場合は、いったん復帰させてデータを保存し、電源を切ってから周辺機器の取り付けや取り外しを行ってください。
- ・別売の周辺機器を取り付ける場合は、その周辺機器が本機に対応していることを確認してください。また、周辺機器によっては使用上の制限事項がある場合がありますので、周辺機器の説明書などをよくお読みになり使用してください。当社製以外の周辺機器を使用する場合は、機器の製造元 / 発売元などに上記の事項を確認してください。
- ・周辺機器の取り付けや取り外しは、取扱説明書にしたがって正しく行ってください。

- ・周辺機器によっては、専用のケーブルが必要な場合があります。接続する前に確認のうえ用意してください。

リソースの競合について

周辺機器を増設すると、他の機器とリソースが競合してどちらかが使えなくなることがあります。この場合は、以下の手順でリソースが競合しないように変更してください。

- ✔ **チェック!!** ・使用中のアプリケーションがある場合は、すべて終了しておいてください。
- ・管理者権限を持つユーザーアカウントで本機にログオンしてください。

- 1 「デバイス マネージャ」を開く
- 2 **!** や**x**が表示されていて動作しない周辺機器をダブルクリックする
- 3 「プロパティ」ウィンドウで「リソース」タブをクリックし、「自動設定」のをクリックしてにする
- 4 競合しているリソースを「リソースの種類」一覧の中から選択し、ダブルクリックする
「競合の情報」欄に、競合しているデバイスと、競合しているリソースの種類が表示されます。
- 5 競合しないリソースの値を設定し、「OK」ボタンをクリックする
設定したリソースの値が他のデバイスと競合している場合、「競合するデバイス」欄に競合しているデバイスと競合しているリソースが表示されます。

- ✔ **チェック!!** 他の周辺機器がそのリソースを使用している場合や、変更不可のメッセージが表示された場合は、その値への変更はできません。

選択した周辺機器によっては「ポート番号」と「I/Oの範囲」など複数の変更が必要になることがあります。

6 リソースが競合していないことを確認し、「プロパティ」ウィンドウで「OK」ボタンをクリックする
「変更不可の構成を作成しています」ウィンドウが表示されます。

7 「はい」ボタンをクリックする
「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。

8 「はい」ボタンをクリックする
Windowsが再起動します。

周辺機器を使えるようにデバイスドライバをセットアップする

周辺機器を使うには、接続した周辺機器用のデバイスドライバを本機にセットアップする必要があります。デバイスドライバとは、本機と周辺機器との仲介をする周辺機器専用のソフトウェアのことで、ドライバと呼ぶこともあります。

✓チェック!! デバイスドライバが正しく組み込めなかった場合は、周辺機器が使用できないばかりか、本機の動作が不正になることがあります。その場合は、周辺機器のマニュアルにしたがって、再度デバイスドライバを正しく組み込んでください。

デバイスドライバのセットアップ方法は、周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しているかどうかによって異なります。

・「プラグ&プレイ機能」対応の周辺機器の場合

機器を本機に接続してWindowsを起動すると、自動的にドライバの設定が行われ、機器が使用可能な状態になります。

本機には、プラグ&プレイ機能用に多くの周辺機器のドライバがあらかじめ添付されています。接続しようとする周辺機器がプラグ&プレイ機能に対応しており、かつ添付されたドライバの中に該当するものがあれば、周辺機器の検出と設定が自動的に行われます。

・「プラグ&プレイ機能」に対応していない周辺機器の場合

機器を本機に接続した後、ドライバの設定が必要な場合があります。設定の詳細は、本機やドライバに添付のREADMEファイルや周辺機器のマニュアルをご覧ください。

READMEファイルは、「メモ帳」などのテキスト形式のファイルが開けるアプリケーションで見ることができます。

周辺機器の電源を入れる / 切る順序

本機に周辺機器を接続している場合は、次の順序で電源を入れたり、切ったりしてください。

電源を入れる

周辺機器の電源を入れる

本機の電源を入れる

電源を切る

本機の電源を切る

周辺機器の電源を切る

周辺機器の取り外しと再接続

周辺機器の中でも、USB対応機器、IEEE1394対応機器、PCカードなどは、本機の電源を入れたまま取り付け、取り外しができます。

ただし、画面右下の通知領域にが表示されている周辺機器は、正しい手順で取り外しを行わないと、本機が正常に動作しなくなることがあります。取り外しを行う場合は、必ず次の手順で取り外しを行ってください。

- 1 画面右下の通知領域にあるをダブルクリックする
「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウが表示されます。
が表示されていない場合は、以降の手順は必要ありません。
- 2 取り外したい周辺機器名またはPCカード名をクリックして、「停止」ボタンをクリックする
周辺機器名やPCカード名が表示されていない場合は、手順4へ進んでください。
- 3 「ハードウェア デバイスの停止」ウィンドウで取り外したい周辺機器名やPCカード名をクリックして「OK」ボタンをクリックする
画面右下の通知領域に安全に取り外すことができるという内容のメッセージが表示されます。

4 「閉じる」ボタンをクリックして、「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウを閉じる

これで周辺機器またはPCカードを取り外すことができます。

同じ周辺機器を再接続する場合は、ドライバなどを再インストールする必要はありません。ただし、メッセージが表示されたり、画面が少しの間止まったように見えることがあります。メッセージが表示された場合はメッセージにしたがってください。画面が止まったように見える場合も機器の故障ではありません。しばらく待てば使用できます。

プリンタ

プリンタを使用するには、そのプリンタ機種に対応した専用のドライバが必要です。ドライバは通常フロッピーディスクなどの形でプリンタに添付されています。また、本機にも代表的なプリンタのドライバが数多く添付されています。

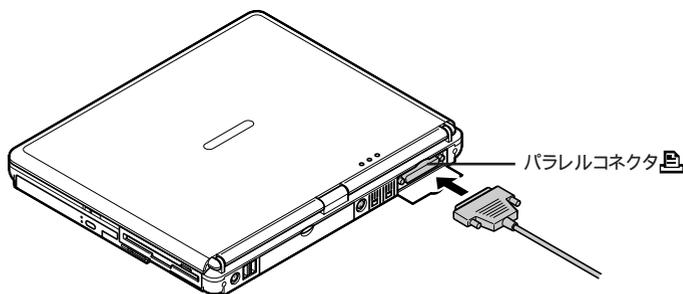
プリンタの接続

本機の平行コネクタにプリンタを接続する場合は、25ピン平行インターフェイスに対応したプリンタケーブルが必要です。

また、プリンタによっては、本機のUSBコネクタに接続できる機種もあります。

参照 ▶ USB対応プリンタを使う このPARTの「USBコネクタ」(p.136)

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 本機の平行コネクタ()にプリンタケーブルの小さいほうのプラグを向き(上下)に注意して差し込む



- 3 プリンタケーブルの大きいほうのプラグをプリンタのコネクタに差し込む
接続についてはプリンタのマニュアルもご覧ください。

プリンタの設定

プリンタの設定は、使用するプリンタの機種ごとに、「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「プリンタとその他のハードウェア」 「プリンタとFAX」で行います。たとえば、会社で使うプリンタと家庭で使うプリンタの機種が異なる場合は、それぞれの機種に対して設定を行う必要があります。

プリンタの設定について詳しくは、お使いのプリンタのマニュアルをご覧ください。

マウス

本機では、添付または別売のマウスを使用することができます。ここでは、別売のマウスを使用するための手順を説明しています。

別売のマウスの設定方法

本機では、USBマウス、シリアルマウス、PS/2互換マウスを使用することができます。それぞれのマウスを使用するための設定方法については、次からの説明をご覧ください。

- チェック!!** ・マウスドライバの変更を行う場合、一時的にマウスやNXパッドなどのポインティングデバイスが使用できなくなることがあります。その場合は次のようにキーボードを使ってWindowsを再起動してください。
- ・管理者権限を持つユーザーアカウントで本機にログオンしてください。

キーボードでの再起動

【Ctrl】を押しながら【Esc】を押す

カーソル移動キーで「Windowsの終了」を選択し【Enter】を押す

カーソル移動キーで「再起動」ボタンを選択し、【Enter】を押す

USBマウスを使用する

本機でUSBマウスを使用する場合は、以下の手順で設定を行ってください。

- チェック!!** ・購入時はNXパッドドライバはインストールされていません。NXパッドドライバのインストールについては、PART1の「NXパッド」の「NXパッドドライバをインストールする」(p.31)をご覧ください。
- ・マウスドライバの変更を行う場合は、使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。

1 「デバイス マネージャ」を開く

2 「マウスとそのほかのポインティングデバイス」の左の \oplus をクリックする

3 「NX PAD」をダブルクリックする

「NX PADのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

4 「ドライバ」タブをクリックし、「ドライバの更新」ボタンをクリックする

「ハードウェアの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。

5 「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」の○をクリックして●にし、「次へ」ボタンをクリックする

6 「検索しないで、インストールするドライバを選択する」の○をクリックして●にし、「次へ」ボタンをクリックする

7 「モデル」欄から「標準PS/2ポートマウス」を選択し、「次へ」ボタンをクリックする

チェック!! ・「モデル」欄に「標準PS/2ポートマウス」が表示されていない場合は「互換性のあるハードウェアを表示」のをクリックしてにし、「製造元」欄から「標準マウス」を選択し、「モデル」欄から「標準PS/2ポートマウス」を選択してください。

・「モデル」欄に「標準PS/2ポートマウス」が複数表示されている場合は、一番上の「標準PS/2ポートマウス」を選択してください。

・Windows XPとの互換性を警告するようなメッセージが表示された場合は、「続行」ボタンをクリックしてください。

・デバイスのインストールの確認ウィンドウが表示された場合は、「はい」ボタンをクリックしてください。

必要なファイルがコピーされます。

「ハードウェアの更新ウィザードの完了」と表示されます。

8 「完了」ボタンをクリックする

9 「閉じる」ボタンをクリックする

「システム設定の変更」ウィンドウが表示されます。

10 「はい」ボタンをクリックする

Windowsが再起動します。

これで設定は完了です。

再起動後、USBマウスを接続してください。

参照 ▶ マウスドライバのインストール方法 各機器のマニュアル

シリアルマウスを使用する

本機でシリアルマウスを使用する場合は、以下の手順で設定を行ってください。

チェック!! 接続するときは、必ず本機の電源を切ってから接続してください。

1 「スタート」ボタン「終了オプション」をクリックし、「電源を切る」ボタンをクリックする
本機の電源が切れます。

2 シリアルマウスを本機のシリアルコネクタに接続する

参照 シリアルコネクタ PART1の「各部の名称 (p.17)

チェック!! シリアルマウスに専用のドライバが添付されている場合は、マウスを接続したあと、マウスのマニュアルにしたがってドライバの変更を行ってください。

PS/2互換マウスを使用する

本機でPS/2互換マウスを使用する場合は、以下の手順で設定を行ってください。

1 本機の電源を切る

2 マウス / テンキーボード用コネクタ( / )にPS/2互換マウスを接続する(p.140)

マウスに専用のドライバが添付されている場合は、マウスのマニュアルにしたがってドライバの変更を行ってください。

NXパッドを使用する設定に戻す

NXパッドを使用するには、NXパッドドライバをインストールしてください。インストールについては、PART1の「NXパッド」の「NXパッドドライバをインストールする (p.31)」をご覧ください。

他社製のマウスドライバを使用する場合の注意

他社製のマウスには、独自のマウスドライバが添付されているものがあります。他社製のマウスドライバのインストール、アンインストールは以下の手順で行ってください。

- チェック!!** マウスドライバを変更する場合は、使用中のアプリケーションをすべて終了させてください。

他社製のマウスドライバをインストールする

- 1 「USBマウスを使用する」(p.111)の手順を行い、マウスドライバを「標準PS/2ポートマウス」に設定する
- 2 他社製のマウスドライバをインストールする

参照 マウスドライバのインストール マウスのマニュアル

他社製のマウスドライバをアンインストールする

- 1 他社製のマウスドライバをアンインストールする

参照 マウスドライバのアンインストール マウスのマニュアル

- 2 「USBマウスを使用する」(p.111)の手順を行い、マウスドライバを「標準PS/2ポートマウス」に設定する
- 3 「NXパッドドライバをインストールする」(p.31)の手順にしたがってNXパッドドライバをインストールし、NXパッドを使用する設定に戻す

外部ディスプレイ

本機にCRTディスプレイやプロジェクタ、テレビなどを接続することができます。CRTディスプレイの大画面で作業したり、プロジェクタを使ったプレゼンテーションなどが可能になります。

CRTディスプレイの接続

CRTディスプレイ接続時の解像度と表示色

別売のCRTディスプレイでは、次の解像度と表示色を表示できます。

表示解像度 (ドット)	水平走査 周波数(KHz)	垂直走査 周波数(Hz)	表示色	
			65,536色	1,677万色
800×600	37.9	60		
	46.9	75		
	53.7	85		
1,024×768	48.4	60		
	56.5	70		
	60.0	75		
	68.6	85		
1,280×1,024	64.0	60		
	80.0	75		
	91.1	85		
1,600×1,200	75.0	60		
	93.8	75		

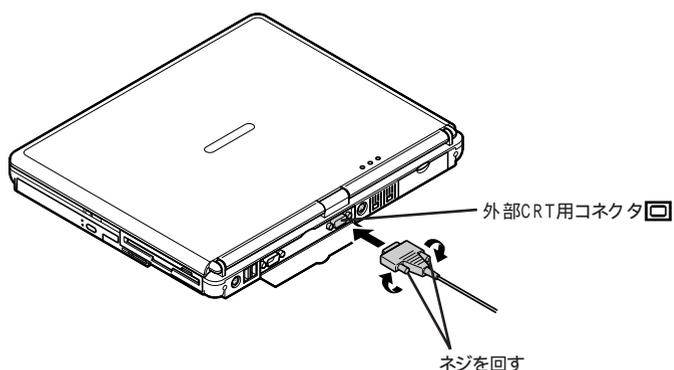
:表示可能

x :表示不可能

チェック!! お使いになるCRTディスプレイによっては、上の表に記載されている走査周波数や解像度に対応していない場合があります。CRTディスプレイをご使用の際は、CRTディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。

CRTディスプレイを接続する

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 本体背面のカバーを開き、ディスプレイ用ケーブルを本機の外部CRT用コネクタ(回)に差し込んで、ネジを回して固定する



- 3 本機にACアダプタを接続する
CRTディスプレイを接続した場合、本機はACアダプタでお使いください。

プロジェクタの接続

本機には、別売のプロジェクタを接続することができます。プロジェクタは、プレゼンテーションなどに利用することができます。

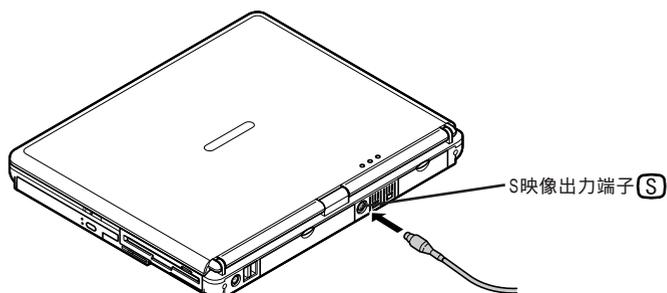
液晶プロジェクタと解像度について

別売の液晶プロジェクタを使用する場合は、プロジェクタのマニュアルを参考にして表示解像度などを確認してください。

テレビの接続

本機は、市販のビデオケーブルを使って、本機のS映像出力端子 (S) とテレビやビデオなどのS映像入力端子を持つ機器を接続し、パソコンの画面をテレビに出力することができます。

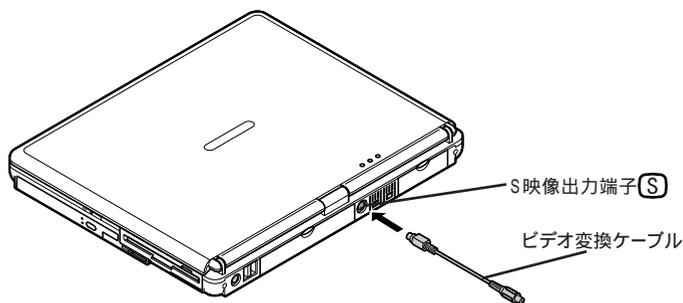
参照 ▶ テレビで表示できる解像度と表示色 PART1の「液晶ディスプレイ」(p.42)



映像入力端子を持つ機器と接続する

本機に映像入力端子を持つ機器を接続する場合は、添付のビデオ変換ケーブルを使います。

- 1 本機のS映像出力端子 (S) に添付のビデオ変換ケーブルのプラグを接続する



- 2 市販のビデオケーブルを使って、ビデオ変換ケーブルのもう一方のプラグと映像入力端子を持つ機器を接続する

外部ディスプレイの設定

表示ディスプレイの切り替え

別売のCRTディスプレイなどを接続した場合、キーボードの【Fn】を使って、次のように表示するディスプレイを切り替えることができます。

機能	キー操作	説明
ディスプレイ切り替え —//□	【Fn】+【F3】	別売のCRTディスプレイが接続されている場合、キーを押すごとに、「液晶ディスプレイとCRTの同時表示」「テレビ」「液晶ディスプレイ」「CRT」の順に切り替わります。

:テレビが接続されている場合のみ切り替わります。

チェック!! キーボードの【Fn】を押しながら【F3】を押して画面の出力先を切り替える操作では設定が保持されないため、Windowsを再起動すると切り替える前の出力先に戻ってしまいます。

また、解像度や色数を変更した場合、またはスタンバイ状態や休止状態から復帰した場合にも画面の出力先が変わってしまうことがあります。このような場合は、再度【Fn】を押しながら【F3】を押して画面の出力先を切り替えてください。

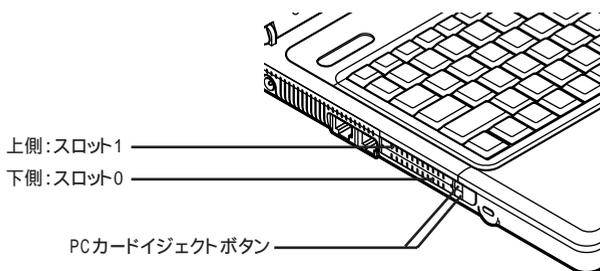
PCカード

本機ではPC Card Standard準拠のPCカードを使用できます。PCカードを使うことで、本機の機能を拡張したり、さまざまな周辺機器を接続することができます。

使用上の注意

PCカードスロットについて

- ・ TYPE IかTYPE IIのPCカードを上下のスロットに1枚ずつ2枚まで、または上下のスロットを合わせて1枚のTYPE IIIのPCカードを使用できます。
- ・ CardBus対応のPCカードは、スロット1またはスロット0の両方で同時に使うことができます。
- ・ 本機のPCカードスロットでは、PC Card Standardに準拠していないPCカードは使用できません。対応していないPCカードを無理に押し込むと、故障の原因となります。



PCカードの取り扱いについて

PCカードは精密にできています。PCカードやスロットの故障を防ぐため、次の点に注意してください。

- ・ 高温多湿あるいは低温の場所に放置しないでください。
- ・ 濡らさないでください。
- ・ 重いものを乗せたり、ねじ曲げたりしないでください。
- ・ ぶつかけたり、落としたりして衝撃を与えないでください。
- ・ PCカードの端子部分に金属などを差し込まないでください。

PCカードのセットのしかたと取り出し方

△注意



高温注意

本機の使用時や使用直後はPCカードが熱くなっていますので、出し入れにご注意ください。

- ✔ **チェック!!** ・PCカードには表と裏があり、スロットに差し込む方向も決まっています。まちがった向きで無理やり差し込むと、コネクタやスロットを破損するおそれがあります。
- ・本機がスタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)の場合は、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消失してしまうことがあります。
- ・アプリケーションを使用中は、PCカードをセットしたり、取り出したりしないでください。
- ・ワイヤレスLAN(無線LAN)モデルでは、PCカードの取り出しを行う場合、「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで「内蔵ワイヤレスLAN機能(ORiNOCO)」が表示されますが、誤って停止させないようにしてください。

PCカードのセットのしかた

- 1 PCカードの差し込む向きを確認し、ラベル面を上にして、水平に静かに差し込む

- ✔ **チェック!!** PCカードスロットにPCカードをセットすると、「Windowsが実行する動作を選んでください。」と表示される場合があります(表示される内容は、使用するメディアによって異なります)。このように表示された場合は、実行したい操作を選んでから「OK」ボタンをクリックしてください。どの操作を選べばよいかわからない場合は、ウィンドウの右上の☒をクリックしてください。

- 1** 「周辺機器の利用」の「周辺機器の取り外しと再接続」(p.107) の手順1～4を行う
- 2** PCカードイジェクトボタンを押す
ボタンが手前に飛び出します。
- 3** もう一度PCカードイジェクトボタンを押す
- 4** PCカードが少し出てくるので、水平に静かに引き抜く

PCカードの設定

PCカードを使用するには、次のような設定が必要な場合があります。

割り込みレベルの設定

PCカードによっては、割り込みレベルの設定が本機の他の設定と重なる場合があります。PCカードのマニュアルと、このマニュアルのPART4の「割り込みレベルとDMAチャンネル」(p.172) をご覧になり、割り込みレベルが重なっていないか確認してください。割り込みレベルが重なる場合は、重ならないように設定を変更してください。

メモリ

オプションの増設RAMボードを付加することで、より多くのアプリケーションを同時に起動したり、大きなデータをより高速に扱うことができるようになります。

メモリ容量について

本機に使用できる増設RAMボードは次のとおりです。

型名	メモリ容量
PK-MM133SD128	128Mバイト
PK-MM133SD256	256Mバイト
PK-MM133SD512	512Mバイト

本機にはメモリスロットが2つあり、最大1024Mバイトまでメモリを増設することができます。

メモリの取り付け方と取り外し方

△注意

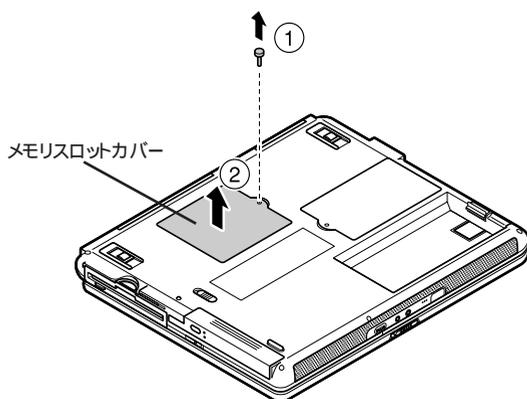


増設RAMボードの取り付け / 取り外しをするときは、本機の電源を切ったあと、電源コードとバッテリーパックを取り外してください。電源コードやバッテリーパックが取り付けられたまま増設RAMボードの取り付け / 取り外しをすると、感電の原因となります。

- ✓チェック!!**
- ・増設RAMボードは静電気に大変弱く、身体に静電気を帯びた状態で増設RAMボードを扱うと破損する原因となります。増設RAMボードに触れる前に、アルミサッシュやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
 - ・増設RAMボードのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因となります。
 - ・ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。
 - ・増設RAMボードを間違った向きで無理に取り付けようとすると、本機のコネクタ部や増設RAMボードが故障する原因となります。取り付け方向に注意してください。

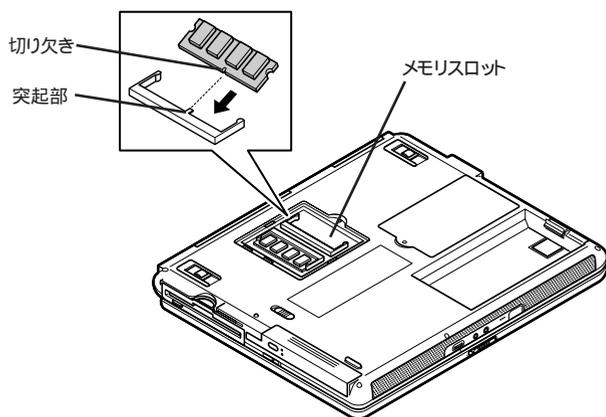
増設RAMボードの取り付け方

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜いてから、ACアダプタを本機から取り外す
- 3 液晶ディスプレイを閉じて、本機を裏返す
- 4 バッテリーパックを本機から取り外す(p.55)
- 5 図のネジをプラスドライバーで取り外し、メモリスロットカバーを取り外す



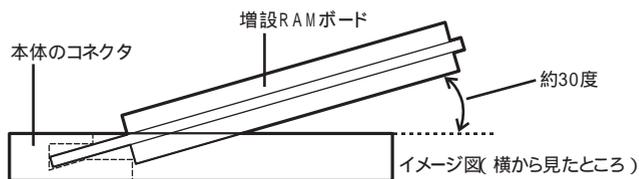
- 6 増設RAMボードの切り欠き部分を本機のコネクタの突起部に合わせ、本機コネクタに対して約30度の挿入角度で、増設RAMボードの端子が当たるまで挿入する

- ✓チェック!!**
- ・増設RAMボードの表と裏が逆の場合は、増設RAMボードの切り欠きとコネクタの突起部の位置が合わず、挿入することができませんので、よく確認してください。
 - ・増設RAMボードを手を持つ際は、増設RAMボードの両端面をつかむようにしてください。

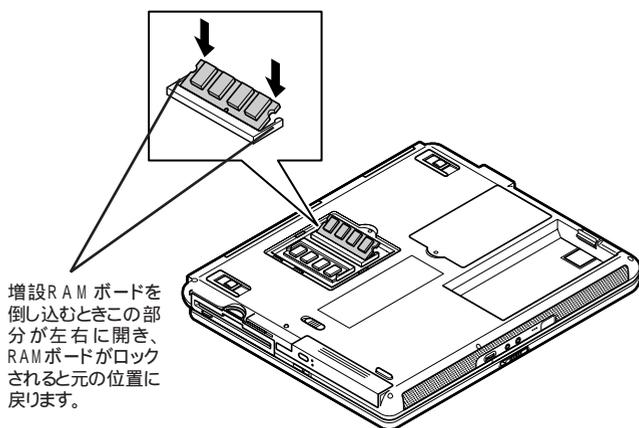


(実物はイラストと多少異なる場合があります)

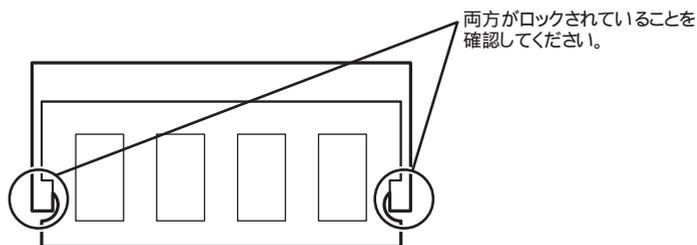
チェック!! 挿入するときに、固いことがあります。奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。



7 カチッと音がする位置まで増設RAMボードを本機のコネクタに強く倒し込む



チェック!! 増設RAMボードがコネクタにしっかりロックされたことを確認してください。



8 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本機底面に取り付ける

9 バッテリーパックとACアダプタを取り付ける

メモリ増設後は、次の「増設したメモリ(RAM)の確認」にしたがって、増設が正しく行われたかどうか確認してください。

増設したメモリ(RAM)の確認

増設が正常に行われ、メモリが本機に認識されているかどうかを確認します。

1 「スタート」ボタン「コントロールパネル」「パフォーマンスとメンテナンス」「システム」をクリックする
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

2 「全般」タブで右下に表示されている内容を確認する
「***MB RAM」と表示されています。***MBが総メモリ容量です。

チェック!! システムの状態によっては、増設したメモリ分より容量が少なく表示される場合がありますが、故障ではありません。

メモリ容量が増えていない場合は、次のことを確認してください。

- ・増設RAMボードが正しく取り付けられているか
- ・本機で使用できる増設RAMボードを取り付けているか

ハードディスクの空き容量を確認する

休止状態の機能 p.60 を使用する場合は、次の手順1～4の操作を行って設定を確認してください。増設したメモリ容量分、ハードディスクの空き容量が必要になります。

1 本機の電源を入れる

 **チェック!!** 起動直後にメッセージが表示されますが、動作上問題ありません。

2 「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」をクリックする
「電源オプションのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

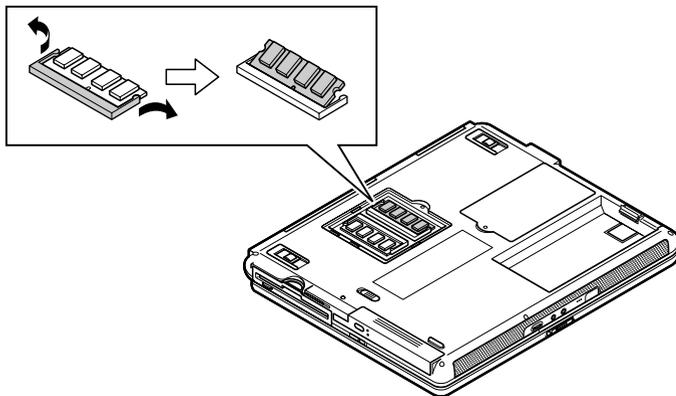
3 「休止状態」タブをクリックする

4 「休止のためのディスク領域」欄で、「ディスクの空き領域」の値が「休止状態にするために必要なディスク領域」の値よりも大きいことを確認する

 **チェック!!** 「ディスクの空き領域」の値が「休止状態にするために必要なディスク領域」の値より小さいと休止状態にできなくなります。このような場合は、不要なファイルを削除するなどしてディスクの空き領域を増やしてください。

増設RAMボードの取り外し方

- 1 「増設RAMボードの取り付け方」の手順1～5にしたがって、メモリスロットのカバーを取り外す
- 2 コネクタの両端部分を左右に押し広げる
増設RAMボードが図のように起き上がります。



- チェック!!** ・増設RAMボードの基盤は薄いため、破損しないよう十分に注意してください。
・増設RAMボード上の部品やハンダ付け面には、手を触れないよう注意してください。引き抜くときは、両端面をつかんで引き抜いてください。

- 3 そのまま増設RAMボードを斜めに引き抜く
- 4 メモリスロットのカバーを元に戻し、外したネジを本機底面に取り付ける
- 5 バッテリーパックを取り付ける



IEEE1394コネクタ

ここでは、VA12J/DG、VA11J/DF、VA10J/DF、VA86J/DF、VA86J/DXに搭載されているIEEE1394コネクタについて説明しています。

IEEE1394コネクタを使用すると、高速にデータのやりとりが行えるようになります。

IEEE1394とは

IEEE1394は、IEEE(米国電気電子技術者協会)で標準化された規格の一つで、パソコンと周辺機器のデータのやりとりを高速に行うことができるインターフェイスです。転送速度が早いので、動画などの容量の大きいデータをスムーズに転送することができます。

IEEE1394に対応している周辺機器には、デジタルビデオカメラやデジタルビデオデッキなどがあります。

IEEE1394対応機器を接続する

接続する前に

- ・このパソコンと、IEEE1394コネクタを持っている周辺機器を接続する場合は、別売のケーブルが必要です。このパソコンのIEEE1394コネクタは、4ピンのコネクタです。ケーブルを購入する際には、接続するパソコンや機器側のコネクタの形状も確認しておいてください。
- ・周辺機器によっては、IEEE1394に対応した端子のことを別の名称(DV端子など)で呼んでいる場合もあります。

IEEE1394コネクタに接続する

- 1 本機のIEEE1394コネクタに、IEEE1394ケーブルのプラグを接続する
2つあるIEEE1394コネクタのうち、どちらのIEEE1394コネクタに接続してもかまいません。プラグの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。



- ✓チェック!!** 接続するときは、プラグの向きに注意してください。間違った向きで無理に差し込もうとすると、本体側のコネクタやケーブルのプラグの故障または破損の原因となります。

- 2 ケーブルのもう一方のプラグを周辺機器に接続する
周辺機器との接続については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

パソコン間でファイルを転送する

本機のIEEE1394コネクタと別のパソコンのIEEE1394コネクタを別売のIEEE1394接続ケーブルで接続すると、パソコン間でのファイルの転送ができるようになります。

- ✓チェック!!** IEEE1394接続ケーブルは、接続先のコネクタ形状に合わせたケーブルを使用してください。

接続にはネットワークの設定が必要です。

ネットワークを設定するには、「ネットワーク セットアップ ウィザード」を使います。「スタート」ボタン 「すべてのプログラム」 「アクセサリ」 「通信」 「ネットワーク セットアップ ウィザード」をクリックして、表示された画面にしたがって設定を行ってください。

IEEE1394コネクタから機器を取り外す

IEEE1394対応機器によっては、機器を接続すると画面右下の通知の領域にが表示されます。このような機器の取り外しは、をダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで行ってください。正しく取り外しを行わないと、本機が正常に動作しなくなることがあります。「周辺機器の利用」の「周辺機器の取り外しと再接続」(p.107)をご覧ください。正しい手順で取り外しを行ってください。

VersaBay IV

本機のVersaBay IVでは、購入時に取り付けられているVersaBay IV用機器を取り外し、別売のVersaBay IV用オプション機器を取り付けて使用することができます。

VersaBay IVで使用できる機器

本機のVersaBay IVには次のような機器を取り付けて使用することができます。

- ・セカンドハードディスク(PC-VP-WU13)
- ・CD-ROMドライブ(PC-VP-BU05)
- ・CD-R/RWDドライブ(PC-VP-BU09)
- ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ(PC-VP-BU07X)

あらかじめ取り付けられている機器を取り外し、添付の拡張ベイカバー (VersaBay IV用) を取り付けることで、本体の質量を軽くすることができます。

✓チェック!! ハードディスクのパスワードによるセキュリティを有効にしたセカンドハードディスクは、本機の電源が切れている状態で交換を行ってください。スタンバイ状態または休止状態中の交換はできません。

VersaBay IVの機器を交換するための準備

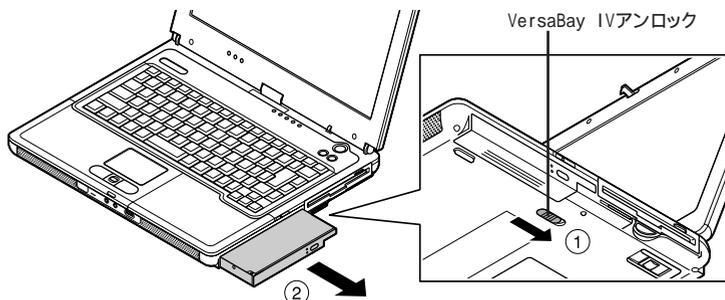
VersaBay IVに取り付けているCD-ROMドライブなどの機器を交換するときは、本機の電源が切れている状態のときだけでなく、本機の電源が入っている状態や、スタンバイ状態 (サスペンド) または休止状態 (ハイバネーション) 中に交換することもできます。

VersaBay IVの機器を交換する

電源が入っている状態で機器を交換する

電源が入っている状態で機器の交換をする場合は、次の手順にしたがって機器の交換を行ってください。

- 1 「周辺機器の利用」の「周辺機器の取り外しと再接続」(p.107) の手順1～4を行う
- 2 本体の右側面を少し持ち上げる
- 3 本体底面にあるVersaBay IVアンロックを、図のように矢印の方向にスライドさせたままの状態でも機器を引き抜く



チェック!! VersaBay IVから機器を取り外す際、液晶ディスプレイを閉じて行くと、省電力機能の設定によってはスタンバイ状態や休止状態になることがあります。この場合でも機器を交換することができます。スタンバイ状態や休止状態での機器の交換については、「スタンバイ状態 / 休止状態 / 電源が切れている状態で機器を交換する」(p.133)をご覧ください。

- 4 取り付ける機器をカチッと音がするまで差し込む
機器を交換した後は、持ち上げていた本体を静かに下ろしてください。

チェック!! VersaBay IVに機器を取り付ける場合は、本体の右側面を高く持ち上げたりせずに、水平に近い状態にして機器を押し込んでください。本体の右側面を上にして、立てた状態で機器を落として取り付けたりすると、本体や機器の故障の原因となる場合があります。

スタンバイ状態 / 休止状態 / 電源が切れている状態で機器を交換する

スタンバイ状態や休止状態、または電源が切れている状態で機器の交換をする場合は、Windowsでの設定は必要ありません。

「電源が入っている状態で機器を交換する」(p.132)の手順2～4にしたがって機器を交換してください。

スタンバイ状態または休止状態から復帰後、「新しいデバイスが見つかりました」というメッセージが表示される場合があります。その場合は、右上の をクリックしてください。デバイスはそのまま使用できます。

スタンバイ状態や休止状態、または電源が切れている状態でVersaBay IVから機器を取り外す場合は、液晶ディスプレイを閉じて本体を裏返した状態で取り外すこともできます。



MultiBay

本機のMultiBayでは、購入時に取り付けられているMultiBay用機器を取り外して、別売のMultiBay用オプション機器を取り付けて使用することができます。

MultiBayで使用できる機器

本機のMultiBayには次のような機器を取り付けて使用することができます。

- ・セカンドバッテリーパック(PC-VP-WP33)
- ・フロッピーディスクドライブ(標準添付)

あらかじめ取り付けられている機器を取り外し、添付の拡張ベイカバー (MultiBay用) を取り付けることで、本体の質量を軽くすることができます。

✓チェック!! MultiBayからフロッピーディスクドライブを取り外している場合でも「マイコンピュータ」や「ハードウェアの安全な取り外し」に「3.5インチFD」または「標準フロッピーディスクコントローラ」が表示される場合があります。

MultiBayの機器を交換するための準備

MultiBayに取り付けているフロッピーディスクドライブなどの機器を交換する場合は、本機の電源が切れている状態のときだけでなく、本機の電源が入っている状態や、スタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)中に交換することもできます。

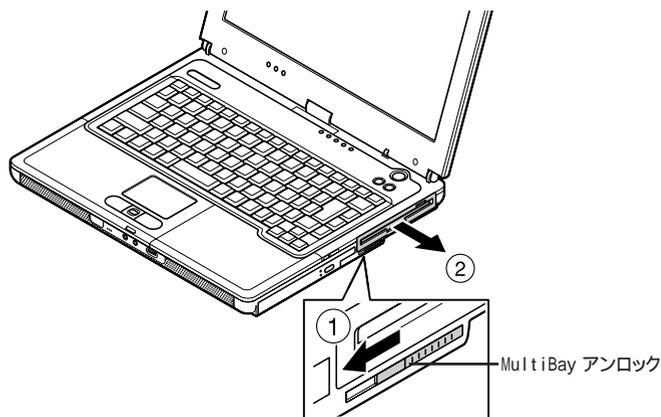
MultiBayの機器を交換する

電源が入っている状態で機器を交換する

電源が入っている状態で機器の交換をする場合は、次の手順にしたがって機器の交換を行ってください。

- 1 「周辺機器の利用」の「周辺機器の取り外しと再接続」(p.107) の手順1～4を行う

2 MultiBay アンロックを本体手前側にスライドさせたままの状態 で機器を引き抜く



3 取り付ける機器を奥までしっかり差し込む

チェック!! MultiBayに機器を取り付ける場合は、本体の右側面を高く持ち上げたりせずに、水平に近い状態にして機器を押し込んでください。本体の右側面を上にして、立てた状態で機器を落として取り付けたりすると、本体や機器の故障の原因となる場合があります。

スタンバイ状態 / 休止状態 / 電源が切れている状態で機器を交換する

スタンバイ状態や休止状態、または電源が切れている状態で機器の交換をする場合は、Windowsでの設定は必要ありません。

「電源が入っている状態で機器を交換する」(p.134)の手順2～3にしたがって機器を交換してください。



USBコネクタ

USB対応の機器は、一般の周辺機器と異なり、パソコンの電源を入れた状態のまま、接続したり取り外すことができます。

USBとは

本機にはUSB対応機器を取り付けるためのコネクタが2つあります。USBとはUniversal Serial Busの頭文字をとったもので、コネクタの形状が統一されており、127台までの機器を接続することができます。また、電源を切らずにプラグの抜き差しが可能で、プラグ&プレイ機能にも対応しています。現在利用できる主なUSB対応機器として、次のようなものがあります。

- ・ マウス
- ・ キーボード
- ・ プリンタ
- ・ テンキーボード
- ・ イメージスキャナ
- ・ 携帯電話 / PHS接続ケーブル
- ・ デジタルカメラ
- ・ ISDNターミナルアダプタ など

USB対応機器の、本機での動作確認情報については、各機器に添付のマニュアルをご覧ください。

なお、NEC製のUSB機器の情報は、NECのホームページ 121ware.com (ワンツワンウェア ドット コム)をご覧ください。

<http://121ware.com/>

USBコネクタに接続する

接続する前に

機器によっては、接続する前や接続したあとにドライバのインストールや、各種設定スイッチなどの設定が必要な場合がありますので、接続するUSB対応機器のマニュアルを読んでおき、ドライバなどインストールに必要なCD-ROMやフロッピーディスクが添付されていれば用意してください。

接続してすぐ使うことができるUSB対応機器がありますが、いくつかの性能が制限される可能性がありますので、必ず添付のマニュアルをよく読んでください。

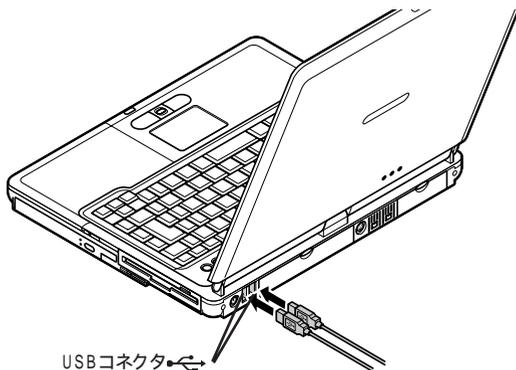
USB対応機器は、パソコンの電源を入れたままの状態でも接続できますので、接続前に電源を切る必要はありません。

接続するときの注意

- ・ USB対応機器の抜き差しを行う場合は、3秒以上の間隔をおいて行ってください。
- ・ USBコネクタにプラグをすばやく差したり斜めに差したりすると、信号が読みとれずに不明なデバイスとして認識されることがありますので、その場合はプラグをUSBコネクタから抜いて、もう一度正しく接続しなおしてください。
- ・ はじめてUSB対応機器を接続したときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、再度差し込んでみてください。
なお、USB対応機器は、一度設定をすれば、次回からはプラグを差し込むだけで、すぐに機器が使用可能になります。この場合、画面には何も表示されませんが、故障ではありません。
- ・ スタンバイ状態中、スタンバイ状態へ移行中、スタンバイ状態から復帰中、休止状態中、休止状態へ移行中、休止状態から復帰中の場合は、USB対応機器を抜き差ししないでください。
- ・ USB対応機器を接続した状態では、スタンバイ状態に移行できない場合があります。スタンバイ状態に移行する前にUSB対応機器を取り外してください。
- ・ USBマウス使用時にNXパッドを無効にしたい場合は、BIOSセットアップメニューの「詳細(Advanced)」メニューで「NXパッド&PS/2マウス(PS/2 Mouse)」の設定を「使用しない(Disabled)」にしてください(p.147)。
- ・ 外付けUSBハブ経由でUSB対応機器を使用する場合は、USBハブを本機に接続してからUSB対応機器を接続してください。USBハブにUSB対応機器を接続した状態でUSBハブを本機に接続すると、USB対応機器が正常に認識されないことがあります。

USBコネクタに機器を取り付ける

- 1 本機のUSBコネクタにプラグを接続する
2つあるUSBコネクタのうち、どちらのUSBコネクタに接続してもかまいません。プラグの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。



接続したUSB対応機器が正しくパソコンに認識されたかどうかを確認してください。確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、接続後さらに別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB対応機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

USBコネクタから機器を取り外す

USB対応機器によっては、機器を接続すると画面右下の通知領域にが表示されます。このような機器の取り外しは、をダブルクリックして表示される「ハードウェアの安全な取り外し」ウィンドウで行ってください。正しく取り外しを行わないと、本機が正常に動作しなくなることがあります。「周辺機器の利用」の「周辺機器の取り外しと再接続」(p.107)をご覧ください。正しい手順で取り外しを行ってください。

別売の外付けUSBキーボードの接続

別売の外付けUSBキーボードは、USBコネクタに取り付けます。別売の外付けUSBキーボードには、USBコネクタが用意されており、別売のUSB機器を取り付けることができます。

その他の機器

本機で使用できるその他の機器

本機では、次のような別売の機器を使用することができます。

種類	機器
オーディオ機器	ヘッドホン、マイクロホン、オーディオ装置など
入力装置	マウス、外付けキーボード、テンキーボード、デジタルカメラ、イメージスキャナなど
通信機器	携帯電話、PHS、外付けモデム、ターミナルアダプタなど

本機のどのコネクタに機器を接続するかは、機器が使用しているインターフェイスによって異なります。また、機器によってインターフェイスが決まっている訳ではありません。詳しくは、各機器のマニュアルをご覧ください。

チェック!! 本機がスタンバイ状態(サスペンド)または休止状態(ハイバネーション)の場合は、周辺機器を接続したり、接続していた機器を取り外したりしないでください。本機の機器構成が変更されると、データが消えてしまうことがあります。

別売のキーボードやテンキーボードを使うには

本機には、別売のテンキーボードやキーボードを接続することができます。PS/2タイプのテンキーボードはマウス/テンキーボード用コネクタ( / 白) に接続します(p.140)。USB対応のキーボードはUSBコネクタ() に接続します(p.136)。

シリアルコネクタ

シリアル対応機器を接続するためのコネクタです。一般的なコンピュータ用語ではこれをシリアルポートと呼び、WindowsではCOM1やCOM2の名称で呼んでいます。

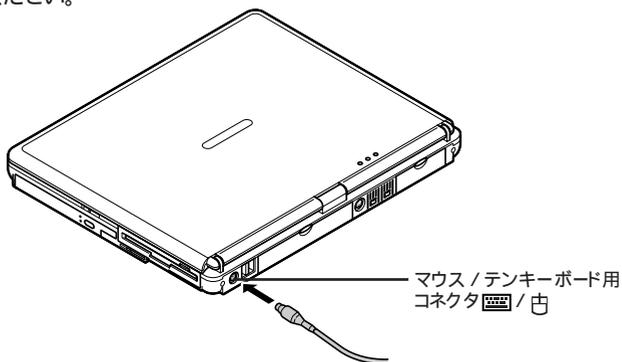
パラレルコネクタ

別売のプリンタを取り付けるためのコネクタです。パラレル対応機器であればプリンタ以外の機器も接続することができます。なお、WindowsではプリンタポートまたはLPT1と呼んでいます。

マウス / テンキーボード用コネクタ

添付または別売のマウスやテンキーボードなどのPS/2タイプのオプションを取り付けるためのコネクタです。

✓チェック!! マウスやテンキーボードを接続する場合は、必ず、本機の電源を切ってから接続してください。



マウスとテンキーボードの両方を同時に接続したい場合は、別売のYケーブル、またはマウスに添付されているYアダプタを使ってください。

システムの設定

セキュリティや省電力など、本機の使用環境の設定について説明します。設定方法をまちがえると正しく動作しなくなってしまうので、十分注意してください。

また、必要がある場合以外は設定値を変更しないでください。

BIOSセットアップメニュー

BIOSセットアップメニューは、本機の使用環境を設定するためのものです。

BIOSセットアップメニューを使ってできること

次のような設定ができます。

- ・ 現在の日付と時間の設定
- ・ BIOSセットアップメニューで使用する言語の選択
- ・ ハードウェア環境の確認と変更
- ・ セキュリティの設定
- ・ 起動デバイスの起動順位の設定

BIOSセットアップメニューを日本語表示にするには

- 1 電源を入れて、「NEC」のロゴが表示されたらすぐ、1秒おきに【F2】を数回押す
次のような画面が表示されます。

チェック!! BIOSセットアップメニューが表示されない場合は、いったん電源を入れなおし、【F2】を押す間隔を変えてください。

PhoenixBIOS Setup Utility					
Main	Advanced	Security	Power	Boot	Exit
System Time:		[hh:mm:ss]			Item Specific Help
System Date:		[mm/dd/yyyy]			<Tab>,<Shift-Tab>,or <Enter> selects field.
Language:		[English (US)]			
Diskette A:		[1.44/1.25 MB 3½"]			
▶ Internal HDD		[XXXXMB]			
VersaBay		CD/DVD			
System Memory		XXXXKB			
Extended Memory		XXXXXXKB			
CPU Type		XXX			
CPU Speed		XXXXXX MHz			
BIOS Version		XXXXXXXX			
F1 Help	↑ ↓ Select Item	F5/F6 Change Values		F9 Setup Defaults	
Esc Exit	← → Select Menu	Enter Select ▶ Sub-Menu		F10 Save and Exit	

2 【 】または【 】を押して「Language: 」を選び、【Enter】を押す

3 【 】または【 】を押して「日本語 (JP)」を選び、【Enter】を押す

4 【F10】を押す
確認の画面が表示されます

5 「はい」になっていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。
以降、BIOSセットアップメニューが日本語で表示されるようになります。

BIOSセットアップメニューを使う

BIOSセットアップメニューの起動とメイン画面

1 電源を入れて、「NEC」のロゴが表示されたらすぐ、1秒おきに【F2】を数回押す
次のようなメイン画面が表示されます。
画面上では「PhoenixBIOSセットアップユーティリティ」と表示されます。

 **チェック!!** BIOSセットアップメニューが表示されない場合は、いったん電源を入れなおし、【F2】を押す間隔を変えてください。

PhoenixBIOSセットアップユーティリティ					
メイン	詳細	セキュリティ	省電力管理	起動	終了
	システム時刻: システム日付: 言語:	[hh:mm:ss] [yyyy/mm/dd] [日本語(JP)]			項目ヘルプ
	フロッピーディスクA: ▶内蔵HDD NXノートベイ	[1.44/1.25MB 3.5"] [XXXXMB] CD/DVD			<Tab>キー、<Shift+Tab>キー、<Enter>キーは、項目を選択します。
	システムメモリ 拡張メモリ CPUタイプ CPU速度 BIOSバージョン	XXXXKB XXXXXXKB XXX XXXXXX MHz XXXXXXXX			
F1	ヘルプ	↑ ↓ 項目の選択	F5/F6	値の変更	F9
Esc	終了	← → メニューの選択	Enter	▶ サブメニューの選択	F10
					デフォルトの設定 保存して終了

BIOSセットアップメニューの基本操作

- ・操作はキーボードで行います。
- ・【 **X** 】でメニューを選び、【 **X** 】で設定項目を選びます。
- ・設定内容の値は【F5 **X** F6】で変更します。

BIOSセットアップメニューを終了する

変更を保存して終了する

1 【F10】を押す

セットアップ確認の画面が表示されます。
終了を中止したい場合は【Esc】を押してください。

2 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップメニューが終了します。

メニューバーの「終了」で「変更を保存して終了する」を選んでBIOSセットアップメニューを終了することもできます。

変更を保存せずに終了したい場合などは、次の「メニューバーから終了する」で終了してください。

メニューバーから終了する

【 **X** 】でメニューバーの「終了」を選ぶと、以下のメニューが表示されます。

変更を保存して終了する

変更内容を保存してBIOSセットアップメニューを終了します。

変更を保存せずに終了する

設定値を保存せずにBIOSセットアップメニューを終了します。設定の変更を行った場合も、すべて無効にして終了します。

デフォルト値をロードする

すべての設定項目にデフォルト値を書き込みます。これによりBIOSセットアップメニューの設定値は購入時の状態に戻ります。

変更を取り消す

すべての設定項目に対して変更前の値を読み込みます。BIOSセットアップメニューは終了しません。

変更を保存する

変更値を保存します。BIOSセットアップメニューは終了しません。

バッテリーリフレッシュ

バッテリーリフレッシュはバッテリーの機能を回復させるための機能です。バッテリーリフレッシュの詳しい手順については、PART1「バッテリー」の「バッテリーリフレッシュ」(p.51)をご覧ください。

購入時の値に戻す

- 1** キーボードの【F9】を押す
セットアップ確認の画面が表示されます。
- 2** 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す
デフォルト値を読み込みます。
- 3** キーボードの【F10】を押す
セットアップ確認の画面が表示されます。
- 4** 「はい」が選ばれていることを確認して【Enter】を押す
設定の変更を保存して終了します。

メニューバーの「終了」で「デフォルト値をロードする」を選んで購入時の値に戻すこともできます。

設定項目一覧

BIOSセットアップメニューでどのような設定ができるかを説明しています。
表中の は、購入時の設定です。

「メイン」メニューの設定

 **チェック!!** 「内蔵HDD / NX ノートベイ」の設定を変更すると、内蔵ハードディスクが動作しなくなる場合がありますので、通常は初期設定のまま使用してください。

設定項目	設定値	説明
システム時刻	-	現在の時刻を「時:分:秒」(24時間形式)で設定します。
システム日付	-	日付を「年/月/日」(西暦)で設定します。「言語」を「英語」に設定している場合は、「月/日/年」で入力します。
言語	English(US) 日本語(JP)	BIOSセットアップメニューで使用する言語を設定します。標準では「English(US)」に設定されています。
フロッピーディスクA	1.44/1.25 MB 3.5" 使用しない	フロッピーディスクドライブのモードを選びます。「1.44/1.25 MB 3.5"」の場合、フロッピーディスクドライブが使用できます。「使用しない」の場合、フロッピーディスクドライブは使用できません。
内蔵HDD / NX ノートベイ	-	現在接続されているIDEデバイスが表示されます。この項目にカーソルを合わせ【Enter】を押すと設定画面が表示されます。【Esc】を押すとメイン画面に戻ります。
タイプ	自動 ユーザ CD / DVD なし	BIOSが自動的にシリンダ、ヘッド、セクタを設定します。設定は変更しないでください。
32ビットI/O	使用しない 使用する	32ビットIDEデータ転送を使用するかどうかを設定します。
システムメモリ	-	搭載されているシステムメモリ容量を表示します。
拡張メモリ	-	搭載されている拡張メモリを表示します。
CPUタイプ	-	CPUタイプを表示します。
CPU速度	-	CPU速度を表示します。
BIOSバージョン	-	BIOSのバージョンを表示します。

「詳細」メニューの設定

設定項目	設定値	説明
起動時のNum-Lock	オン オフ	起動時にNum Lockをオンにするかを設定します。
NXパッド&PS/2マウス	自動 両方 使用しない	「自動」に設定すると、PS/2マウスを接続したときにNXパッドが無効になり、自動的にPS/2マウスのみを使用できるように切り替えます。「両方」に設定すると、NXパッドとPS/2マウス(ホイール付きPS/2マウスを除く)を同時に使用できます(ホイール付きPS/2マウスとNXパッドは同時に使用できません)。USBマウスを使用するときにNXパッドを無効にしたい場合は、「使用しない」に設定します。
LCDパネルの拡張表示	オフ オン	LCDパネルの拡大表示を行うかどうかを設定します。「オン」に設定すると、LCDパネルの最大表示サイズ以下の表示画面では拡大されて表示されます。
セットアップ移行画面表示	非表示 ¹ 表示	「表示」に設定すると、セットアップの移行画面に関するメッセージが表示されます。
ハイパーション警告表示	表示 非表示	「表示」に設定すると、ハイパーションの警告に関するメッセージが表示されます。本機では「非表示」で使用してください。
セットアップ情報画面	使用しない 使用する	起動時にシステム設定状況を表示します。
サイレントブート	自己診断画面 ロゴ画面 非表示 ¹	ブート時の画面を設定します。
ワイヤレスデバイス ²	使用する 使用しない	ワイヤレスデバイスを使用するかを設定します。

1: BIOSセットアップメニューを起動する場合は、電源を入れた後、1秒おきに【F2】を押すことを何度かくりかえしてください。

2: Bluetooth™モデルまたはワイヤレスLAN(無線LAN)モデルのみ表示されます。

設定項目	設定値	説明
周辺機器設定	-	各周辺機器の設定を行います。この項目にカーソルを合わせて【Enter】を押すと設定を行うことができます。
シリアルポートA	使用しない 使用する 自動	「自動」に設定すると、BIOSが自動的にシリアルポートの設定を行います。「使用する」に設定すると、ユーザがシリアルポートのI/Oベースアドレスを設定できます。「使用しない」に設定すると、シリアルポートは使用できません。
I/Oベースアドレス	3F8 2F8 3E8 2E8	「シリアルポートA」を「使用する」に設定すると表示されます。シリアルポートにI/Oベースアドレスを設定します。
赤外線ポート	使用しない 使用する 自動	「使用しない」に設定すると、赤外線ポートは使用できません。「使用する」に設定すると、ユーザが赤外線ポートのモードやI/Oベースアドレスを設定できます。「自動」に設定すると、BIOSが自動的に赤外線ポートの設定を行います。
モード	FIR IrDA	「赤外線ポート」を「使用する」または「自動」に設定すると表示されます。赤外線ポートのモードを設定します。
I/Oベースアドレス	3F8 2F8 3E8 2E8	「赤外線ポート」を「使用する」に設定すると表示されます。赤外線ポートにI/Oベースアドレスを設定します。
パラレルポート	使用しない 使用する 自動	「自動」に設定すると、BIOSが自動的にパラレルポートの設定を行います。「使用する」に設定すると、ユーザがパラレルポートのモードやI/Oベースアドレスを設定できます。「使用しない」に設定すると、パラレルポートは使用できません。
モード	双方向 EPP ECP	「パラレルポート」を「使用する」または「自動」に設定すると表示されます。パラレルポートのモードを設定します。
I/Oベースアドレス	378 3BC 278	「パラレルポート」を「使用する」に設定すると表示されます。パラレルポートにI/Oベースアドレスを設定します。
フロッピーコントローラ	使用しない 使用する	設定は変更しないで「使用する」のまま使用してください。

「セキュリティ」メニューの設定

スーパーバイザパスワード設定

スーパーバイザパスワードの設定または変更を行います。

【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。

参照 ▶ パスワードの設定 PART1の「セキュリティ機能」(p.65)

ユーザパスワード設定

ユーザパスワードの設定または変更を行います。

スーパーバイザパスワードを設定していないとユーザパスワードは設定できません。

【Enter】を押すとパスワード設定の画面が表示されるので設定を行ってください。

参照 ▶ パスワードの設定 PART1の「セキュリティ機能」(p.65)

設定項目	設定値	説明
セキュリティモード	パスワード 指紋 ¹	設定するセキュリティのモードを選びます。設定値のいずれかを選ぶと、それぞれのセキュリティ機能を設定できるようになります。
起動時のパスワード	使用しない 使用する	システム起動時にパスワード入力を行うかどうかを設定します。
ハードディスク起動セクタ	通常動作 書き込み禁止	ウイルス感染防止のため、ハードディスク起動セクタを書き込み禁止にするかどうかを設定します。
ディスクアクセス ²	スーパーバイザ ユーザ	「スーパーバイザ」に設定すると、ユーザパスワードで起動した状態ではディスクドライブに対してアクセスできなくなります。

1: 内蔵指紋センサモデルのみ選択可能。

2: スーパーバイザパスワードを設定していないと「ディスクアクセス」は設定できません。

指紋

「指紋」の各設定は、セキュリティモードで「指紋」を選ぶと設定できるようになります。PART1の「セキュリティ機能」の「指紋認証機能」(p.72)をご覧ください。

ハードディスクのパスワードの設定

【Enter】を押すと、ハードディスクのパスワードの設定画面が表示されます。

設定項目	設定値	説明
内蔵HDDパスワードの設定	使用する 使用しない	ハードディスクのセキュリティを有効にするかを設定します。
NX ノートベイHDDの設定	使用する 使用しない	セカンドハードディスクを取り付けた場合のみ表示されます。 セカンドハードディスクのセキュリティを有効にするかを設定します。

- チェック!!**
- ・ハードディスクのパスワードが設定されていないと「内蔵HDDパスワードの設定」の設定を変更することはできません。
 - ・ハードディスクのパスワードを忘れてしまった場合、お客様ご自身で作成されたデータが消えてしまい、ハードディスクを有償で交換することになります。ハードディスクのパスワードは忘れないよう十分に注意してください。

参照 ▶ ハードディスクのパスワードの設定方法について PART1の「セキュリティ機能」の「ハードディスクのパスワード」(p.68)

「省電力管理」メニューの設定

- チェック!!**
- 本機では「省電力管理」の設定は「Intel(R)SpeedStep(TM)テクノロジー」、「スリープ時警告音」、「リモート電源制御」の設定以外すべて無効になります。省電力の設定は「スタート」ボタン 「コントロールパネル」 「パフォーマンスとメンテナンス」 「電源オプション」で行ってください(p.61)

設定項目	設定値	説明
電源スイッチ	パワーオフ スリープ	電源スイッチの機能を設定します。「パワーオフ」に設定すると、電源スイッチで電源のオン/オフを行います。「スリープ」に設定すると、電源スイッチでスリープ状態に移行できます。
AC 接続時の省電力	使用しない 使用する	AC 接続時に、現在の省電力設定を有効にするかを設定します。
省電力	使用しない 最大パフォーマンス 最大省電力 カスタマイズ	「使用しない」に設定すると、BIOS による省電力設定はすべて無効になります。「最大パフォーマンス」では、本機の性能を優先した設定になり、「最大省電力」では、本機の動作時間を優先した設定になります。この設定を「カスタマイズ」に設定すると、「自動サスペンドタイムアウト」を任意に変更できます。
自動サスペンドタイムアウト	オフ/5分/10分/15分/ 20分/30分/40分/60分/	設定した時間を経過してもコンピュータに対するアクセスがなかった場合、コンピュータをスタンバイモードに移行します。
スリープモード	サスペンド ハイバネーション	スリープモードのタイプを変更します。
自動ハイバネーション	オフ 1時間後	「1時間後」に設定すると、サスペンド状態に移行してから1時間経過すると、自動的にハイバネーション状態に移行します。
スリープ時警告音	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、スリープモード移行時に警告音を鳴らします。
Intel(R) SpeedStep(TM) テクノロジー	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、AC 駆動の場合は自動的に最高性能で動作します。バッテリー駆動の場合はバッテリー残量に応じて最適な性能で動作します。「使用しない」に設定すると、Intel® SpeedStep™テクノロジーが使用できなくなります。
LCD 連動スリープ	使用する 使用しない	「使用する」に設定すると、ディスプレイを閉じたときに「スリープモード」で設定した省電力状態に移行します。
リモート電源制御	使用しない AC 時のみ AC/電池駆動	リモート電源制御を行うかどうかを設定します。「AC 時のみ」に設定すると、AC 電源接続状態でのみ LAN によって復帰または起動します。「AC/電池駆動」に設定すると、バッテリーのみで駆動している状態のときも LAN によって復帰します。

:VA80H/DF、VA80H/DXでは本設定は表示されません。

設定項目	設定値	説明
モデムリングでのレジューム	オン オフ	「オン」に設定すると、モデムが呼び出し信号を受信したときに、本機をサスペンド状態から復帰します。
レジューム時刻	オン オフ	「オン」に設定すると、設定した時間に本機をサスペンド状態から復帰することができます。
レジューム時刻	-	本機を復帰する時刻を設定します。

起動の設定

「起動」メニューでは、起動するデバイスを優先順にしたがってリスト表示します。

本機を起動するときには、上から順にOSを検索します。もしOSが存在しないなど起動に失敗した場合は次のデバイスから起動します。

Networkブート

「Networkブート」を「使用する」に設定すると、ネットワークから本機を起動することができるようになります。購入時は「使用しない」に設定されています。

起動デバイスの表示と順位の変更

デバイス名の左に + の表示があるデバイスにカーソルを合わせて【Enter】を押すと展開表示されます。

起動するデバイスを変更するには【**X**】を使用して変更したいデバイスにカーソルを合わせます。⌘のキーと【Shift】を同時に押すとリストの上側に移動し、⇧を押すとリストの下側に移動します。

なお、ニューメリックロックキーランプ (⌵) が点灯しているときには前面に【+ X -】の刻印のあるキーでもリストの上下にカーソルを移動させることができます。

P A R T

4

付録

ここでは、本機の機能に関連した補足情報を記載してあります。

本機のお手入れ

ここでは、パソコンのお手入れの方法を説明しています。

お手入れをはじめる前に

⚠注意



感電注意

お手入れの前には、必ず本機や本機の周辺機器の電源を切り、電源コードをACコンセントから抜いてください。

電源を切らずにお手入れをはじめると、感電することがあります。

準備するもの

汚れが軽いとき

やわらかい素材の乾いたきれいな布

汚れがひどいとき

水かぬるま湯を含ませ堅くしぼったきれいな布

0A機器用クリーニングキットも汚れを拭き取るのに便利です。

0A機器用クリーニングキットについてはご購入元、NECフィールドイングの各支店、営業所などに問い合わせてください。

参照 ▶ NECのお問い合わせ先 『NEC PCあんしんサポートガイド』

お手入れをする

パソコンのお手入れをするときは、次のことに注意してください。

- ✔ **チェック!!** ・水やぬるま湯は、絶対に本機に直接かけないでください。本機の傷みや故障の原因になります。
- ・シンナーやベンジンなどの揮発性の有機溶剤や化学ぞうきんなどは使わないでください。本機の傷みや故障の原因になります。

液晶ディスプレイ

やわらかい素材の乾いたきれいな布で拭いてください。水やぬるま湯、揮発性の有機溶剤、化学ぞうきんは使わないでください。

本体 / NXパッド / キーボード

やわらかい素材の乾いたきれいな布で拭いてください。汚れがひどいときは、水かぬるま湯を布に含ませ、堅くしぼったきれいな布で拭いてください。キーボードのキーのすきまにゴミが入った場合は、専用のクリーナーなどでゴミを取ってください。ゴミが取れない場合は、ご購入元、NECフィールディングの各支店、営業所に問い合わせてください。

参照 ▶ NECのお問い合わせ先 『NEC PCあんしんサポートガイド』

フロッピーディスクドライブ

クリーニングディスク(別売)を使ってフロッピーディスクドライブをクリーニングします。ひと月に一回を目安にクリーニングしてください。

電源コード

電源コードのプラグを長時間にわたってACコンセントに接続したままにしていると、プラグにほこりがたまることがあります。定期的にはこりを拭き取るようにしてください。

機能一覧

仕様一覧

の項目の仕様は、お使いのモデルによって異なります。

機種名	VA12J/DG	
CPU	モバイル インテル® Pentium® プロセッサ1.20GHz-M (拡張版インテル®SpeedStep™ テクノロジー搭載)	
内蔵キャッシュメモリ	32Kバイト	
セカンドキャッシュメモリ	512Kバイト(CPU内蔵)	
メモ リ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)
	メインRAM	128Mバイト / 192Mバイト / 256Mバイト / 512Mバイト / 1Gバイト (システムバス133MHz対応)
		最大
	ビデオRAM	16Mバイト
表示 機能	表示素子 ¹	バックライト付15型TFTカラー液晶ディスプレイ(SXGA+)
	グラフィック アクセラレータ	ATI社製MOBILITY™ RADEON™ - D 標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応) 800×600ドット(65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(65536色 / 1677万色) 1400×1050ドット(65536色 / 1677万色) 1600×1200ドット(65536色 / 1677万色) ²
	別売のCRTディス プレイ接続時	800×600ドット(65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(65536色 / 1677万色) 1600×1200ドット(65536色 / 1677万色)
	サウンドチップ	ADI社製 AD1886搭載
サウ ンド 機能	PCM録音・再生 機能	内蔵(ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/ 16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz)全二重化対応
	MIDI音源機能	内蔵(拡張WAVE Table音源 WAVE Table音源最大64音)
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ・マイクロホン内蔵
	サラウンド	3Dポジショナルサウンド

機種名	VA12J/DG	
通信機能	LAN	ワイヤレスLANインターフェイス内蔵 / LAN内蔵 (100BASE-TX / 10BASE-T) / なし
	モデム	なし / モデム内蔵 データ転送速度 最大56kbps(V.90 エラー訂正V.42/MNP4 データ圧縮V.42bis/MNP5)
	携帯電話 / PHS 接続ケーブル	なし / ケーブル添付 携帯電話:9.6Kbpsデータ通信 / 9.6Kbps・28.8Kbpsパケット通信(DoPa) cdmaOne:14.4Kbpsデータ通信 / 64Kbpsパケット通信(PacketOne) PHS(NTTドコモ / アステル):32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.0) PHS(DDIポケット):32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.1)
	FAX	なし / 内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17 FAX制御クラス1))
	Bluetooth™機能	なし / Bluetooth™1.1準拠
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな)、Fnキー(ホットキー対応) 12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備(スクロールスライドスイッチ付)
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ×1内蔵(720K/1.2M ³ /1.44Mバイトタイプの3モードに対応)
	固定ディスクドライブ ⁴	内蔵(約15Gバイト / 約20Gバイト / 約30Gバイト)
	セカンドハードディスク ⁴	約15Gバイト / 約20Gバイト / 約30Gバイト
	CD-ROMドライブ・CD-R/RWドライブ ⁵ ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブ ⁵	なし / あり ・CD-ROMドライブの場合: CAV方式、CD-DA(オーディオCD)、CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE2(FORM1/2)、マルチセッション対応 最大24倍速(平均17倍速)、データ転送速度はCD-ROMの最内周で10.3倍速、最外周で24倍速 ・CD-R/RWドライブの場合: 読み込み最大24倍速(CD-RWは最大14倍速)、書き込み最大8倍速、書き換え最大8倍速(High Speed CD-RW媒体使用時) / 4倍速(従来のCD-RW媒体使用時) ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブの場合: 読み込み最大24倍速(CD-ROM) / 8倍速(DVD-ROM)、書き込み最大8倍速、書き換え最大4倍速
	インターフェイス	マウス / テンキーボード(PS/2タイプミニDIN6ピン)、パラレルD-SUB25ピン)、シリアルD-SUB9ピン、最高115.2Kbps対応)、ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、赤外線通信(IrDA規格準拠、データ転送速度4Mbps) IEEE1394(4ピン)×2、USB×2、ビデオ出力(S-Video×1)
	サウンド関連	ヘッドホン出力 / ライン出力共用(ステレオ、ミニジャック) マイク入力(モノラル、ミニジャック) マイク入力インピーダンス2.2k 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms
PCカードスロット	TYPE ×2スロット(TYPE ×1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠、CardBus対応	
パワーマネージメント	自動または任意設定可能	
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(別売のセキュリティケーブルを使用)、I/Oロック機能、ハードディスクのパスワード機能	
	暗証番号ボタン	なし / あり
	指紋認証機能	なし / あり

機種名	VA12J/DG
バッテリー駆動時間 (JEITA準拠 ¹⁰) ⁶	ニッケル水素バッテリーの場合:約1.0~2.0時間(約1.7時間) リチウムイオンバッテリーの場合:約2.5~3.5時間(約3.0時間) セカンドバッテリーパックの場合:約1.8~3.0時間(約2.4時間)
バッテリー充電時間 ⁶	ニッケル水素バッテリーの場合:約2.5時間 リチウムイオンバッテリーの場合:約3.0時間 セカンドバッテリーパックの場合:約2.8時間
バッテリーによるスタンバイ状態保持時間 ⁶	約3日(バッテリーフル充電時)
電源	ニッケル水素バッテリー(DC9.6V、3,800mAh) ⁷ 、リチウムイオンバッテリー(DC14.4V、3,800mAh) ⁷ 、セカンドバッテリーパック(DC14.4V、3,100mAh) ⁷ またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由) ⁸
消費電力	約26W(内蔵オプション最大接続時 約60W)
温湿度条件	5~35、20~80% (ただし、結露しないこと)
外形寸法	327(W)×269.5(D)×40.0~41.5(H)mm
質量 ⁶	約3.5kg

- 1: 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのむらや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
- 2: バーチャルスクリーンで表示。
- 3: 3モード対応フロッピーディスクドライブのセットアップが必要です。
- 4: ディスク容量は、1GBを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。
- 5: Orange Book PartⅡ(CD-R)およびPartⅢ(CD-RW)に準拠。
- 6: 時間や質量は、本機のご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
- 7: バッテリーパックは消耗品です。
- 8: ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。日本以外の国で使用する場合は、別途電源コードが必要です。
- 9: 18~25、45~75%での使用を推奨。
- 10: JEITAバッテリー動作時間測定法 Ver.1.0に基づいて測定したバッテリー駆動時間です。

機種名	VA11J/DF	VA10J/DF	
CPU	モバイル インテル® Pentium® プロセッサ1.13GHz-M (拡張版インテル®SpeedStep™ テクノロジー搭載)	モバイル インテル® Pentium® プロセッサ1.0GHz-M (拡張版インテル®SpeedStep™ テクノロジー搭載)	
内蔵キャッシュメモリ	32Kバイト		
セカンドキャッシュメモリ	512Kバイト(CPU内蔵)		
メモ リ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)	
	メインRAM	128Mバイト / 192Mバイト / 256Mバイト / 512Mバイト / 1Gバイト (システムバス133MHz対応)	
		最大	1.0Gバイト(別売の増設RAMボード(512Mバイト 迄2枚取り付けた場合)
	ビデオRAM	16Mバイト	8Mバイト
表示 機能	表示素子 ¹	バックライト付15型TFTカラー液晶ディスプレイ(XGA)	
	グラフィック アクセラレータ	ATI社製MOBILITY™ RADEON™ - D 標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応)	ATI社製MOBILITY™ RADEON™ - M 標準搭載(ビデオアクセラレーション機能対応)
	別売のCRTディス プレイ接続時	800×600ドット(65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(65536色 / 1677万色) ² 1600×1200ドット(65536色 / 1677万色) ²	
サウ ンド 機能	サウンドチップ	ADI社製 AD1886搭載	
	PCM録音・再生 機能	内蔵 ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/ 16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz) 全二重化対応	
	MIDI音源機能	内蔵 拡張WAVE Table音源 WAVE Table音源最大64音])	
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ・マイクロホン内蔵	
	サラウンド	3Dポジショナルサウンド	

機種名	VA11J/DF	VA10J/DF	
通信機能	LAN	ワイヤレスLANインターフェイス内蔵 / LAN内蔵 100BASE-TX / 10BASE-T) / なし	
	モデム	なし / モデム内蔵 データ転送速度 最大56kbps(V.90 エラー訂正V.42/MNP4 データ圧縮V.42bis/MNP5)	
	携帯電話 / PHS 接続ケーブル	なし / ケーブル添付 携帯電話:9.6Kbpsデータ通信 / 9.6Kbps・28.8Kbpsパケット通信(DoPa) cdmaOne:14.4Kbpsデータ通信 / 64Kbpsパケット通信(PacketOne) PHS(NTTドコモ / アステル):32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.0) PHS(DDIポケット):32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.1)	
	FAX	なし / 内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17 FAX制御クラス1))	
	Bluetooth™機能	なし / Bluetooth™1.1準拠	
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな) Fnキー(ホットキー対応) 12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付	
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備(スクロールスライドスイッチ付)	
補助記憶装置	フロッピーディスクドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ×1内蔵 720K/1.2M ³ /1.44Mバイトタイプの3モードに対応)	
	固定ディスクドライブ ⁴	内蔵(約15Gバイト / 約20Gバイト / 約30Gバイト)	
	セカンドハードディスク ⁴	約15Gバイト / 約20Gバイト / 約30Gバイト	
	CD-ROMドライブ・ CD-R/RWドライブ ⁵ ・ CD-R/RW with DVD- ROMドライブ ⁵	なし / あり ・CD-ROMドライブの場合: CAV方式、CD-DA(オーディオCD)、CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE2 (FORM1/2)、マルチセッション対応 最大24倍速(平均17倍速)、データ転送速度はCD-ROMの最内周で10.3倍速、最外周で24倍速 ・CD-R/RWドライブの場合: 読み込み最大24倍速(CD-RWは最大14倍速)、書き込み最大8倍速、書き換え最大8倍速(High Speed CD-RW媒体使用時) / 4倍速(従来のCD-RW媒体使用時) ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブの場合: 読み込み最大24倍速(CD-ROM) / 8倍速(DVD-ROM)、書き込み最大8倍速、書き換え最大4倍速	
	インターフェイス	マウス / テンキーボード(PS/2タイプミニDIN6ピン)、パラレル D-SUB25ピン)、シリアル D-SUB9ピン、最高115.2Kbps対応)、ディスプレイ(アナログRGBセパレート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、赤外線通信(IrDA規格準拠、データ転送速度4Mbps)、IEEE1394(4ピン)×2、USB×2、ビデオ出力(S-Video×1)	
	サウンド関連	ヘッドホン出力 / ライン出力共用(ステレオ、ミニジャック) マイク入力(モノラル、ミニジャック) マイク入力インピーダンス2.2k Ω 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms	
PCカードスロット	TYPE ² ×2スロット(TYPE ¹ ×1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠、CardBus対応		
パワーマネージメント	自動または任意設定可能		
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(別売のセキュリティケーブルを使用)、I/Oロック機能、ハードディスクのパスワード機能		
	暗証番号ボタン	なし / あり	
	指紋認証機能	なし / あり	

機種名	VA11J/DF	VA10J/DF
バッテリー駆動時間 (JEITA準拠 ¹⁰) ⁶	ニッケル水素バッテリーの場合:約1.0~2.0時間(約1.7時間) リチウムイオンバッテリーの場合:約2.5~3.5時間(約3.0時間) セカンドバッテリーパックの場合:約1.8~3.0時間(約2.4時間)	
バッテリー充電時間 ⁶	ニッケル水素バッテリーの場合:約2.5時間 リチウムイオンバッテリーの場合:約3.0時間 セカンドバッテリーパックの場合:約2.8時間	
バッテリーによるスタンバイ状態保持時間 ⁶	約3日(バッテリーフル充電時)	
電源	ニッケル水素バッテリー(DC9.6V、3,800mAh) ⁷ 、リチウムイオンバッテリー(DC14.4V、3,800mAh) ⁷ 、セカンドバッテリーパック(DC14.4V、3,100mAh) ⁷ またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由) ⁸	
消費電力	約2.5W (内蔵オプション最大接続時 約60W)	約2.4W (内蔵オプション最大接続時 約60W)
温湿度条件	5~35、20~80% (ただし、結露しないこと)	
外形寸法	327(W)×269.5(D)×40.0~41.5(H)mm	
質量 ⁶	約3.5kg	

- 1 : 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのむらや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
- 2 : パーチャルスクリーンで表示。
- 3 : 3モード対応フロッピーディスクドライバのセットアップが必要です。
- 4 : ディスク容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。
- 5 : Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。
- 6 : 時間や質量は、本機のご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
- 7 : バッテリーパックは消耗品です。
- 8 : ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。日本以外の国で使用する場合は、別途電源コードが必要です。
- 9 : 18~25、45~75%での使用を推奨。
- 10 : JEITAバッテリー動作時間測定法 Ver.1.0に基づいて測定したバッテリー駆動時間です。

機種名	VA86J/DF	VA86J/DX	
CPU	モバイル インテル® Pentium® プロセッサ866MHz-M (拡張版インテル®SpeedStep™ テクノロジ搭載)		
内蔵キャッシュメモリ	32Kバイト		
セカンドキャッシュメモリ	512Kバイト(CPU内蔵)		
メモ リ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)	
	メインRAM	128Mバイト / 192Mバイト / 256Mバイト / 512Mバイト / 1Gバイト (システムバス133MHz対応)	
		最大	1.0Gバイト(別売の増設RAMボード(512Mバイト)を2枚取り付けた場合)
ビデオRAM	8Mバイト		
表示 機能	表示素子 ¹	バックライト付15型TFT カラー液晶ディスプレイ(XGA)	バックライト付14.1型TFT カラー液晶ディスプレイ(XGA)
	グラフィック アクセラレータ	ATI社製MOBILITY™ RADEON™ - M 標準搭載 ビデオアクセラレーション機能対応)	
		800×600ドット(65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(65536色 / 1677万色) ² 1600×1200ドット(65536色 / 1677万色) ²	
	別売のCRTディス プレイ接続時	800×600ドット(65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(65536色 / 1677万色) 1600×1200ドット(65536色 / 1677万色)	
サウ ンド 機能	サウンドチップ	ADI社製 AD1886搭載	
	PCM録音・再生 機能	内蔵 ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/ 16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz) 全二重化対応	
	MIDI音源機能	内蔵 拡張WAVE Table音源 WAVE Table音源最大64音]	
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ・マイクロホン内蔵	
	サラウンド	3Dポジショナルサウンド	

機種名	VA86J/DF	VA86J/DX	
通信機能	LAN	ワイヤレスLANインターフェイス内蔵 / LAN内蔵 100BASE-TX / 10BASE-T) / なし	
	モデム	なし / モデム内蔵 データ転送速度 最大56kbps(V.90 エラー訂正V.42/MNP4 データ圧縮V.42bis/MNP5)	
	携帯電話 / PHS 接続ケーブル	なし / ケーブル添付 携帯電話:9.6Kbpsデータ通信 / 9.6Kbps・28.8Kbpsパケット通信(DoPa) cdmaOne:14.4Kbpsデータ通信 / 64Kbpsパケット通信(PacketOne) PHS(NTTドコモ / アステル):32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.0) PHS(DDIポケット):32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.1)	
	FAX	なし / 内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17 FAX制御クラス1))	
	Bluetooth™機能	なし / Bluetooth™1.1準拠	
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな) Fnキー(ホットキー対応) 12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付	
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備(スクロールスライドスイッチ付)	
補助記憶装置	フロッピーディスク ドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ×1内蔵 720K/1.2M ³ /1.44Mバイトタイプの3 モードに対応)	
	固定ディスクドライブ ⁴	内蔵(約15Gバイト / 約20Gバイト / 約30Gバイト)	
	セカンドハードディスク ⁴	約15Gバイト / 約20Gバイト / 約30Gバイト	
	CD-ROMドライブ・ CD-R/RWドライブ ⁵ ・ CD-R/RW with DVD- ROMドライブ ⁵	なし / あり ・CD-ROMドライブの場合: CAV方式、CD-DA(オーディオCD)、CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE2 (FORM1/2)、マルチセッション対応 最大24倍速(平均17倍速)、データ転送速度 はCD-ROMの最内周で10.3倍速、最外周で24倍速 ・CD-R/RWドライブの場合: 読み込み最大24倍速(CD-RWは最大14倍速)、書き込み最大8倍速、書き換え最大 8倍速(High Speed CD-RW媒体使用時) / 4倍速(従来のCD-RW媒体使用時) ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブの場合: 読み込み最大24倍速(CD-ROM) / 8倍速(DVD-ROM)、書き込み最大8倍速、書き 換え最大4倍速	
	インターフェイス	マウス / テンキーボード(PS/2タイプミニDIN6ピン)、パラレルD-SUB25ピン)、 シリアルD-SUB9ピン、最高115.2Kbps対応)、ディスプレイ(アナログRGBセパ レート信号出力、ミニD-SUB15ピン)、赤外線通信 IrDA規格準拠、データ転送速度 4Mbps) IEEE1394(4ピン)×2、USB×2、ビデオ出力(S-Video×1)	
	サウンド関連	ヘッドホン出力 / ライン出力共用(ステレオ、ミニジャック) マイク入力(モノラル、ミニジャック) マイク入力インピーダンス2.2k 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms	
PCカードスロット	TYPE ×2スロット(TYPE ×1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠、CardBus対応		
パワーマネージメント	自動または任意設定可能		
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(別売のセ キュリティケーブルを使用)、I/Oロック機能、ハードディスクのパスワード機能		
	暗証番号ボタン	なし / あり	
	指紋認証機能	なし / あり	

機種名	VA86J/DF	VA86J/DX
バッテリー駆動時間 (JEITA準拠 ¹⁰) ⁶	ニッケル水素バッテリーの場合:約1.0~2.0時間(約1.7時間) リチウムイオンバッテリーの場合:約2.5~3.5時間(約3.0時間) セカンドバッテリーパックの場合:約1.8~3.0時間(約2.4時間)	
バッテリー充電時間 ⁶	ニッケル水素バッテリーの場合:約2.5時間 リチウムイオンバッテリーの場合:約3.0時間 セカンドバッテリーパックの場合:約2.8時間	
バッテリーによるスタンバイ状態保持時間 ⁶	約3日(バッテリーフル充電時)	
電源	ニッケル水素バッテリー(DC9.6V、3,800mAh) ⁷ 、リチウムイオンバッテリー(DC14.4V、3,800mAh) ⁷ 、セカンドバッテリーパック(DC14.4V、3,100mAh) ⁷ またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由) ⁸	
消費電力	約23W(内蔵オプション最大接続時 約60W)	
温湿度条件	5~35、20~80% (ただし、結露しないこと)	
外形寸法	327(W)×269.5(D) ×40.0~41.5(H)mm	327(W)×269.5(D) ×38.5~40.0(H)mm
質量 ⁶	約3.5kg	約3.4kg

- 1 : 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのむらや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
- 2 : バーチャルスクリーンで表示。
- 3 : 3モード対応フロッピーディスクドライブのセットアップが必要です。
- 4 : ディスク容量は、1G/バイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。
- 5 : Orange Book PartⅡ(CD-R)およびPartⅢ(CD-RW)に準拠。
- 6 : 時間や質量は、本機のご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
- 7 : バッテリーパックは消耗品です。
- 8 : ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。日本以外の国で使用する場合は、別途電源コードが必要です。
- 9 : 18~25、45~75%での使用を推奨。
- 10 : JEITAバッテリー動作時間測定法 Ver.1.0に基づいて測定したバッテリー駆動時間です。

機種名	VA80H/DF	VA80H/DX	
CPU	モバイル インテル® Celeron™ プロセッサ 800MHz		
内蔵キャッシュメモリ	32Kバイト		
セカンドキャッシュメモリ	128Kバイト(CPU内蔵)		
メモ リ	ROM	512Kバイト(BIOSほか)	
	メインRAM	128Mバイト / 192Mバイト / 256Mバイト / 512Mバイト / 1Gバイト (システムバス133MHz対応)	
		最大	1.0Gバイト(別売の増設RAMボード(512Mバイト) 迄2枚取り付けた場合)
	ビデオRAM	8Mバイト	
表示 機能	表示素子 ¹	バックライト付15型TFT カラー液晶ディスプレイ(XGA)	バックライト付14.1型TFT カラー液晶ディスプレイ(XGA)
	グラフィック アクセラレータ	ATI社製MOBILITY™ RADEON™ - M 標準搭載 ビデオアクセラレーション機能対応) 800×600ドット(65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(65536色 / 1677万色) ² 1600×1200ドット(65536色 / 1677万色) ²	
	別売のCRTディス プレイ接続時	800×600ドット(65536色 / 1677万色) 1024×768ドット(65536色 / 1677万色) 1280×1024ドット(65536色 / 1677万色) 1600×1200ドット(65536色 / 1677万色)	
サウ ンド 機能	サウンドチップ	ADI社製 AD1886搭載	
	PCM録音・再生 機能	内蔵 ステレオ、量子化8ビット/16ビット、サンプリングレート8KHz/11.025KHz/ 16KHz/22.05KHz/44.1KHz/48KHz) 全二重化対応	
	MIDI音源機能	内蔵 拡張WAVE Table音源 WAVE Table音源最大64音])	
	スピーカ・マイク	ステレオスピーカ・マイクロホン内蔵	
	サラウンド	3Dポジショナルサウンド	

機種名	VA80H/DF	VA80H/DX
通信機能	LAN	ワイヤレスLANインターフェイス内蔵 / LAN内蔵 100BASE-TX / 10BASE-T) / なし
	モデム	なし / モデム内蔵(データ転送速度 最大56kbps(V.90)エラー訂正V.42/MNP4 データ圧縮V.42bis/MNP5)
	携帯電話 / PHS 接続ケーブル	なし / ケーブル添付 携帯電話:9.6Kbpsデータ通信 / 9.6Kbps・28.8Kbpsパケット通信(DoPa) cdmaOne:14.4Kbpsデータ通信 / 64Kbpsパケット通信(PacketOne) PHS(NTTドコモ / アステル):32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.0) PHS(DDIポケット):32Kデータ通信 / 64Kデータ通信(PIAFS2.1)
	FAX	なし / 内蔵(データ転送速度 最大14.4Kbps(V.17 FAX制御クラス1)
	Bluetooth™機能	なし / Bluetooth™1.1準拠
入力装置	キーボード	本体との一体型、JIS標準配列(英数・かな) Fnキー(ホットキー対応) 12ファンクションキー・Windowsキー・アプリケーションキー・Num Lockキー・右Altキー・右Ctrlキー付
	ポインティングデバイス	NXパッド標準装備(スクロールスライドスイッチ付)
補助記憶装置	フロッピーディスク ドライブ	3.5型フロッピーディスクドライブ×1内蔵 720K/1.2M ³ /1.44Mバイトタイプの3 モードに対応)
	固定ディスクドライブ ⁴	内蔵(約15Gバイト / 約20Gバイト / 約30Gバイト)
	セカンドハードディスク ⁴	約15Gバイト / 約20Gバイト / 約30Gバイト
	CD-ROMドライブ・ CD-R/RWドライブ ⁵ ・ CD-R/RW with DVD- ROMドライブ ⁵	なし / あり ・CD-ROMドライブの場合: CAV方式、CD-DA(オーディオCD) CD-ROM MODE1/2、CD-ROM XA MODE2 (FORM1/2) マルチセッション対応 最大24倍速(平均17倍速) データ転送速度 はCD-ROMの最内周で10.3倍速、最外周で24倍速 ・CD-R/RWドライブの場合: 読み込み最大24倍速(CD-RWは最大14倍速) 書き込み最大8倍速、書き換え最大 8倍速(High Speed CD-RW媒体使用時) / 4倍速(従来のCD-RW媒体使用時) ・CD-R/RW with DVD-ROMドライブの場合: 読み込み最大24倍速(CD-ROM) / 8倍速(DVD-ROM) 書き込み最大8倍速、書き 換え最大4倍速
	インターフェイス	マウス / テンキーボード(PS/2タイプミニDIN6ピン) / 平行(D-SUB25ピン) / シリアル(D-SUB9ピン、最高115.2Kbps対応) / ディスプレイ(アナログRGBセパ レート信号出力、ミニD-SUB15ピン) / 赤外線通信(IrDA規格準拠、データ転送速度 4Mbps) / USB×2、ビデオ出力(S-Video×1)
	サウンド関連	ヘッドホン出力 / ライン出力共用(ステレオ、ミニジャック) マイク入力(モノラル、ミニジャック) マイク入力インピーダンス2.2k 入力レベル5mVrms(バイアス2.5V) ライン出力レベル1Vrms
PCカードスロット	TYPE ×2スロット(TYPE ×1スロットとしても使用可) PC Card Standard準拠、CardBus対応	
パワーマネージメント	自動または任意設定可能	
セキュリティ機能	ユーザパスワード機能、スーパーバイザパスワード機能、盗難防止用ロック(別売のセ キュリティケーブルを使用) / I/Oロック機能、ハードディスクのパスワード機能	
	暗証番号ボタン	なし / あり
	指紋認証機能	なし / あり

機種名	VA80H/DF	VA80H/DX
バッテリー駆動時間 (JEITA準拠 ¹⁰) ⁶	ニッケル水素バッテリーの場合:約1.0~2.0時間(約1.7時間) リチウムイオンバッテリーの場合:約2.5~3.5時間(約3.0時間) セカンドバッテリーパックの場合:約1.8~3.0時間(約2.4時間)	
バッテリー充電時間 ⁶	ニッケル水素バッテリーの場合:約2.5時間 リチウムイオンバッテリーの場合:約3.0時間 セカンドバッテリーパックの場合:約2.8時間	
バッテリーによるスタンバイ状態保持時間 ⁶	約3日(バッテリーフル充電時)	
電源	ニッケル水素バッテリー(DC9.6V、3,800mAh) ⁷ 、リチウムイオンバッテリー(DC14.4V、3,800mAh) ⁷ 、セカンドバッテリーパック(DC14.4V、3,100mAh) ⁷ またはAC100V±10%、50/60Hz(ACアダプタ経由) ⁸	
消費電力	約23W(内蔵オプション最大接続時) 約60W)	
温湿度条件	5~35℃、20~80%RH(ただし、結露しないこと)	
外形寸法	327(W)×269.5(D) ×40.0~41.5(H)mm	327(W)×269.5(D) ×38.5~40.0(H)mm
質量 ⁶	約3.5kg	約3.4kg

- 1 : 液晶ディスプレイは消耗品です。液晶ディスプレイでは、明るさのむらや、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。また、輝度の調節具合、表示モードと表示データの組み合わせによってはムラやちらつき、微細な斑点が現れることがありますが、故障ではありません。
- 2 : パーチャルスクリーンで表示。
- 3 : 3モード対応フロッピーディスクドライブのセットアップが必要です。
- 4 : ディスク容量は、1Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。OSから認識できる容量は、実際の値より少なく表示されることがあります。
- 5 : Orange Book Part2(CD-R)およびPart3(CD-RW)に準拠。
- 6 : 時間や質量は、本機のご利用状況やオプションの接続により変わる場合があります。
- 7 : バッテリーパックは消耗品です。
- 8 : ACアダプタ自体は、入力電圧AC240Vまでの安全認定を取得していますが、添付の電源コードはAC100V用(日本仕様)です。日本以外の国で使用する場合は、別途電源コードが必要です。
- 9 : 18~25℃、45~75%RHでの使用を推奨。
- 10 : JEITAバッテリー動作時間測定法 Ver.1.0)に基づいて測定したバッテリー駆動時間です。

内蔵FAXモデム機能仕様

内蔵FAXモデム機能は、FAXモデム内蔵モデルのみの機能です。

機能概要

CPU I/F	PCIローカルバスインターフェイス
NCU部	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイヤルパルス送出機能 ・リンガ検出機能
モデムチップセット部	<ul style="list-style-type: none"> ・115.2Kbpsまでのデータ・モデム・スループット V.90 V.34 V.32bis V.32、V.22bis、V.22、V.21 V.42LAPMおよびMNP2-4エラー訂正 V.42bisおよびMNP5データ圧縮 ・最高14.4Kbpsのファクス・モデム送受信速度 V.17、V.29、V.27ter、V.21チャンネル2 ・HayesATコマンドセット準拠 ATコマンド Sレジスタ ・回線品質モニタリングおよびオートリトレイン ・受信ライン信号品質に基づく自動ライン・スピード選択 ・フロー制御およびスピード・バッファリング ・パラレル非同期データ ・自動ダイヤルおよび自動アンサー ・トーンおよびパルスダイヤリング (DTMFトーン、ダイヤルパルス制御)

FAX機能

項目	規格
交信可能ファクシミリ装置	ITU-T G3ファクシミリ装置
適用回線	加入電話回線
同期方式	半二重調歩同期方式
通信速度	14400/12000/9600/7200/4800/2400/300bps
通信方式	ITU-T V.17/V.29/V.27ter/V.21ch2
変調方式	TCM: 14400/12000bps
	QAM: 9600/7200bps
	DPSK: 4800/2400bps
	FSK: 300bps
送信レベル	-9 ~ -15dBm(出荷時-15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	EIA-578拡張ATコマンド(CLASS 1)

: 回線状態によって通信速度が変わる場合があります。

データモデム機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
同期方式	全二重調歩同期方式
通信速度	送受信 33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/16800/ 14400/12000/9600/7200/4800/2400/1200/300bps ¹ 受信 56000/54666/52000/50666/49333/48000/46666/45333/ 44000/42666/41333/40000/38666/37333/36000/34666/33333/ 32000/30667/29333/28000bps ¹
通信規格	ITU-T V.90/V.34/V.32bis/V.32/V.22bis/V.22/V.21
変調方式	PCM:56000/54667/52000/50667/49333/46667/45333/42666/ 41333/40000/38667/37333/36000/34667/33333/32000/30667/ 29333/28000bps TCM:48000/33600/31200/28800/26400/24000/21600/19200/ 16800/14400/12000/9600/7200/4800/2400bps QAM:9600/4800/2400/1200bps DPSK:1200bps FSK:1200/300bps
エラー訂正	ITU-T V.42(LAPM) MNP class4
データ圧縮	ITU-T V.42bis MNP class5
送信レベル	-9 ~ -15dBm(出荷時-15dBm)
受信レベル	-10 ~ -40dBm
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 ²

1: 回線状態によって、通信速度が変わる場合があります。

2: ATコマンドについては、以下のファイルを参照

C:\¥Windows¥SComodem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

NCU機能

項目	規格
適用回線	加入電話回線
ダイヤル形式	パルスダイヤル(10/20PPS) (内蔵モデムのみモデル) パルスダイヤル(10PPS) (LAN内蔵モデル) トーンダイヤル(DTMF)
NCU形式	AA(自動発信/自動着信型)
制御コマンド	HayesATコマンド準拠 EIA-578拡張ATコマンドAT(class 1)

携帯電話 / PHS接続機能

携帯電話 / PHS接続機能は、別売の携帯電話 / PHS接続ケーブルを別途購入された場合のみ使用できます。

個別仕様

種類	項目	規格
PHS(NTTドコモ / アステル)接続ケーブル	適用回線	移動電話回線 (PHS後位16芯)
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信: 29.2Kbps(実効値)
		PIAFS 64Kデータ通信: 58.4Kbps(実効値)
PHS(DDIポケット)接続ケーブル	適用回線	移動電話回線 (PHS後位12芯)
	通信速度	PIAFS 32Kデータ通信: 29.2Kbps(実効値)
		PIAFS 64Kデータ通信: 58.4Kbps(実効値)
携帯電話 (DoPa/PDC)接続ケーブル	適用回線	移動電話回線 (PDC5式携帯電話端末後位16芯)
	通信速度	9.6Kbps(データ通信) 9.6Kbps(パケット通信) 28.8Kbps(パケット通信)
cdmaOne接続ケーブル	適用回線	移動電話回線 (CDMA方式携帯電話端末後位18芯)
	通信速度	14.4Kbps(データ通信) 64Kbps(パケット通信)

共通仕様

項目	規格
制御コマンド	ATコマンド
網制御機能	A A

:ATコマンドについては、以下のファイルを参照

C:¥Windows¥SModem¥Atc¥Html¥Atc000.HTM

内蔵LAN機能仕様

内蔵LAN機能は、LAN内蔵モデルのみの機能です。

規格概要

項目	規格概要
準拠規格	ISO 8802-3、IEEE802.3、IEEE802.3u
ネットワーク形態	スター型ネットワーク
伝送速度	100BASE-TX使用時:100Mbps 10BASE-T使用時:10Mbps
伝送路	100BASE-TX使用時:UTPカテゴリ5 10BASE-T使用時:UTPカテゴリ3、4、5
信号伝送方式	ベースバンド伝送方式
ステーション台数	最大1024台 / ネットワーク
ステーション間距離 ネットワーク経路長	100BASE-TX:最大約200m / ステーション間 10BASE-T:最大約500m / ステーション間 最大100m / セグメント
メディアアクセス制御方式	CSMA / CD方式

:リピータの台数など、条件によって異なります。

割り込みレベルとDMAチャンネル

パソコンで使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル(IRQ)」「DMAチャンネル」などがあります。

割り込みレベルとDMAチャンネルについて

パソコンで使用できる周辺機器は、すべて「リソース」というものを使用しています。リソースには、大きく分けて「割り込みレベル(IRQ)」「DMAチャンネル」などがあります。

これらのリソースは、それぞれの機器ごとに違う設定をしなければなりません。リソースが複数の機器に割り当てられている状態(リソースの競合)では、機器が正常に使用できないばかりか、システム全体の動作も不安定になってしまいます。

割り込みレベル

「割り込みレベル(IRQ)」は、複数の機器から同時にCPUにアクセスしたときに、どのような順序で処理していくかを定めるものです。本機では、購入時には次のように割り当てられています。

IRQ	インターフェイス	IRQ	インターフェイス
0	システムタイマ	6	フロッピーディスクコントローラ
1	キーボード	7	(空き)
2	割り込みコントローラ	8	システムクロック
3	(空き) ¹	9	SCI IRQ
4	通信ポート	10	USBホストコントローラ
5	USBホストコントローラ アクセラレータ 内蔵FAXモデム ² IEEE1394ホストコントローラ サウンド CardBusコントローラ 内蔵LANインターフェイス またはワイヤレスモジュール ³	11	(空き)
		12	NXパッド
		13	数値データプロセッサ
		14	プライマリIDEコントローラ
		15	セカンダリIDEコントローラ

1: 赤外線通信機能または内蔵指紋センサ使用時には通信ポートに割り当てられます(赤外線通信機能と内蔵指紋センサを同時に使用することはできません)。

2: FAXモデム内蔵モデルのみ。

3: LAN内蔵モデルまたはワイヤレスLAN(無線LAN)モデルのみ。

DMA チャンネル

「DMAチャンネル」は、CPUを経由せずに周辺機器とメモリとのデータのやり取りを制御する機能のことです。本機では、購入時には次のように割り当てられています。

DMA	インターフェイス		
	デフォルト	プリンタポートをECPで 使用する場合	更にIRを使用する場合
#0	(空)		
#1	(空)		IR
#2	フロッピーディスクコントローラ		
#3	(空)	ECP	
#4	DMAコントローラ		



索引

索引

英字

- 100BASE-TX 91
- 10BASE-T 91
- BIOSセットアップメニュー 5, 142
- Bluetooth™機能 99
- CD-ROMドライブ 16, 40
- CD-R/RWドライブ 16, 40
- CD-R/RW with DVD-ROMドライブ .. 16, 40
- CRTディスプレイ 115
- DCコネクタ 17
- DMAチャンネル 173
- 【Fn】(エフエヌキー) 26, 27
- IEEE1394コネクタ 17, 103, 128
- LAN 91, 171
- LAN用モジュラーコネクタ 17, 92
- MultiBay 103, 134
- MultiBayアンロック 16, 135
- NXパッド 16, 29, 113
- NXパッドドライブ 31
- PCカード 119
- PCカードイジェクトボタン 17, 119
- PCカードスロット 17, 103, 119
- PS/2互換マウス 113
- StandbyDisk 37
- S映像出力端子 17, 103, 117
- USB 136
- USBコネクタ 17, 103, 136
- USBマウス 111
- VersaBay IV 103, 131
- VersaBay IVアンロック 18, 132

あ行

- アクセスランプ 20
- アクセスランプ(CD-ROMドライブ・
CD-R/RWドライブ・CD-R/RW with
DVD-ROMドライブ) 40
- 暗証番号ボタン 16, 72
- インターネット設定切替ツール 86

- 液晶ディスプレイ 16, 42
- お手入れ 154
- 音量調節つまみ 16

か行

- 解像度 43, 44
- 外部CRT用コネクタ 17, 103, 116
- 外部ディスプレイ 115
- 外部マイクロホン端子 16, 103
- 画面表示の調整 42
- 輝度 42
- 起動の設定 152
- キーボード 16, 25
- キャップスロックキーランプ 20
- 休止状態 57, 60
- 休止状態から復帰 61
- クライアントモニタリング 94
- クリック 29
- クリックボタン 29
- 携帯電話 / PHS接続機能 87, 170

さ行

- サウンド機能 79
- サスペンド 57, 59
- 指紋認証機能 72
- 充電 49
- 周辺機器 104, 107
- 省電力機能 57
- シリアルコネクタ 17, 103, 140
- シリアルマウス 113
- スーパーバイザパスワード 66, 149
- スクロールスライドスイッチ 29, 30
- スクロールロックキーランプ 21
- スタンバイ状態 57, 59
- スタンバイ状態から復帰 60
- スピーカ 16
- スリープ状態 57
- セカンドハードディスク 37

セカンドバッテリーパック	56
赤外線通信機能	75
赤外線通信ポート	16, 76
セキュリティ機能	65
増設RAM ボード	122

た行

タイマ機能	64
ダイヤル設定	82, 88
タップ	29
ダブルクリック	29
デバイスドライバ	106
デバイス マネージャ	5
デュアルディスプレイ	46
テレビ	117
テンキーボード	139
電源スイッチ	16
電源の自動操作	64
電源ランプ	19
電話回線用モジュラーコネクタ	17, 82
盗難防止用ロック	17, 74
ドライバ	106
ドラッグ	29

な行

内蔵指紋センサ	72
内蔵マイクロホン	16
ニューメリックロックキーランプ	21
ネットワークブート	94

は行

バーチャルスクリーン	45
ハードディスク	34
ハードディスクのパスワード	68, 150
ハードディスクのメンテナンス	37
ハイパネーション	57, 60
パスワード	65
バッテリーアンロック	18, 55
バッテリー残量	50

バッテリー充電ランプ	20, 50
バッテリーのメモリ効果	51
バッテリーパック	18, 55
バッテリーパックの交換	53
バッテリーリフレッシュ	51
パラレルコネクタ	17, 103, 109, 140
非常時ディスク取り出し穴	40
ビデオ変換ケーブル	117
表示色	43, 44
表示ランプ	16, 17, 19
フォーマット	34, 37
復帰	57, 60
プラグ&プレイ	106
プリンタ	109
プロジェクト	116
フロッピーディスクアクセスランプ	20
フロッピーディスクイジェクトボタン	38
フロッピーディスクドライブ	16, 38
ヘッドホン / オーディオ出力端子	16, 103
ポインタ	29
ホットキー機能	27
ボリュームコントロール	79

ま行

マウス	111
マウス / テンキーボード用コネクタ	17, 103, 140
マスタパスワード	69
右クリック	29
メモリ	122
メモリスロット	18, 103, 124
メール着信ランプ	20
モデム	81, 168

や行

ユーザパスワード	66, 69, 149
ユニバーサル管理アドレス	93

ら行

リソースの競合	105
---------	-----

リモートパワーオン機能	64, 95
領域の確保	34, 37
リング機能	64
レジューム	57, 60
ロックレバー	16

わ行

ワイヤレスLAN(無線LAN)機能	98
ワイヤレスランプ	16, 21
ワイヤレスリンク	77
割り込みレベル	172
ワンタッチスタートボタン	16, 22



活用ガイド

ハードウェア編

PC98-**NX** SERIES

VersaPro

VA12J/DG・VA11J/DF
VA10J/DF・VA86J/DF
VA86J/DX・VA80H/DF
VA80H/DX

初版 2001年11月

NEC

P

853-810028-213-A